語法指南（日本文典摘錄）

假名音

○五十音圖　平假名　片假名

五十音圖

平假名

	阿行	加行	左行	多行	奈行	波行	末行	也行	良行	和行
阿段	あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ
以段	い	き	し	ち	に	ひ	み	い	り	ゐ
宇段	う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	ゆ	る	う
衣段	え	け	せ	て	ね	へ	め	え	れ	ゑ
於段	お	こ	そ	と	の	ほ	も	よ	ろ	を

片假名

ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
ヰ	リ	イ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
ウ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
ヱ	レ	エ	メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
ヲ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ

あ、い、う、え、おノ縱ノ行ヲ阿行ト名ツケ、か、き、く、け、こノ行ヲ加行ト名ツク、其以下、左行、多行、奈行、波行、末行、也行、良行、和行、皆、之ニ倣ヘ、

あ、か、さ、た、な、は、ま、や、ら、わノ横ノ段ヲ阿段ト名ツケ、い、き、し、ち、に、ひ、み、い、り、ゐ段ヲ伊段ト名ツク、以下、宇段、衣段、於段、皆、之ニ倣ヘ、

假名ニ、變體ノモノモ多ケレド、此ニハ畧ス、

○單音、母韻、發聲、熟音　阿行ノ五音ハ、喉ヨリ單一ニ出ヅ、コレヲ單音ト名ヅク。加行以下、九行ノ諸音ハ其行毎ニ、各、其音ヲ呼ビ發ス一種ノ聲アリテ、コレヲ發聲(Consonant.)ト名ヅケ、單音、ソノ韻トナリ、發聲ト單音ト、相熟シテ、始メテ音ト成ル、此ノ故ニ、加行以下ノ九行四十五音ヲ、熟音(Syllable.)ト名ヅク。單音ハ、斯ク發聲ノ韻トモナルガ故ニ、亦、母韻(Vowel.)ノ稱アリ。

○單音、熟音、又ハ、發聲(子韻トモイフモノ)ノ名稱、及ビ、假名ト洋字トノ發聲、母韻ノ辨、委シクハ文典ニ讓ル。

○發聲ノ、喉、舌、齒、鼻等ニ關スル解モ、辭書ニ用ナケレバ、此ニ畧ス。

五十音圖ノ中ニ、阿行ノい、う、えト、也行ノい、えト、和行ノうト、同形ノ字、重出ス。此ノ各二音ハ、各、甚ダ相近ケレバ、古來、字ヲ相通ハシテ用ヰ來レリ。サレド、阿行ナルハ、單音ニテ、也行、和行、ナルハ、別ニ、其各行ノ發聲アル熟音ナレバ、各、相異ナルベキ理アリト知ルベシ。(其證例ノ委シキヿハ、文典ニ讓レリ)

又、今世口語ノ發音ニテハ、和行ノゐ、ゑハ、其發聲、默シテ、韻ノミ發シ、單音ノい、えニ異ナラズ。然レドモ、古ヘハ、明ニ其發音ヲ別テリ、サレバコソ、別ニ、其假名モアルナレ。

半母韻　然レドモ、也行ノ音ノ發聲ハ、甚ダ單音ノいニ似テ、和行ノ音ノ發聲ハ、甚ダ單音ノうニ近ク、更ニコレニ母韻ヲ添ヘテ、二母韻、相重ナリテ發スルモノノ如シ、サレバ、拗音ノきゃ、きゅ、きょ、くわ等(下ニ詳ナリ)ノ韻トモナル。此故ニ、也行、和行ノ音ヲ、半母韻(Semi vowel.)トモ名ヅク。

○鼻聲、促聲　五十音ノ外ニ、二ツノ聲アリ、ん(平假名)ン(片假名)ト、つ(平假名)ツ(片假名)トナリ。んハ、鼻ヨリ出デテ、撥ヌルガ如キ聲ナレバ、鼻聲ト名ヅク、此聲、獨リ出デズ、必ズ、他ノ音ノ下ニ附キテ出ヅ、ねんざん(懇)ぬきんづ(抽)ぶんてん(文典)ノ如シ。つハ、口ニ促マルガ如クシテ出ヅル聲ナレバ、促聲ト名ヅク、此聲モ、獨リ發

スルヿ能ハズ、必ズ、他ノ二音ノ間ニ挾マリテ發ス、もづこも(最)うづたへ(訴)まづたし(全)ノ如シ。此つ、ツハ、多行ノ音ノつ、ツト、形、相似タレド、其聲、全ク異ナリ、右肩ニ標シテ、コレヲ分ツ。

○濁音、半濁音　五十音ノ外ニ、又、一種ノ熟音アリ、コレヲ濁音、及ビ、半濁音トイフ、是亦、其各行ニ、一種ノ發聲アリテ、母韻ト相熟シテ發ス。然レドモ、之ヲ記スベキ假名ナクシテ、濁音ハ、他ノ假名ノ右肩ニ、二點ヲ加ヘテ用ヰル、其數、二十アリ。半濁音ハ、圈點ヲ加ヘテ用ヰル、其數、五ツアリ。左ノ如シ。

濁音	加行	が、ぎ、ぐ、げ、ご	左行
	多行	だ、ぢ、づ、で、ど	波行
半濁音	波行	ぱ、ぴ、ぷ、ぺ、ぽ	

濁音、半濁音、ニ對シテ、標點ナキ時ノ假名ノ音ヲ、清音トイフ。濁音ヲ發スルヲ、「濁ル」トイヒ、ソレヨリシテ、清音ヲ發スルヲ、「清ム」トイフ。

濁音、半濁音ニ、本濁ト、連濁ト、ノ別アリ。本濁トハ、此音ノ自然ニ發スルモノナリ、みづ(水)かぜ(風)にじ(虹)はんや(斑枝花)ノ如シ。連濁トハ、二語、相連ルトキ、下ノ語ノ、此音ニ變ズルコトアルニイフ、即チ、やま(山)ト、かは(川)ト、連レバ、やまがは、トナリ、さと(里)ト、びと(人)ト、連レバ、さとびと、トナリ、おもひ(思)ト、ばかる(量)ト、連レバ、おもんばかる、トナルガ如シ。

今世ノ口語ニテハ、濁音ノぶ、ず、ト、ぢ、づ、ト、別無クナレリ。然レドモ、其相異ナルベキ理ハ、其同行中ノ他ノ音ノ發聲ニ比シテ知ルベシ。(今モ、四國、九州、邊ニハ、其別ヲ存セリ)

○拗音　拗音(エウオン)モ、亦一種ノ熟音ニシテ、亦、清濁アリ。此音モ、記スニ字無クシテ、假名二字ヲ連ヲ用ヰテ記ス。尋常ニ記スモノ、下ノ如シ。

此拗音ノ「きゃ、きゅ、きょ」「ぎゃ、ぎゅ、ぎょ」「しゃ、しゅ、しょ」「じゃ、じゅ、じょ」等ト相對セシメテ「か、く、こ」「が、ぐ、ご」又ハ「さ、す、そ」「ざ、ず、ぞ」等ノ音ヲ、直音ト稱ス。（其他ハ準ヘテ知ルベシ）拗音ハ、發聲ト、半母韻ト、相合シテ成ル、而シテ、其各行ノ發聲ハ、其直音ノ發聲ニ同ジ。此音ハ、二字相連ヲテ寫スガ故ニ、書記ノ上ニテ、動モスレバ、直音ノ二字ナルト、紛ヒ易シ、因テ、字間ノ右旁ニ、小線ヲ付シテ別ツ、いし-や、（石屋）い-しゃ、（醫者）ノ如シ。

○以上、鼻聲、促聲、濁音、拗音ノ事ニ就キテハ、古今ニ變アリ、中外ノ音ニ異ナル所アリ、且、假名ノ成形等ニ至リテモ、大ニ辨ズベキ事アレド、辭書ニ用無ケレバズベテ略セリ。

○轉呼音　假名ヲ、其本分ノ音ニ呼バズシテ、他ノ音ニ轉呼スルコトアリ、コレヲ轉呼音（ヲンコオン）トス。

○はノ假名ヲ記シテ、わノ如ク轉ジテ呼ブヿアリ。又、ひ、ふ、へ、ほヲ記シテ、い、う、え、おノ如ク呼ブヿアリ、是ハ、發聲、默シテ、母韻ノミ、發スルナリ。此轉呼音ハ、他ノ音ノ後ニアリテ發ス、開口ニ發スルコトナシ。

いは（岩）　いひ（飯）　くふ（食）　うへ（上）　かほ（顏）
くは（桑）　かひ（貝）　すふ（吸）　はへ（蠅）　ほほ（頰）
あはし（淡）　あたひ（價）　ゆふべ（夕）　かなへ（鼎）　ほのほ（焰）
かはら（變）　たひら（平）　あやふし（危）　かへる（歸）　おほし（多）

（餘ハ畧ス）

加行　きゃ　きゅ　きょ
ぎゃ　ぎゅ　ぎょ
左行　しゃ　しゅ　しょ
じゃ　じゅ　じょ
多行　ちゃ　ちゅ　ちょ
ぢゃ　ぢゅ　ぢょ
奈行　にゃ　にゅ　にょ
波行　ひゃ　ひゅ　ひょ
びゃ　びゅ　びょ
ぴゃ　ぴゅ　ぴょ
末行　みゃ　みゅ　みょ
良行　りゃ　りゅ　りょ
和行　くわ
ぐわ

○阿段ノ音、衣段ノ音ハ、(清、濁、共ニ)下ニ、う、又ハ、ふ(轉呼音ノ)ヲ承クレバ、於段ノ音ノ如ク轉呼スルアリ、是ハ、發聲ヲ存シテ、母韻ヲ變フルナリ。此轉呼音、開口ニモ發シ、他ノ音ノ後ニテモ發ス。左ノ如シ。

あうむ(鸚鵡)　あふみ(近江)　……　えう(要)　えふ(葉)
かうべ(首)　さかふ(逆)　きやう(京)　けうし(教師)　けふ(今日)
さうし(草紙)　さふらふ(候)　ぎやう(性)　せうと(兄人)　せふ(妾)
たうげ(峠)　たふとし(貴)　ちやう(町)　てうづ(手水)　てふ(下云)
ふう(腦)　そふふ(備)　……　ねうはち(鐃鈸)　……
はうむる(葬)　はふ(法)　ひやう(評)　へう(瓢)　……
まうす(申)　まふ(舞)　みやう(明)　めうが(茗荷)　……
やうか(八日)　……　……　……　……
らう(牢)　さらふ(捕)　りやう(兩)　れうり(料理)　うれふ(憂)
わう(王)　……　くわう(光)　……　あふ(醉)

○其委シキコトハ文典ニ讓ル、尙、後ノ索引指南ノ條ヲ見ヨ。

連聲　又、む、及ビ、つ(音便ニテ促聲ト爲リ)ぬ(音便ニテ鼻聲ト爲リ)ノ音ハ、其發聲ヲ、下ニ來レル他ノ母韻、又ハ、半母韻、ト合ハセテ、轉呼セシムルヿアリ、コレヲ連聲トイフ。

さむ〜ね(三位)　おむ〜やう〜ぢ(陰陽師)　せつ〜おん(舌音)
ほつ〜い(發意)　けつ〜いん(厥陰)　けつ〜えき(闕腋)

せん-あく(善惡)　きん-あん(銀杏)　えん-いん(延引)　うん-うん(云云)
いん-えん(因緣)　まん-えふ(萬葉)　くわん-おん(觀音)　とん-よう(算用)
げん-わ(元和)　ふん-わう(親王)　つん-ゐ(輪廻)　あん-ゐん(安穩)

又、き、く、ノ音ヲ、促聲ノ如ク轉呼スルアリ、亦、連聲ナリ。

せき-けう(石橋)　せき-かう(石膏)　せき-ふく(石斛)
はく-か(薄荷)　かく-け(脚氣)　かく-かう(學校)　にく-けい(肉桂)

○轉呼音ハ、元ト、一種ノ音便(オンビン)ナルベケレド、書ニ筆スル上ニテ、音便ハ、音ヲ變フレバ字ヲモ變フルニイヒ、轉呼音ハ、音ヲ變フレド字ヲ變ヘヌニイフ、是レ、相異ナル所ナリ、

○右ノ外ニ、通音、通韻ノ事、音便ニ、聲音ノ延、約、略、加、轉、等ノ事アリ。然レドモ、是等ハ、音ヲ變フレバ、字ヲモ變ヘテ記スモノニテ、各一個ノ語ト見做スベク、即チ、辭書ニハ、各自ニ掲ゲ出スモノナルニ、今、其理由ノミ說カムモ、不用ナルベシ、因テ、爰ニハ略セリ、

○漢字ノ字形、音韻等ノ事、一切不用ナレバ、畧セリ。

言語

此篇ニハ、八品詞ノ目ヲ、名詞、動詞、形容詞、助動詞、副詞、接續詞、天爾遠波(テニヲハ)、感動詞、ト立テタリ。此他ニ、接頭語、(Prefix.)接尾語、(Suffix.)アリ、又、國語ニ、一種特別ナル發語、枕詞アリ、次ヲ逐ヒテ說クベシ。

國語ノ代名詞、數詞ハ、文中ニアリテ、其位置用法、正ニ名詞ト異ナラザレバ、名詞ニ附屬スベキモノナリ。又、國語ノ形容詞ハ、語尾ノ變化モアリ、法(Mood.)モアリテ、文章ノ末ヲモ結ブコト、恰モ動詞ノ如ク、西洋ノ形容詞トハ、甚ダ異ナルモノナリト知ルベシ。又、助動詞モ、語尾ノ變化ヲモ法ヲモ具ヘテ、而シテ、其狀ノ動

詞ノ如キアリ、形容詞ノ如キアリ、サレバ、固ヨリ、舊說ノ如ク、天爾遠波ノ中ニ混セシムベキニアラズ、サレバトテ、コレヲ動詞ニ附屬セシメ難キコトモアリ、因テ獨立セシメタリ。分詞ハ、動詞ノ法ノ中ニアリ。洋語ノ前置詞トイフモノ、我ニアリテハ、多クハ名詞ノ後ニアリテ、位置正ニ相反セリ、卽チ、名詞ノ後ニ付ベキ同趣ノ語ト共ニ、天爾遠波ノ中ニアリ。國語ニ冠詞無シ。

洋語ニ、名詞ノ格(Case.)トイフモノ、我ガ、が、の、よ、を等ニ當ルガ如クナレドモ、我ガ、が、の、よ、を等ハ、同語ノ上ニ、所用ノ場合ニ因リテ、種種ノ意義ヲ起シ、彼ノ謂ハユル格ニ當ルモアリ、當ラヌモアリ、サレバ、が、の、よ、を等ヲ取リテ、概シテ格ナリト定ムベキニアラズ、故ニ、天爾遠波トテ、別ニ一門ニ立ツナリ。

又、我カ名詞、代名詞ニハ、洋語ニ謂ハユル男女中ノ性(Gender.)無シ。又、單複ノ數(Number.)モ、種種ノ接頭語、接尾語、ナド添ヘ、或ハ、同語ヲ重ネナドシテ、其別ヲ示スコトナキニシモアラネド、各語ノ用法、區區ニシテ、サラニ一定ノ通則ナク、又、區別セズシテモ、前後ノ文勢ニテ、單複ヲ意解シ、且、區別シテモ、コレニ應ズル動詞、形容詞等ニ、其影響ヲ及ボスコトナシ、故ニ特ニ說クコトヲ要セズ。動詞、形容詞ニモ、性モ、數モ、人稱(Person.)モ、無シ。

○一箇ノことば(Word.)ニ、名詞、動詞ナドイフ如ク、詞ノ字ヲ當ツルハ妥當ナラズ、從來、體言、用言、ナド呼ベル言ノ字、正ニ相當レリ、サレド、今ハ姑ク本文ノ如シ。

名詞(體言)

名詞ハ、有形無形ノ事物ノ名稱ヲイフ語ナリ。例ヘハ、日、月、牛、馬、聲、色、黑、白、禍、福、憂、樂等ノ如シ。其中ニ、人名、地名、其他、一事一物ニ限レル名稱ヲバ、固有名詞ト名ツク、賴朝、義經、池月、磨墨、髭切、膝丸、武藏、相模、富士、利根等ノ如シ。コレニ對シテ、固有ナラヌ其他ノ一切ノ名詞ヲ、普通名詞トイフ。

○普通、固有、ノ別、英語ノ如キハ、書記ノ上ニ、頭字ヲ用ヰルト、用ヰサルト、ナドノ定メアレド、國語ニテハ、サル事モ無シ。但シ、辭書ノ採集ニ區別シ、又、地名、姓氏等ニ、(松林、遠山ナド)普通ト紛レ易キモノナドモアレバ、注意シテハアルベキナリ。

○國語ノ名詞ニハ、洋語ノ如キ男、女、中ノ性モ無ク、單複數ノ別ニモ、一定ノ則無ク、又名詞ノ格トイフモノノ意義モ別ニ天爾遠波アリテ、其語ニ存スレバ、本文

ノ外ニハ、別ニ説ベキ事ナシ。但シ、熟語トナルトキ、希ニ、其語尾、或ハ、全體ヲ變ズル者アリ、たけ・むら(竹叢)ノたか・むらトナリ、ふねはた(舟端)ノふなはたトナリ、きかげ(樹陰)ノこかげトナルガ如シ、然レドモ、斯ク變ズル語、甚ダ少キノミナラズ、其變ズベキ語モ、アラユル場合、皆變ズルニアラズ、慣用スル所ニ定マリアリテ、一般ノ通則ナラズ、而シテ、其變化シ、慣用スルホドノモノハ、皆一熟語トシテ辭書ニ擧ゲタリ、サレバ、今ハ、別ニ説カズ。

○代名詞　代名詞ハ、名詞ノ一種ニテ、事物ノ名ニ代ヘテ、其レヲ指シテイフ語ナリ。例ヘバ、人、事、物、地位、方向、等ノ、各其名アルニ代ヘテ、「我」「汝」「是レ」「夫レ」「此處」「彼方」ナドイフガ如シ。

○人ニ就キテ用ヰル代名詞ヲ、人代名詞トイフ。而シテ、其稱スル人ノ位置ニ因リテ、別ヲ起ス、コレヲ人稱トイフ。其人稱ノ第一ナルヲ自稱トス、話ス人、自ラ、己ガ名ニ代ヘテ用ヰルモノナリ、即チ、「我」行カム」ノ我ノ如シ。第二ナルヲ對稱トス、我ト相對シ我ガ話シ掛クル人ノ名ニ代ヘテイフモノナリ、即チ、「我」「汝」ト俱ニ行カム」ノ汝ノ如シ。第三ナルヲ他稱トス、二人ノ間ニ話シ出ス他ノ人ノ名ニ代ヘテイフモノナリ、即チ、「我、汝ト俱ニ彼ヲ訪ハム」ノ彼ノ如シ。又、別ニ、不定稱アリ、他稱ノ中ニテ、其レト定メヌ人、又ハ、其名ヲ知ラヌ人ノ名ニ代ヘテイフモノナリ、即チ、「誰ヲカ訪ハム」「誰ニカアラム」ノ誰ノ如シ。

自稱	對稱	他稱	不定稱
われ	なむぢ	かれ あれ	だれ (だれ)

人代名詞ノ尋常ナルモノハ、右ノ如シ。此外ニモ、古今、雅俗、尊卑ニ用ヰ分クルモノ、尚甚ダ多シ。左ニ、其中ノ若干ヲ擧グ。

(自稱)　吾、(吾ガ妻)吾、(吾ガ君)吾、(妹とあれといるさの山)麿、朕、妾、僕、己レ、某、余、身、ナド。

（對稱）汝（汝ガ待つ君）汝（なれをしそあはれと思ふ）汝（汝、吾主、御身、御事、吾殿、御邊、君、其許、ナド。

（他稱）彼（彼ハ誰）そやつ、かやつ、あやつナド。

（不定稱）誰（誰ガ、誰ソ）某（何某ナド。

右ノ外、漢文、書狀文、口語ノ上ナドニハ、尙多シ、委シクハ文典ニ讓レリ。

○事、物、地位、方向、等ニ就キテ用ヰル代名詞ニハ、近稱、中稱、遠稱、不定稱ノ別アリ。近稱ハ、最モ近キニイフ、是、此處、此方、ノ如シ。中稱ハ、稍、離レタルニイフ、其其處、其方、ノ如シ。遠稱ハ、遠キニイフ、彼、彼處、彼方、ノ如シ。不定稱ハ、其レト定メヌ、又ハ、知ラヌニイフ、何何處、ノ如シ。

	近稱	中稱	遠稱	不定稱
事物	これ　こ	それ　そ	あれ　か	いづれ　ふに（どれ）
地位	ここ	そこ	あそこ　かしこ	いづこ　いづく（どこ）
方向	こなた	そなた	あなた　かなた	いづかた（どなた）
	こち	そち	あち	いづち（どち）

○凡ソ、代名詞ハ、名詞ノ地位ニ代リテ立ツモノナルニ、こ、そ、あ、か等ヲ、天爾遠波ノ上ト連ネテ用ヰルトキニハ、別ニ一種ノ意義ヲ起シ、其名詞ニハ代ハラズシテ、其名詞ノ上ニ立チテ、唯、其名詞ヲ指シ示スコトアリ、コレヲ指示代名詞（Demonstrative.）トイフ。例ヘバ、常ノ代名詞ナレバ、「人ハ」「花ヲ」ナドノ「人」「物」ニ代ハリテ、「是ハ」「其ヲ」トナルニ、指示代名詞ハ、其「人」「物」ヲ存シテ、更ニ、其上ニ立チ、「此ノ人ハ」「其ノ花ヲ」ト、其

人物ヲ指シ示ス意ヲナス、而シテ、是レニモ、近稱、中稱、遠稱、不定稱、ノ別アリ。

近稱	中稱	遠稱	不定稱
この	その	あの かの	いづれの（どの）

〇數詞　數詞ハ、名詞ノ一種ニテ、事物ノ數ヲイフ語ナリ、其用法、文中ニアリテ、正ニ名詞ニ同シ。

ひとつ　ふたつ　みつ　よつ　いつつ　むつ　ふたつ　やつ　ここのつ

とを　はたち　みそぢ　よそぢ　いそぢ　むそぢ　ふたそぢ　やそぢ　ここのそぢ

又、語末ノつ、ち、を、等ヲ去リテ、接頭語（末ニ說ケリ）ノ如ク用ヰルコトアリ。

一夜　二路　三筋　四時　五枚　六言　七種　八廻　九返

十度　二十年　三十文字　四十年　五十返　八十氏人

此他ニ、五、十、五十、百、百、千、萬、ナドアリ、重用シテハ、五十、五百、八百、八千、百千、五百萬、八百萬、千千、千萬、ナドアリ、然レ𪜈、是等モ、多クハ熟語ニ用ヰル。

幾十　百年　千種　萬世　五百枝　八百重　八千度　百千度

又、漢語ナルハ　一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、萬、億、兆、等アリ。

〇數詞ノ原形ハ、元來、ひと、ふた、み、よ、ナドニテ、接頭語ノ如キモノナルベク、コレニ、箇、或ハ、箇、ノ接尾語ノ加ハリテ、名詞ノ如クナリタルナラム、然レドモ、其原形ハ、一般ニ用ヰガタキ事モアリ、因テ、姑ク本文ノ如クニシテ、名詞ニ屬セシメタリ、他ノ百、千、等、亦然リ。

〇洋語ニ、順序數詞（Ordinal）トイフモノ、我ガ數詞ニハ無シ。（第一、二號、三番、四ツ目、ナド、他語ヲ參ヘテ形作ルモノヲ以テ、之ニ當ツルモノアルハ、誤レリ。）

動詞（用言、作用言、活語）

動詞（ドウシ）ハ、名詞ノ後ニ附キテ、其動作ヲイフ語ナリ。例ヘバ、「花、飛ぶ、」「蝶、驚く、」「春、去る、」「夏、來る、」ノ「飛ぶ、」「驚く、」「去る、」「來る、」ハ、「花、」「蝶、」「春、」「夏、」ノ動作ヲイフガ如シ。又、希ニ、現象ヲイフモノアリ。例ヘバ、「此ニ人あり、」「志、其父ニ似る、」ノ「あり」ト、「似る」トハ、「人」ト、「志」トノ現象ヲイフガ如シ。

○動詞ノ性　アラユル動詞ヲ、其性質ニテ別チテ、自動性（ジドウセイ）ト、他動性（タドウセイ）ト、ノ二種トス。

自動性　自ラ動作シテ、他ノ事物ヲ處分スルヿナキ意ノモノヲ、自動性トス。例ヘバ、「花、飛ぶ、」「蝶、驚く、」ノ「飛ぶ、」「驚く、」ノ如シ、其動作、ソノママニテ通ズ。

自動性ノ動詞ヲ略シテハ、自動詞（ジドウシ）トモイフ。

他動性　動作ノ、他ノ事物ヲ處分スル意アルモノヲ、他動性トス。例ヘバ、「蠶ハ、絲ヲ吐く、」「蜂ハ、蜜ヲ釀す、」ノ「吐く、」「釀す、」ノ如シ。コレヲ、唯、「蠶ハ、吐く、」「蜂ハ、釀す、」トノミイヒテハ、其意、未ダ全ク通ゼズ、必ズ、「何を、」ト問ハルベシ、然ルトキハ、其處分スベキモノヲ擧ゲテ、「絲を、」或ハ、「蜜を、」ト答ヘズハアルベカラズ、而シテ後ニ、其意ヲ全ウス。他動性ノ動詞ヲ、他動詞（タドウシ）トモイフ。

○國語ノ動詞ニハ、自動ノ上ニモ、完了語（Complement）ヲ要スルアリ、（父に似る、馬に乘る、ノ類）他動ノ上ニモ、完了語、一ツニテ足ルアリ、（絲を吐く、蜜を釀す、ノ類）二ツヲ要スルアリテ、（志を父に似す、物を馬に載す、ノ類）自、他ニ、各、單、複ノ別アリ。然レ𪜈、是等ノ解、辭書ニ用ナケレバ、略セリ、詳ナルハ、文典ニ讓ル。

○語根、語尾、變化　動詞ハ、其動作ノ意ヲ、數樣ニ現ハサムトシ、又ハ、他ノ語ニ連續セムトスルガ爲ニ、其語ノ末ヲ變フ。例ヘバ、

やく（行）　やけ　やか　やき　まかす（任）　まかする　まかすれ　まかせ

此ノ如ク、變ハラザル部ヲ、語根(Root.)トイヒ、又ハ、ず、する、すれ、せ、ノ如ク、變ハル部ヲ、語尾トイヒ、而シテ、其變ハルヿヲ、變化トイフ。又、一音ノ動詞ハ、其全體ヲ變フ。例ヘバ、

ふ(歴)　へ　く(來)　か　き　す(爲)　せ　し　え　う(得)

○規則動詞、不規則動詞　アラユル動詞ノ變化ノ狀、亦、種種ナリ。其狀ノ異同ヲ類別スレバ、八類トナル。其中ノ四類ニハ、所屬ノ動詞多クシテ、他ノ四類ニハ、甚ダ少シ。其多キ方ニ屬スルヲ、規則動詞ト名ヅケ、少キ方ニ屬スルヲ、不規則動詞ト名ヅク。其別、左ノ如シ。

規則動詞

第一類　六種　第二類　十種　第三類　六種　第四類　六種

第四類ノ中ニ變體ノモノアリ後ニ言フベシ。

不規則動詞

第一類　一種　第二類　一種　第三類　一種　第四類　一種

○規則第一類　此類ノ變化ニ屬スルモノハ、表ニ示セルガ如ク、六種ニ限ル。此各種ノ動詞ハ、其語尾ノ變化ヲノミ唱フレバ、「く、く、け、か、き、け、」「す、す、せ、さ、し、せ、」「つ、つ、て、た、ち、て、」ナドナリテ、其變化ノ語路、口調、相似タレバ、同類トス。以下、第二、三、四類ノ各種モ、スベテ、此規定ニテ、其語尾ノ變化ノ口調ノ相似タルニ因テ、類聚シタルモノナリ。而シテ、表ニ擧ゲタル動詞ハ、其各種中ノモノヲ、一語ヅツ擧ゲタルナリ。又、アラユル動詞ノ中ニテ、此第一類變化ニ屬スルモノ、最モ多シ、因テ、之ヲ第一トス。

規則第二類　此類ノ變化ニ、十種アリテ、其狀ハ、「う、うる、うれ、え、え、えよ、」「く、くる、くれ、け、け、けよ、」「す、する、すれ、せ、せ、

せよ、」ナドト、其口調ヲ同ジウス。此變化ニ入ル動詞ハ、第一類ニ次ギテ多シ、因テ、コレヲ第二トス。

規則第三類 此類ノ變化ハ、六種ニ限ル。其變化ノ狀、上半ニテハ、「く、くる、くれ、」つ、つる、つれ、」ナドトナリテ第二類ト相同ジケレド、下半ハ、い‖ノ韻ニテ、「き、き、きよ、」ち、ち、ちよ、」ナドトナリテ、第二類ノえ‖ノ韻(け、け、けよ、」て、て、てよ、)トナルト異ナリ。此類ノ變化ノ動詞、甚ダ多カラズ、故ニ、コレヲ第三トス。

規則第四類 此變化モ、六種ニ限ル。此變化ハ、「下半ニテハ、「き、き、きよ、」ひ、ひ、ひよ、」ノ如ク、第三類ニ似タレド、上半ニテハ、「きる、きる、きれ」ひる、ひる、ひれ、」ナドナリテ、相異ナリ。此類ノ變化ノ動詞ノ數、僅ニ十數語ニ出デズ、因テ、第四トス。

○第四類變化ハ、元來、語數モ極メテ少キノミナラズ、他ノ助動詞(らむ、らし、べしナド)ニ連續スルニモ、他類ト變則ナルコトアリ、或ハ、不規則動詞ニ入ルベキモノナラムカ、尙、委シクハ、文典ニ讓ル。

然レドモ、口語ニアリテハ、規則動詞第三類ノいく、(生)おつ、(落)ふ、(强)等ヲ、いきる、おちる、ふひる、ナドトスルガ、定マリナリ。(關東、近畿ヲ初トシテ、全國六七分ハ然リ、次ノ變體モ同ジ、)サテ、此口調ニ從ヒテ、別ニ出來レリト覺シキあきる、(厭)かうじる、(增長)たいぢる、(退治)たりる、(足)ナドモアリ、是等ノ變化ハ、正ニ此第四類ノ變化ト同ジクシテ、其語モ、頗ル多シ。

變體 又、規則動詞第二類ノう、(得)うと、(受)まかす、(任)等ヲモ、口語ニテハ、える、うける、まかせる、トセリ。此口調ニ從ヒテ、別ニ出來レルける、(蹶)いせる、(摺縫)はぜる、(裂)はれる、(放場)もめる、(所揉)ナドモアリテ、其語、亦多シ。此類ノ語尾ノ變化ハ、「ける、ける、けれ、け、け、けよ、」せる、せる、せれ、せ、せ、せよ、」れる、れる、れれ、れ、れよ、」ナドトナリテ、其韻ニいい‖トえ‖トノ差ハアレド、其變化ノ狀態ハ、規則動詞ノ第四類ニ似タリ、因テ、其類ノ變體トス。

○不規則第一類　此變化ハ、唯、一種ニテ、且、こ(來)トイフ動詞一語ニ限ル。其變化ハ、こ、くる、くれ、こい、こよ、トナリテ、其狀、頗ル、規則動詞第三類ナル(一)ノいく(生)ニ似タレドモ、下半ノ、き、き、きよ、トハナラデ、こ、き、こよ、トナルガ、不規則ナリ、

不規則第二類　此類ノ變化モ、唯、一種ニテ、其語モ、す、(爲)おはす、(御座)ノ二語ニ限ル。此類ノ變化ハ、す、する、すれ、せ、し、せよ、トナリテ、規則動詞第二類ノ(三)ノまかす(任)ニ似タレドモ、下半ハ、「せ、し、せよ、」ニテ、「せ、せ、せよ、」ナラヌガ變ナリ。

不規則第三類　此變化モ、唯一種ニテ、亦、いぬ、(往)ぬ、(死)ノ二語ノミナリ。(但シ、助動詞ノぬ、コレニ同ジ、)此變化ノ狀ハ、上半、ぬ、ぬる、ぬれ、ハ、規則動詞第二類ナル(五)ノかぬ(兼)ニ似タレモ、下半ノふ、に、ねハ、第一類變化ノ口調ニ似タリ。又アラユル動詞中ニテ、六變化ヲ、殊體ニテ具備スルハ、此類ノ變化ニ限ル。

不規則第四類　此變化モ、亦一種ニテ、其語ハ、あり、(有)をり、(居)はべり、(侍)いまそかり、(在)ノ四ニ限ル。(但シ、助動詞ノなり、たり、せり、けり、めり、ノ類、コレニ同ジ、)此ノ類ノ語尾ノ變化ハ、甚ダ、規則第一類ノ(六)ノさる、(去)ニ似タレドモ、彼ハ、「る、る、れ、ら、り、れ、」トナルニ、此ハ、「り、る、れ、ら、り、れ、」ナルガ、異ナリ。且、凡ソ、日本ノ動詞ハ、其本體、う、ノ韻ニ終ハルヲ通則トスルニ、此一類ノミハ、い、ノ韻ニ終ハルヲ、殊ニ異ナリトス。

以上、不規則四類ノ動詞ハ、合セテ九語ナリ。アラユル動詞中ニテ、此不規則類ニ入ルベキハ、僅ニ此ノ九語ニ限ルト知ルベシ。凡ソ、不規則動詞ハ、四類、共ニ、其變化ノ狀、規則動詞ト異ナル「、上ニ言ヘルガ如クナルノミナラズ、他ノ助動詞ト連續スル通則ニ至リテモ、皆、多少、規則動詞ト異ナル所アリ、尙、後ノ助動詞ノ條ニ說クヲ見ヨ。又、不規則動詞ノ四類ノ順序ハ、五十音ノ順ニ依ル、

○動詞ノ法　動詞ノ變化ニ因リテ、語氣ニ種種ノ態度ヲ生ズ、コレヲ法トイフ。其法、七種アリ、即チ、

（一）直說法（チョクセツホウ）　（二）分詞法（ブンシホウ）　（三）接續法（セツゾクホウ）　（四）折說法（セツセツホウ）

（五）熟語法（ジュクゴホウ）　（六）名詞法（メイシホウ）　（七）命令法（メイレイホウ）

（第一表ト參照スベシ）

○此法ノ事ニ就キテハ、國語ト、洋語トノ間ニ、其趣ヲ異ニスルコトアリ、委シクハ、末ニ辨ズベシ。又、法トイフモノハ、語氣ノ態度ナレバ、法ト稱セムヨリハ、態ノ字ヲ當テテ、直說態、命令態、ナドトセバ、妥當ナラム、然レドモ、今ハ姑ク改メズ。又、從來、截斷言、連體言ナドト、言ノ字ヲ當テタルモ、妥當ナラズ、此事モ、後ニ言フベシ。

今、左ニ、規則動詞ノ四類中ヨリ、各一語ヲ出シテ、七種ノ法ヲ說明カスベシ、他ハ之ニ準ヘテ知ルベシ。

（一）直說法　動作ヲ、ソノママニ說キテ、文章ノ末ヲ結ブ法ニテ、コレヲ動詞ノ本體トス。例ヘバ、

書ヲ讀む。　事ヲ勤む。　花、落つ。　月ヲみる。

尋常ハ、此ノ第一變化ノ直說法ヲ以テ、文章ノ末ヲ結ブ。然ルニ、文中ニ、天爾遠波ノぞ、や、か、ノ入ルトキハ、第二變化ヲ直說法トシテ結ブ。例ヘバ、

書ヲぞ讀む。　事ヲぞ勤むる。　花ぞ落つる。　月ヲぞみる。
書ヲや讀む。　事ヲや勤むる。　花や落つる。　月ヲやみる。
何ヲか讀む。　何ヲか勤むる。　孰レか落つる。　何ヲかみる。

又、天爾遠波ノおそノ入ルトキハ、第三變化ヲ直說法トシテ結ブ　例ヘバ、

書ヲおそ讀め。　事ヲおそ勤むれ。　花おそ落つれ。　月ヲおそみれ。

右ノ如ク、ぞ、や、か、ヲ結ブニ、第二變化ヲ用ヰ、おそヲ結ブニ、第三變化ヲ用ヰルヿ、諸ノ動詞、マタハ、形容詞、助動詞、スベテ然リ。

○右ノ三種ノ結法ノ事ハ、文章論ニテ説クコトトシタレバ、動詞ノ條ニテハ、委シクハ言ハズ、尚、文典ニ詳シク、

(二)分詞法。他ノ名詞ノ上ニ連ル法ニテ、卽チ、動詞ノ分レテ、形容詞ノ形容法(後ニイフ)ノ如クナルモノナリ、例ヘバ、

已ガ讀む書。	我ガ勤むる事。
勤むる人。	落つる花。
落つる時。	花、落つる時。
みる物。	月ヲみる人。

或ハ、獨立ニモ用ヰテ、

讀む書。　勤むる人。　落つる花。　みる物。

此法ハ、其下ニアルベキ名詞ヲ含ミテ、(Understood.)直ニ名詞ノ如ク用ヰルヿアリ。

例ヘバ、

讀む(事)ト書く(事)トヲ學ブ。　人ノ勤むる(狀)ニ倣フ

花ノ開く(頃)ヨリ落つる(頃)マデ。　みる(事)ヲ好マズ

(三)接續法　此法ハ、豫想ノ語句ヲ設ケテ、他ノ主トスル語句ニ、接續附加セシムル時ニ起ルモノニテ、ヲ加フ。而シテ、其中ニ、「已ニ然ル」ニイフト、「將ニ然ラムトスル」ニイフト、ノ別アリテ、コレヲ已然、將然トイフ。(第一表ト參照スベシ)

已然	將然
多ク書ヲ讀めば、能ク、智識ヲ增す。	多ク書ヲ讀まば、能ク、智識ヲ增サム。
事ヲ勤むれば、功、成ル。	事ヲ勤めば、功、成ラム
花、落つれば、實、生ズ。	花、落ちば、實、生ゼム。
月ヲみれば、物ヲ思フ。	月ヲみば、物ヲ思ハム。

此ノ已然ナルハ、「意義、一轉シテ、「讀ムニ、」勤ムルニ、」落ツルニ、」見ルニ、」ナドノ意ヲナスヿアリ、「善クみれば、」誤ナリキ、」ナドノ如シ。又、「讀ムニ因テ、」勤ムルニ因テ、」落ツルニ因テ、」見ルニ因テ、」ノ意ヲナスヿアリ、「智ヲ增スハ、書ヲ讀めばナリ、」ノ如シ。

(四) 折說法　此法ハ、文章ノ間ニアリテ、其意ヲ暫シ言止シ置キテ、其後ニ來ル他ノ動詞ノ法ニ照應シテ、其意ヲ共ニスルモノナリ。例ヘバ、

書ヲ讀み、道ヲ學ブ。　事ヲ勤め、功ヲ成ス。　花、落ち、鳥、啼ク。　月ヲみ、且、古ヘヲ懷フ。

コレヲ、句毎ニ分タバ、「書ヲ讀む、又、道ヲ學ブ、」事ヲ勤む、又、功ヲ成ス、」ナドト直說スベキヲ、姑ク、「讀み、」勤め、」ト言止シテ、下ノ「學ブ、」又ハ、「成ス、」ニ照應シテ、直說ノ意ヲ終フルモノナリ。

此法、又、數語、連用スルヿアリ、又、數語ヲ隔テテ照應スルヿアリ。例ヘバ、

書ヲ讀み、(讀む、又、)事ヲ勤め、(勤む、又、)理ヲ究め、(究む、而シテ、)說ヲ立て、(立つ、而シテ、)詳ニ、コレヲ文章ニ著し、(著す、)

又、コレヲ印行し、(印行す、且、)弘ク、コレヲ世ニ示す。

其他、尙、種種ニシテ、凡テ、其下ニ來ル語ト意ヲ共ニス。　事ヲ勤め、(たる)功ヲ成し、(たる)能ク其名ヲ揚げたる人。　夙ニ起き、(て、)夜ニ寐ねて、　財ニ富み、(たれば、)且、學ニ長けたれば、

○此法、舊說ニテハ、連用言トシテ、次ニ說ク熟語法ト混シタリ。サレド、「勤め行フ、」落ち入ル、」ナド用ヰル「勤め」落ち」トハ、其用法、太ダ異ナリ、一ハ、全ク熟シテ一語ノ如クナレド、一ハ、各自ニ動作シテ、「或ハ勤メ、或ハ怠ル、」此ハ落チ、彼ハ啼ク、」ノ意トナタ、」ナド用ヰル「勤め」落ち」トハ、其用法、太ダ異ナリ、一ハ、全ク熟シテ一語ノ如クナレド、一ハ、各自ニ動作シテ、「或ハ勤メ、或ハ怠ル、」此ハ落チ、彼ハ啼ク、」ノ意トナレバナリ。又云、折說ノ字面ハ、直說法ニ對シテ付シタルモノナレド、未ダ此法ノ意ヲ盡サザルガ如シ、適當ナル語ヲ得バ改ムベシ。

(五) 熟語法　他語ト組立テテ、一熟語トスル時ノ法ナリ。例ヘバ、「落ツ」ト「入ル」トヲ組立ツルトキ、「落つ入

ル」トハナヲデ「落ち入ル」トナルガ如シ。

他ノ動詞ト組立ツルモノハ、

讀み果ツ。　勤め爲ス　落ち入ル。　み渡ス。

又、數語ヲ連ヌルアリ。

讀み聞せ奉ル。　飛び立ち去ル。　打ち連れ立ち給フ。

他ノ名詞ト合フモノハ、

讀み人。　勤め事。　落ち葉。　み物。

又、形容詞ト合フ「モアリ。

讀み憂シ。　勤め難シ。　落ち易シ。　み苦シ。

○此法ヲ、從來、連用言トイヘリ、他ノ用言(動詞)ニ連ル故ノ稱ナリ。然レドモ、「讀み人」「落ち葉」ノ如ク、名詞ト連リテ熟語トナルモノモ、全ク是レナレバ、(此ノ讀み、落ち、等ヲ、名詞ナリトイフハ、肯ハレズ)必ズ用言ニ連ルトノミモ言ヒ難シ、因テ今ハ別名ヲ下セリ。

但シ、不規則動詞ノ第三類ナルすト、第四類ナルありトハ、他語ヲ冠シテ熟語トナルヿナシ、「釣りす」、「狩りす」、「喜ビあり」、「隔テあり」、ナドト連リテモ、其上ナルハ、名詞法ニテ「釣りヲす」、「狩りヲす」、「喜ビノある」、「隔テノある」、ノ意トナル。

○「隔テあり」、「分チあり」、「任カセあり」、ナドト、熟語法ニ用ヰルハ、誤ナリ、尙、其辨ノ詳ナルコトハ、文典ニ讓ル。

(六)名詞法　動詞ノ名詞トナル法ナリ。　例ヘバ。

讀みヲ覺ユ。　勤めヲ怠ル。　落ちヲ拾フ。　花みニ行ク。

(七) 命令法

此法ハ、他ニ動作ヲ命ズルモノナリ。例ヘバ、書ヲ讀め。事ヲ勤めよ。落ちよ。みよ。

○此法ハ、變化ノ類ニ因リテ、よヲ添フルアリ、添ヘヌアリ、(讀め、ヲ「讀めよ」、讀めや、ナドトモ用ヰルコトアルハ、感動詞ノよ、やヲ添ヘタルナリ、又、「讀みね」ナド添フルハ、助動詞ノ命令法ナリ、)又、今ハ、添フレドモ、古ヘハ添ヘザリシモアリ、(勤め、モロモロ、馬、暫シ止め、早ク手ニ居ろ、見ニ來、吉ク爲、ナド、)委シクハ、文典ニ讓ル。

○

○洋語ノ動詞ニMood.(姑ク、英語ニテ記ス、下同ジ)トイフモノ、卽チ、此篇ニイフ動詞ノ法ナリ。然レドモ、彼我ノ語性ニ就キテ、頗ル其趣ヲ異ニスルコトアリ。又、洋語ノ動詞ニハ、Voice.(口氣ト譯ス)Tense.(時ト譯ス)トイフモノアルガ、我ガ動詞ニテハ、是等ノ意義ハ、他ノ助動詞ト連帶關係シテ始メテ起ルガ故ニ、今ハ、助動詞ノ條ニテ說クコトトセリ。左ニ、是等ノ異同ヲ辨セム。

Mood.トイフ語ヲ、辭書ニ據リテ其意義ヲ求ムルニ、「動詞ノ變化ニ因リテ生ズル語氣ノ態度ナリ、」トアリテ、一動詞ノ其語體ヲ變シテ成ルモノナリ。

羅甸ノ動詞ニハ、直說法、可成法、(Potential.)接續法、命令法、不定法、名詞法、分詞法、等アリテ、其法ハスベテ、一動詞ノ語體ニ具備スルモノニテ、其語體ヲ變シナドシテ、能ク衆法ヲ現ハシ、他ノ助動詞ナド添ヘテ成ルニアラズ。而シテ、右ノ諸法ノ中ニテ、直說法、接續法、命令法、名詞法、分詞法、等ハ、我ガ動詞ニイフト、粗同ジク、共ニ、語體ヲ變シテ成ル。然ルニ、其不定法トイフモノハ、動詞ノ單行スル時ノ法ナルガ、我ガ動詞ニハ無シ、又、可成法トイフモノモ、事ヲ爲シ得ル意ヲイフ法ナルガ、亦、我ガ動詞ニハ無シ、但シ、助動詞ノる、らる(讀マる、勤メらるノ如シ)ヲ添フレバ、其意ニ充ツルコトヲ得ベシ。

西洋諸國ノ文法ハ、大率、羅甸ノ文法ニ倣ヒテ作リシモノナリト云フ。英國ノ動詞ニモ、羅甸ノ如ク、直說法、可成法、接續法、命令法、不定法、及ビ、分詞法、名詞法、(此二法ハ、法トハセズシテ、單ニ分詞ト立ツルモノ、往往アリ、)等ヲ立ツ。然ルニ、其可成法ハ、動詞ノ體ノ變化ニハアラデ、動詞ノ前ニ、別ニ助動詞ヲ加ヘ、又、接續法モ、多クハ、動詞ノ前ニ、別ニ接續詞ヲ加ヘテ、其意義ヲ成サシメ、其可成、接續、ノ意義ハ、動詞ノ語體ニハ存セズシテ、添ヘタル助動詞、接續詞ノ方ニ存スルモノノ如シ。(我ガ接續法ノ末ノばモ、他語ヲ加フルニ似タレドモ、尙、前ニハアラデ、後ニアリテ語尾ヲ補フモノニテ、且、變化スルコトモ無シ、猶、命令法ノ末ノよノ如シ。)サレバ、英ノ動詞ニイヘル可成法、接續法ハ、其語體ニハ具ヘヌヲ、他語ヲ加ヘテ、羅甸ノ法ニ擬シテ作爲セルナリ、是等ハ、英ノ語學者ガ、無用ノ摸擬トイフベク、既ニ、其國ノ學士中ニモ、コレヲ法ナラズト論ズルアリ。然ルニ、今日、洋文法ヲ以テ、國文法ヲ論ズルモノノ、「讀マる」勤メらるる」等ヲ、可成法ト立ツルアリ、亦、右ノ謬見ヲ遺傳セルナリ。或云、英ノ助動詞ハ、動詞ト密着スルモノニテ、其前ニ居リ後ニ居ルヲ問ハズ、合シテ一語ト見ルベキナリト。今、姑ク、英ノ動詞ハ、或ハ然ラムトスルトモ、我ガ助動詞ハ、大ニ異ナルモノニテ、變化アリ法アルコト、粗、動詞ニ同ジク、例ヘバ、「勤メらる」トイヘバ、直說法トナリ、「勤メらるれば」トイヘバ、接續法トナル。サレバ、此ノらるヲ、助動詞ナラズトシテ、「勤メラル」ト密着セル「勤ム」ノ可成法ナリトセバ、其變化ノらるる、らるればヲバ如何ニカセム、法ニ法アリトイフコトヤアルベキ。扨、又、我ガ動詞ニハ、熟語法トイフモノアリテ、彼ニハ絕エテ無キガ如シ。凡ソ是等ノ事ハ、東西ノ語性ニ、天

然ノ差異アリテ存スルモノタルコトヲ覺ルベシ。

Voice.ハ、口氣ト譯スベクシテ、辭書ニ據レバ、動詞ノ一種ノ變體ニシテ、以テ文主ト動詞ノ動作トノ關係ヲ指別セシムル別體ナリ、トナリ、此口氣、二樣ニ分レテ、能相(Active.)所相(Passive.)トイヒ、羅甸語ニテハ、一動詞ノ語體ニ、此ノ二樣ノ變ヲ具セリ。 然ルニ、我ガ動詞ニテ、此ノ能、所ヲ言ハバ、例ヘバ、「打ツ」傳フ」ノ能相タルハ論ナケレドモ、其所相ヲ寫シ出サムトスレバ、別ニ、助動詞ノる、らる(亦、變化アリ、法アリ、)ヲ添ヘテ、「打タる」傳へらる」ナドセズバアルベカラズ。 而シテ、其能相ノ意義ハ所相ニ對シテ生ズルモノナレバ、今ハ、助動詞ノる、らるノ條ニ至リテ說クコトトセリ。(英ノ動詞ニモ、所相ハ、前ニ助動詞ヲ添ヘテ言フガ多シ。)

Tense.ハ、時ト譯シテ、亦、動詞ノ動作ノ現在ナルト、過去ナルト、未來ナルト、ヲ示スニ就キテ起ル一種ノ轉化ニテ、是モ、羅甸ノ動詞ニテハ、其語體ニ、此ノ轉化ヲ具セリ。 我ガ動詞ニテモ、「打ツ」傳フ」ノ現在ナルハ論ヲ待タザレド、過去ヲ寫シ出サムトスレバ、助動詞ヲ加ヘテ、「打チたり」傳へき」ノ如クシ、未來モ、助動詞ヲ加ヘテ、「打タむ」傳へむ」ナドトスルナリ、(此たり、き、む等、亦、皆、變化アリ、法アリ、)因テ、是、亦、助動詞ノ條ニ說クコトトセリ。(英語ノ如キハ、過去ノ轉化ヲ、動詞ノ體ニ具スルアリ、或ハ、前ニ助動詞ヲ添ヘテ示スモアリ、而シテ、未來ハ、率ネ、前ニ助動詞ヲ加フルガ如シ。)

擧竟ズルニ、單ニ、「打ツ」傳フ」トイフ語ヲ指セバ、一ノ動詞ト呼ブベキノミ。 扨、單ニ、「打ツ」傳フ」トイフ語ナルガ、所相ノ「打タる」傳へらる」ニ對スレバ、能相ノ名目ヲ生ジ、過去、未來ノ「打チたり」傳へむ」等ニ對スレバ、現在ノ名目ヲ生ズルナリ。 而シテ、其所相トイヒ、過去、未來、トイフ意義ハ、スベテ助動詞ノ方ニ存スルコトナレバ、是等ノ事ハ、動詞ノ語體ノ轉化ニ生ズルモノトハ見ズシテ、他ノ助動詞ノ條ニ說カムトスルナリ

〇

〇從來用言ノ活用ニ、四段、一段、中二段、下二段等ノ名稱アリ、(第一表ノ欄上ニ記セルモノ。) 其四段活用トイフハ、例ヘバ、ゆく(行)トイフ用言ハ、其語尾、か、き、く、けト活用シテ、五十音圖ニ照セバ、其圖ノ上ヨリ四段ノ諸音ニ當ルガ故ニ命名セルニテ、是レハ其理アリトセム。 然ルニ、き(着)ノ、きる、きれ、ト活用スルヲ、一段活用ト名ヅケ、いく(受)ノ語尾ノ、く、くる、くれ、ト活用スルヲ、中二段ト名ヅケ、うく(受)ノ語尾ノ、くる、くれ、け、ト活用スルヲ、下二段ト名ヅクルナドハ、妥當ナラザルガ如シ。 ソハ、「き、」又ハ、「きく、」又ハ、「く、け、」ノ音コソ、五十音圖ノ一段、又ハ、中ノ二段、又ハ、下ノ二段ナレ、其他ニ、「きる、きれ、」くる、くれ、」ナドトアル「る、れ、」ヲバ、如何ゾ措キテ言ハザル。 ソモ、此ノ「る、れ、」ハ、附屬物ノ如ク等閑ニ視ルベキモノナラザルベシ。 凡ソ、用言ノ正格、變格、八種ノ活用ノ中ニテ、此ノ「る、れ、」ノ活用ナキモノハ、僅ニ、四段活用ト、良行四段一格トノ二種アルノミ、其他ノ六種ハ、皆、此ノ「る、れ、」ヲ以テ、要用ナル活用ヲ現ハシ、殊ニ、一段活用ニ至リテハ、此ノ「る、れ、」無ケレバ、(古格ハ姑ク措キ)第一ニ、用言ノ本體タル截斷言ヲ形作ルコトヲ得ズ(そる、おそれ、ナドト、概畧ニ「掛リ、結ビ、」ヲ呼フモ、用言ニ、此音ノ活用多キヲ知ルベシ。) 又、希求言ヲモ、活用ト見ルトキハ、よノ音ヲモ、活用中ニ加ヘザルヲ得ズ(よ無ケレバ、希求言ヲ成サザルモノモ、少カラズ。) 此ノ如ク論ジテ、扨、從來命名ノ趣意ヲ奉シテ、正シク稱呼セムトセバ、加行一段活用ノ、き、きる、きれ、きよ、ヲバ、「加行一段、良行下二段、也行一段活用、」ナドト呼ビ、良行下二段活用ノ、れ、る、るる、るれ、れよ、ヲバ、「良行下二段、重複顚倒、及ビ、也行一段活用、」ナドト呼ビバ、他ノ四段活用等ニ對シテ、其命名ノ釣合ヲ失ハム、サレバトテ、斯ル冗長ナル名稱ハ、採ルベクモアラズ。 此故ニ、今ハ、四段、一段、ナドトイフ意味アル命名ニハ從ハズシテ、單ニ、第一類、第二類、第三類、第四類等ノ名ヲ命ス。 又、其順序モ、舊闕ナルハ、四段活用、最モ五十音圖ノ順ニ適當スルガ如ク、且、其所屬ノ用言モ數多ケレバ、之ヲ第一トシタルナルベク、而シテ、次下ハ、五

十音順ニ據リテ次第セルナルベシ。然レドモ、今ハ、四段、一段、等ノ名稱ヲ用ヰヌコトニモアレバ、其活用ニ所屬スル用言ノ多少ヲ以テ、順序ヲ改メ、四段活用ヲ第一類トシ、下二段活用ヲ第二類トシ、中二段活用ヲ第三類トシ、一段活用ヲ第四類トセリ。又、既ニ、正格活用ノ名稱ヲ改メタル上ハ、變格活用モ、舊稱ヲ存シ難ケレバ、亦、第一、二、三、四類トセリ、但シ、其順序ハ、舊キニ從ヘリ。

從來ノ活用五階圖ハ、五十音圖ノ段ヲ標準トシテ、先ヅ、四段活用、一段活用、等ノ名ヲ定メ、扨、其活用ノ最モ博キ四段活用ノ音(か、き、く、け等)ヲ基本ト立テテ、他ノ活用ヲ、コレニ從ヘシメテ、製セシモノナルベシ。サレバ、ゆか、(行)ヲ基トシテ、他ノいき、(生)うけ、(受)等ノ將然言トイフモノ、第一階ニ居ルナリ。然レドモ、凡ソ、用言ノ本體トイフモノハ、ゆく、(行)いく、(生)うく、(受)ニテ、卽チ、截斷言トイフモノナレバ、先ヅ、某ノ用言トテ、取出シテ記サムニハ、截斷言ヲ第一ニ置クベキ理ナラム、然ルニ、舊圖ニテハ、其本體タルベキモノ、第三階ニ居ルコトトナリテ、體裁宜シカラズ、是等モ、畢竟スルニ、五十音順ヲ基トシ、四段活用等ノ目アルガ故ニ、之ニ從ハザルヲ得ザルニ起レルナリ。然レドモ、本篇、既ニ、四段活用等ノ名稱ヲ用ヰザレバ、今ハ、其順序ヲ改メテ、截斷言ヲ第一ニ置ケリ、而シテ、後ノ形狀言、助動詞、等ノ表モ、皆、之ニ倣ハシメタリ、殊ニ、活用ナキ助動詞ノなむ(願ノ)じ(不)ノ如キハ、表ノ第一階ニ置キテ、下ヲ空白ニスル方、體裁好キヲ見ルナリ、(舊圖ノ體ニ製スレバ、第三階ニアリテ、上下、空白トナル。)且、又、三種ノ「掛リ、結ビ、」ヲ說カムニモ、其活用ノ第三、第四、第五階ニアラムヨリハ、第一、第二、第三階ニアラム方、太ダ善カルベケレバ、今ハ、連體言、已然言、トイフモノヲ、第二階、第三階ニ上ゲテ、截斷言ニ次ガシメ、而シテ、第一階、第二階ニアリシ將然言、連用言トイフモノヲ、ソノママ、下ニ下ゲタリ。又、希求言ハ、舊圖ニハ、略ケルガ多シ、然レドモ、其活用ノ體ノ異ナルモノモアルガ上ニ、奈行變格(死ね)ノ如キ、甚ダ迷ヒ易キモノモアレバ、今ハ、下ニ一階ヲ加ヘテ載セタリ。而シテ、第四、五、六階ノ順序ニハ、理由ナシ、唯、上ヨリ讀下諳誦セムニ、口調語路ノ好カラムニ從ヘリ。

又、從來、五階ノ名稱ヲ、將然言、連用言、截斷言、(又、終止言)連體言、已然言、トセリ。是等ノ名稱、好カラヌモアラネド、尙、論ズベキコトアリ。先ヅ、其本語ニ、用言トイフ名ヲ付シテ、又、其活用ニ、將然言、連用言、ナドト、言ノ字ヲ付スルハ、言中ニ言アルコトトナリテ、甚ダ初學ノ迷ヒヲ惹キ易シ、本篇ニ用ヰタル法ノ字トテモ、適當ナリトハ言ヒ難ケレド、(態ノ字當ラムトイフコトハ、前ニ說ケリ、)尙、迷ヒヲ避クルニ足ラム。又、文ノ「掛リ、結ビ、」ノ如キモ、「ぞ、や、か、」ノ掛リハ、連ス、トイヒ、已然ハ、過ギ了レル意ヲイフト釋キテ、又、ぞ、や、か、ノ「掛リ」ヲ結ブ(截斷用言ト定稱スルトキハ、差支ヘアルベシ。又、舊圖ニハ、各階ノ欄內ニ、助動詞、天爾遠波、等ヲ、一一插入シタレド、用言ノ活用ノミ說カム場合ニハ、甚ダ錯雜ヲ起スヲ覺ユ、サルハ、將然言ノ下ニ、「ゆかず」ナドアリテハ、唯、ゆくトイフヲ現在ニ打消ス意ノモノナレバ、將然トイフ命名ニ違ヒ、截斷言ノ下ニ、「ゆくべし」ナドアリテハ、連ル所アリテ、截斷トイフ意ニ合ハズ、連體ハ、體言ニ連ルトイフニ、「ゆくなり」ナドアリテハ、助動詞ニモ連ル意トナリテ、初學ヲシテ、甚ダ惑ハシム。

右ノ如クナレバ、此篇ノ表ノ各階ニハ、一切意義アル名稱ヲ付セズ、階ノ名稱トシテハ、單ニ、第一變化、第二變化、第三、四、五、六變化、ト稱呼セシムルコトトセリ。而シテ、「ぞ、や、か、」ノ掛リハ、第二變化ニテ結ビ、「ぞ、や、か、」ノ掛リハ、第三變化ニテ結ブ、トヤウニ稱ヘシメムトス。又、各變化ト、助動詞等トノ、連續ノ則ニ至リテハ、下ニ、別表ニ揭ゲテ、唯、某助動詞ハ、動詞ノ第幾變化ニ連續ス、トノミ說キ、此場合ニハ、絕エテ動詞ノ變化ノ意義ヲ言ハズ、而シテ、直說法、(截斷言)分詞法、(連體言)ノ如キ意義アル稱呼ハ、階ノ稱呼ノ外ニ立テテ、其階ヲ、直ニ何何法(何何言)ナリトハ言ハズシテ、直說法ニハ、第一變化ヲ用ヰ、接續法ノ已然ニハ、第三變化ヲ用ヰ、將然ニハ、第四變化ヲ用ヰ、或ハ、折說法ニハ、第五變化ヲ用ヰ、熟語法ニモ第五變化ヲ用ヰル、ナド稱ヘシメムトスルナリ。

第二表　形容詞ノ語尾變化……法

熟語法 Compound form.	直說法（終止） Indicative mood.	形容法（連體） Adjective form	接續法 已然 Subjunctive mood. (if) Perfect.	接續法 將然 Subjunctive mood. (if) Imperfect.	折說法 Participle, present.	副詞法（連用） Adverb.
語根	第一變化卽本體	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化	
（善）よ	よ-し	よ-き	よ-けれ	よ-く	よ-く	
（高）たか	たか-し	たか-き	たか-けれ	たか-く	たか-く	
（遠）とほ	とほ-し	とほ-き	とほ-けれ	とほ-く	とほ-く	
（惡）あし	あ-し	あ-しき	あ-しけれ	あ-しく	あ-しく	
（樂）たのし	たの-し	たの-しき	たの-しけれ	たの-しく	たの-しく	
（同）おなど	おなど-し	おなど-き	おなど-けれ	おなど-く	おなど-く	

第一類（クシキ活用）　第二類（ジシキ活用）

○各欄內ニ、三語ツツ擧ゲタレド、各類ニ各三種アルニアラズ、唯、同變化ノモノヲ、三語ツツ出セルマデナリ。

○欄上ノ「クシキ活用」「ジシキ活用」又、欄右ノ終止、連體等、括弧內ノ名目ハ、舊稱トノ對照ナリ、又、表中ニ、同形ノ變化ノ重出セル事、又、第五階ニ、折說法、副詞法、トテ、併セテ當テタル事、等ノ辨ハ、前ノ動詞ノ表（第一表）ノ裏面ノ說明ニ準ヘテ知ルベシ。

○舊圖ト、位置、名稱、ノ變ハレルコトモ、動詞ノ條ニ辨ジタルニテ知ルベシ。

○第一類ノ變化ヲ「形容詞ノし、きノ變化」ト稱スベシ、第二類ヲ「形容詞ノし、しきノ變化」ト稱スベシ。（語路惡シケレバ、畧ニ從フ、僅ニ二類ナレバ、覺ユ
ルニ難カラズ）

形容詞（形狀言）

形容詞（ケイヨウシ）ハ、名詞ノ後ニ附テ、其形容、性質、情意等、ナイフ語ナリ。例ヘバ、「山、高し」ノ「高し」海、深し」ノ「深し」ハ、其形容ナイヒ、「是レ、善し」彼レ、惡し」ノ「善し」惡し」ハ、其性質ナイヒ、「會フハ、嬉し」別ルハ、悲し」ノ「嬉し」悲し」ハ、其情意ナイフガ如シ。

○語尾ノ變化　形容詞モ、亦、語尾ヲ變化シテ、文章ノ末ヲモ結ブ。然レドモ、其變化ノ狀、動詞トハ甚ダ異ニシテ、二類ニ別ル。

第一類　一種　第二類　一種

○第一類變化　此類ノ變化ハ、唯、一種ニシテ、其狀、し、き、けれ、く、と、ト變化ス。表ニ擧ゲタル三語、皆、同種ナリ、第二類ナルモ然リ。

○第二類變化　此類ノ變化モ、唯、一種ニシテ、其狀、し、しき、しけれ、しく、しと、ト變化ス。第一類ノ語根ヲ疊用スルモノハ、率ネテ變ジテ、第二類變化トナル。例ヘバ、とほし、（遠）おはし、（强）かろし、（輕）等ハ、第一類變化ナルニ、「とほとほし、」「おはおはし、」「かろがろし、」トナレバ、第二類變化トナルガ如シ。其他、いまいましし、（忌）うやうやし、（恭）くだくだし、（煩縟）ををし、（男）めめし、（女）ナド、疊ミテイフ語モ、率ネテ、然リ。

○おほきし（大）トイフ形容詞ハ、おほきき、おほきけれ、ト用ヰタルヲ見ズ、又、すむやけし（速）ヲ、すむやけけれ、ト用ヰタルヲモ見ズトイフ、是等ハ、變化ノ闕ケタル不成語ナルカ、或ハ、古書ニ、偶、其用例ノ存セザルモノカ。又、副詞ノすくなし（少）ヲ、すくなしき、すくなしく、ナドト、形容詞ノ如ク用ヰルコトアルハ、誤用ナラム、サルハ、すくなし、ヲ直說法ニ用ヰタルヲ見ザレバナリ。（すくなしけれトイフベクモアラズ）其他、尙、委シキコトハ、文典ニ讓ル。

○法　形容詞ノ法ハ、動詞ノ法ト、大ニ似テ、少シ異ニシテ、分詞法、名詞法、命令法、無クシテ、別ニ形容法、副詞法アリ。（但シ、形容法ハ、分詞法ト、粗同ジキモノナリ。）即チ、

（一）直說法　（二）形容法　（三）接續法

（四）折說法　（五）副詞法　（六）熟語法

左ニ、形容詞ノ法ヲ、大略ニ說カム。ソノ動詞ノ法ト同ジキモノハ、相準ヘテ知ルベシ。

（一）直說法　文章ノ末ヲ結ブ法ニテ、コレヲ形容詞ノ本體トス。例ヘバ、

行ヒ、善し。　名、高し。　謗ルハ、惡し。　見ルハ、樂し。

尋常ノ直說法ハ、右ノ如シ　若シ、文中ニ、天爾遠波ノそ、や、か、又ハ、おそ、ノ入ルヰハ、第一變化、又ハ、第三變化ヲ用ヰルヿ、亦、動詞ノ如シ。例ヘバ、

香そ好き。　聲そ高き。　謗ルそ惡しき。　見ルそ樂しき。

香や好き。　聲や高き。　謗ルや惡しき。　見ルや樂しき。

何レか好き。　何レか高き。　何レか惡しき。　何レか樂しき。

香おそ好けれ。　聲おそ高けれ。　謗ルおそ惡しけれ。　見ルおそ樂しけれ。

（二）形容法　他ノ名詞ノ上ニ連ル法ナリ。例ヘバ、

色ノ好き花。　峯ノ高き山。　行ヒ、惡しき人。　心、樂しき時。

或ハ獨立シテ用ヰテ、

好き色。　高き山。　惡しき心。　樂しき時

又、下ニアルベキ名詞ヲ含ミテ、直ニ、名詞ノ如クニモ用ヰル。例ヘバ、

香ノ好キヲ愛ヅ。　山ノ高キニ登ル。

善キト悪シキトヲ別ツ。　樂シキ、悲シキ、樣樣ナリ。

(三)接續法　動詞ノ接續法ト全ク相同シキモノニテ、亦、已然、將然ノ別アリ、其意味モ、相準ヘテ知ルベシ。例ヘバ、

已然　將然　已然　將然

善ケレド、　善クモ、　悪シケレド、　悪シクモ、

高ケレド、　高クモ、　樂シケレド、　樂シクモ、

其他ノ用法、率ヲ、動詞ノ接續法ノ如シ。

(四)折説法　文章ノ中間ニテ、其意ヲ言止シテ、下ノ語ニ照應スルヿ、動詞ノ折説法ニ同ジ、相準ヘテ解スベシ。例ヘバ、

性質、善ク、品行、修マル。　山、高ク、海、深シ。　惡シク、且、賤シ。　樂シク、又、喜バシ。

是、亦、句毎ニ言ハバ、「性質、善シ。品行、修マル。」山、高シ。海、深シ。」ナドイフベク、或ハ、「品行、修マリ、性質善シ。」海、深ク、山、高シ。」トモイフベキナリ。

數語、相連リ、又、數語ヲ隔テテ、他ノ種種ノ語ニ照應スルヿアルモ、動詞ノ折説法ニ同ジ。例ヘバ、

心、善ク、(善シ。又、)行ヒ、正シク、(正シ。又、)其功モ、甚ダ高シ。

丈、高ク、(高キ、又、)骨、逞シキ人。　幅、廣ク、(廣ケレド、又、)丈、長ケレド、

○舊說ニテハ、此法、並ニ、次ノ副詞法ヲ、共ニ、連用言ト稱シテ、相別タズ、然レドモ、副詞法ハ、「善く修マル」樂しく思フ」ナド、「修マル」思フ」ニ副ヒテ、其意ヲ言添フレドモ、折說法ハ、各自、獨立ノ意ヲ言ヒテ、文、句、ヲ結バズマデノモノナリ、混ズベキニアラズ。

(五) 副詞法　形容詞ノ變ジテ副詞トナルモノナリ。(副詞ノ事、後ニ擧グ。) 例ヘバ、

善く修マル。　高く昇ル。　惡しく變ル。　樂しく思フ。

甚しく寒シ。　全く無シ。　遠く遙ニ見ユ。　淺く平ニ流ル。

又、副詞法ハ、動詞ノあり(ある、あれ、あら)ト連ナリテ、例ヘバ、「善くあり」惡しくある」善くあれ」無くあらむ」ナド用ヰラルルモ、ソノくトあト約リテ、「善かり」惡しかる」善かれ」無かれ」善からむ」無からむ」ナドトナルヿ、常ナリ。扱、又、ソノ「善からむ」無からむ」ナド更ニ約マリテ「善けむ」無けむ」トモナリテ、一種異樣ノ語尾ヲナシ、(けめト變化セズ)又、「善からむ」善かれど」ナドモ、再ビ約リテ「善けむ」善けど」トモナル。但シ、此用法ハ、古ク、且、稀ニシテ、形容詞一般ニ用ヰ難シ。

(六) 熟語法　他語ト合シテ、熟語トナル法ニテ、語根ヲ用ヰル。然レモ、形容詞中、此法ヲ成サザルモノモ多シ。左ニ、其例ノ若干ヲ擧グ。

第一類變化ニテ、

古詞。　長歌。　高山。　遠野。　淺瀨。

高光ル。　遠離ル。　近寄ル。　薄暗シ。　細長シ。

第二類變化ニテ、

惡し樣。　同ジ事。　嚴し鋒。　可憐し妹。　賢し女。

顯し身。　空し車。　空し烟。　長長し夜。　嬉し涙。

又、「無シ」ハ、第一類變化ナレバ、「神無月」「正無言」ナドト用ヰルハ、尋常ナルニ、或ハ「友無し千鳥」「根無し言」「耳無し山」ナドトモ用ヰルハ、特例ナリ。(又、「空車」「可惜事」ナドノ空、可惜ハ、生得ノ接頭語ナルベク、第二類變化ノ語根ノしヲ去リテ用ヰタルニハアラザルベシ、)

○語根　形容詞ノ語根ヲ「稀ニ、直說法ノ如ク用ヰルヿアリ。

アナ憂(シ)世ノ中。　アナ畏(シ)人ニ語ルナ。　アナ尊(シ)　アナ憂(シ)ヤ。　アナ畏(シ)ヤ。

○又、語根ヲ、稀ニ、名詞ノ如ク用ヰルヿアリ。　ソノ句ナルハ、句ヲ一團ノ語ト見ルナリ。(第一類天爾遠波ノノ條見合ハスベシ)

面白ノ春ノ夜。　アラ難有ノ御心。　怨し心。　口惜し事。　恥し事。

怪しノ法師。　アナ恐しノ事。　あさましノ世ヤ。

又、「無シ」ハ、「味氣無ノ世ノ中」「暇無ノ身」「面無ノ狀ヤ」ナドトモ用ヰ、又ハ、「來ル人無シノ宿ノ庭」「御身モ甚クノ甲斐無シニテハ無ケレド」ナドトモ用ヰルハ、異ナリ。

○又、語根ニ、さトイフ接尾語ヲ添ヘテ、文ノ末ヲ結ブヿアリ。但シ、第一類天爾遠波ノの、がノ下ニ限ル。

音の清亮さ。　人の無情さ。　聞くが悲しさ。　言フが侘しさ。

以上、常ニ、和歌ニ用ヰル。散文ニハ、多クハ、更ニ、よヲ添フ。

逢ヒタルヿの嬉しさよ。　捨テラレムヿのあさましさよ。

○又、語根ニ、みトイフ接尾語ヲ添ヘテ、副詞ノ如ク用ヰルヿアリ。

苫ヲ粗み、我ガ衣手ハ露ニ濡レッツ。　瀬ヲ速み、岩ニ塞カルル瀧川ノ。
名ヲ睦しみ。　君ヲやさしみ。　月清み。　山高み。

其意ハ「苫粗キガ故ニ濡ル、」「瀬速キガ故ニ塞カル、」ナドナリ。（苫ヲ、瀬ヲ、等ノヲハ感動詞ナリ）但シ、此用法ハ、和歌ノ上ニ多シ。

○

○從來ノ語學書ニハ、多クハ、形狀言ノ「深み」「高み」「重げ」「惡げ」「善さ」「惡シさ」（名詞トナルモノ）ナドノみ、げ、さヲ、形狀言ノ活用ナリトシテ說ケルガ多シ。サレド、是等ハ、一種ノ接尾語ノ、形狀言ノ語根ニ添ハリテ體言トナルニテ、活用ニハアラジ。サレバ、形狀言ニハ限ラデ、「有リげ」「物思ヒげ」「思ハズげ」或ハ、「逢フさ」「離ルさ」「行クさ」「來さ」「歸ルさ」「入ルさ」ナド、作用言ニモ付ケリ、是等ヲモ活用ナリトハイハルマジ。げハ、氣ナリ、さハ、狀ナリ、みモ、狀ヲイフ語ナリ。又、「降リみ、降ラズみ」「蹈ミみ、蹈マズみ」ナド用ヰルみハ、「試ル」トイフ作用言ノ活用ナリ、混ズベキニアラズ。

○

○英語ノ Adjective. ハ、大抵、名詞ニ冠ラセテ、其形狀性質ヲイヘリ。我ガ形容詞モ、名詞ノ形狀性質等ヲイフハ、相同ジケレドモ、語ノ成立ニ至リテハ、甚ダ相異ナリテ、語尾ニ、變化アリ、法アルコト、動詞ノ如クニシテ、且、常ニ、名詞ノ後ニ居テ、文ノ末ヲモ結ベリ、（羅何、佛、獨等ノ形容詞ニハ、變化アリ、且、或ハ名詞ノ後ニ用ヰルモアリ、然レドモ、共ニ、文ノ末ヲ結アコトハ無キガ如シ。）サルヲ、彼ノ文法ヲ以テ我ガ文法ヲ論ズルモノ、彼ノ語法ノ、先入シテ主トセルガ故ニ、之ヲ肯ハズシテ、徒ニ、「高キ」「深キ」ハ、Adjective. ナリ、「高ク」「深ク」ハ、副詞ナリ、「高シ」「深シ」ノシハ、一箇ノ助動詞ノ如キモノナリトシテ、各自、別語ナリト誤認シ、一語ノ語尾ノ變化ナルコトヲ曉ラザルモノ多シ。サレド、「高キ」「深キ」ヲ獨立ニ用ヰテ名詞ニ冠スル時（卽チ、形容法）ニコソ、Adjective トモ言ハルレ、「日本ノ高キ山」「太平海ノ深キ處」ナド言ヒ、又ハ、「山ヲ高キ」「海ヲ深キ」或ハ、「山ヲ高ケレ」「海ヲ深ケレ」ナド文ヲ結アナドハ、如何ニカセム。又、「高ク」「深ク」ヲ、獨立ニ用ヰテ、「高ク昇ル」「深ク思フ」ナドイフ時（卽チ、副詞法）ニコソ、副詞トモイフベケレ、若シ、「山高ク」（卽チ、折說法）「海深シ」ト言ハバ、如何ニカスベキ、「高ク」トイフ副詞ニテ、「深シ」ノ意ヲ調停ストイフベキカ、「高ク深シ」トイヒテ、爭デカ語ヲ成スベキ。我ガ形容詞ハ、斯ル一種ノ特性アルモノナレバ、別ニ本文ノ如キ規定アルナリ、尙、本文ニ說ケル所ヲ玩味（モデヤス）シテ覺レ。

○國語ニテ生得ノ Adjective. ヲ求メバ、新（ニイ）、初（ハツ）、眞（マ）、御（ミ）ナドイフ一類ノ語ナラム。サレド、是等ノ語ハ、何レノ名詞ニモ冠ラスベキニアラズ、其慣用ニ限レル所アリ、且、獨立ニハ用ヰズ、必ズ熟語トナリテ文中ニ出ツ、故ニ、今ハコレヲ接頭語トシタリ。

○又、洋語ノ Adjective. ニイフ階級（Degree.）ハ、其語體ヲ變シテ成ルモノナレド、我ガ形容詞ニハ、此事無シ、コレヲ譯セムニハ、「是ヨリ善シ」「最モ善シ」ナドトモヌ
ベケレド、ソノヨリ、最モハ、別語ヲ用ヰルナレバ、形容詞中ノ一則トシテ說クベキモノナラズ。

助動詞

助動詞ハ、動詞ノ變化ノ、其意ヲ盡サザルヲ助ケムガ爲ニ、別ニ其下ニ附キテ、更ニ、種種ノ意義ヲ添フル語ナリ。例ヘバ、「行キたり、」「眠りぬ、」「語ラず、」「言ハむ、」「打タ志む、」ナドノたり、ぬ、ず、む、志む、ノ如シ。又、他ノ助動詞ニモ附クコトアリ、「行キたりき、」「打タ志めらる、」ノき、らる、ノ如シ。又、名詞、又ハ、形容詞、(其形容法ヲ名詞ト見ルモノ)或ハ、副詞ニ附クモノモアリ、「月なり、」「花なり、」「善キなり、」「惡シキなり、」「父たり、」「字たり、」「時雨せり、」「紅葉せり、」「強クせり、」「詳ニせり、」ナドノなり、たり、せり、ノ如シ、是等ハ、一個ノ動詞ノ如キ意義ヲモ成セドモ、獨立シテ文ノ冒頭ニ用ヰラルルヿ無ク、常ニ、必ズ、他語ノ下ニ附キテ文中ニ出ヅルモノナレバ、尙、助動詞タリ。

○「行キ交フ、」「爲難ク、」「言ヒ過ス、」「讀ミ止ス、」「馴レ初ム、」ノ「交フ、」「難ク、」「過ス、」「止ス、」「初ム、」ナドハ、獨立ニ用ヰタルヲ見ザレバ、助動詞ナルカ如クナレドモ、其意義、十分ニ動作ヲ言ヘバ、尙、動詞タルベシ。

助動詞ハ、其語、大抵、短縮ナレドモ、變化アリ、法アリテ、又、能ク、文章ノ末ヲ結ベリ。而シテ、其意義變化ノ狀ハ、動詞ニ似タルアリ、形容詞ニ似タルアリ、又、或ハ、感動詞ノ如キモアレド、尙、變化アリ、又、其一二三、無變化ノモノ(Defective.)モアレド、亦、尙、能ク、文章ノ末ヲ結ベリ。

助動詞ノ數、凡ソ、三十アリ。第三表ニ於テ、其三十語ヲ載セテ、其意義ト變化ト法トノ狀ヲ示セリ。其變化ト法トノ趣ハ、動詞、形容詞、ノ變化ト法トニ異ナルヿ無ケレバ、表中ノ名稱ノ相同ジキモノハ、相對照セシメ、相準ヘテ覺ルベシ、因テ、此ニハ複說セズ。但シ、各助動詞ノ意義ニ至リテハ、後ニ、更ニ、逐條

ニ説クベシ。又、動詞ト助動詞ト連續スル法則、又ハ、助動詞ト助動詞ト連續スル法則ハ、第四表、第五表、ニ就キテ知ルベシ。（各表ニ附セル説明ヲモ見ヨ）

〇使役ノ助動詞

使役シテ此動作ヲ爲サシムルニハ、「押サス、」「受ケさす、」「報イ㐮む、」ナドイフ。此ノ㐮む、す、さす等ヲ、使役ノ助動詞トス。

（1）㐮む　上ノ三語、使役ノ意ヲイフコト、相同ジクシテ、共ニ、

（2）す　動詞ノ第四變化ニ連ル。但シ、㐮むハ、アラユル動詞

（3）さす　ニ連レモ、すハ、規則動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第三類ト、ニ連リ、さすハ、其他ノ各類ニ連ルコト、下第三類ト、第四類ト、ニ連リ、さすハ、其他ノ各類ニ連ルコト、下ノ表ノ如シ。

「行カ㐮め畢ンヌ」「言ハせ盡ス」「受ケさせ侍リ」ナド用ヰルハ、熟語法ナリ。「使ハ㐮め」（俗ニ、「見セ㐮め」「懲ラ㐮め」）ナドハ、名詞法ナリ。又、古クハ、「知ラ㐮め」「見㐮め」ナドト、よヲ添ヘズシテ、命令法トシタルモ見ユ。

〇受身ノ助動詞

「押ス、」「打ツ、」「報ユ、」ハ、我ヨリ他ノ上ニ働キ掛クル動作ナルヲ、他ノ其動作ヲ起シテ、我レ受身トナルキハ、る、らる、トイフ助動詞ヲ加ヘテ、「押サる、」「打タる、」「報イらる、」ナドイフ。此ノ彼我ノ動作ヲ、働掛、受身、或ハ、能相、所相、トイフ。

| 尋常 | 使役 | | |

(4) る　上ノ二語、受身ノ意ヲイフ「、相同ジ、而シテ、共ニ、

(5) らる　衆動詞ノ第四變化ニ連ル。但シ、其中ニ、るハ、規則動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第三類ト、第四類ト、ニ連リ、らるハ、其餘ニ連ル「、表ノ如シ。

「言ハれ侍リ、」「報イられ候フ、」ナドハ、熟語法ナリ。又、「西光、切ラれノ事、」(平家)「其謂ハれ、無キニアラズ、」ナドハ、名詞法ナリ。

○西洋ノ動詞ニテハ、能相、所相ハ、他動詞ニノミアリテ、自動詞ニハ、無キガ如シ。然ルニ、國語ノ動詞ニハ、自、他、共ニ、之ヲ用ヰル、委シクハ、文典ニ說クベシ。

又、己ガ心ヨリ、己レニ動作ヲ起シ、カケラルル意ヲナスヿアリ、「昔シ懷バる、」「行末ノ考へらるる、」ナドノ如シ、是等ハ、自所相ト(シショサウ)モイフベシ。

		能相(Active.)(ハタラキカケ)	所相(Passive.)(ウケミ)
規則動詞	第一類	第一變化	第四變化
	第二類	押ス	押サる
	第三類	受ク	受ケらる
	第四類	報ユ	報イらる
不規則動詞	第一類	着ル	着らる
	第二類	來ク	來らる
	第三類	爲ル	爲らる
	第四類	死ヌ	死なる
		有リ	有らる

○敬語　使役、受身、ノ助動詞ハ、絶テ使役、受身、ノ意無クシテ、唯、他ノ動作ヲ敬ヒ言フ語トナルヿアリ、コレヲ敬語(ケイゴ)トイフ。而シテ、使役ノ方ハ、大抵、「給フ、」「座ス、」(オハス)ナドイフ語ト共ニ用ヰル。例ヘバ、「位ニ即カせ給フ、」「起キさせ座ス、」(オハス)或ハ、「君ニモ殊ニ喜バる、」「釋尊ノ言ハるるニ師ノ考へらるるヤウ、」ナドノ如シ、是等、「即キ給フ、」「行キ給フ、」「起キ給フ、」「喜ビ給フ、」「言ヒ給フ、」「考へ給フ、」ナドイフト、大異ナシ。

(書狀ノ文ニ、「被」遊、「被」下、ナド用ヰルモノ、「是レナリ、」)又、重ヲテ用ヰルハ、一層重キ敬語ナリ、「行カせらる、」召サせらる、」「棄テさせらる、」ノ如シ。但シ、「殿より、使、隙なく、たまはせて、子安貝、とりたるかと、問はせ給ふ、」(竹取)ナ

ドハ、「問ヒたせ」ニ、使役ノ意アリ、或ハ、「猶、それ、舞はせさせ給へと、集て申まとひしかば、」（枕草子）ナド用ヰタルモ、「舞ハせ」ニ、使役ノ意アリテ、其以下、敬語ナリ。

○或云、貴人ハ、何事ヲ爲ムニモ、自ラ手ヲ下スコト無ク、他ヲ使役シテ爲サセ、又ハ、他ニ爲ラルルヨリシテ、此ノ如キ敬語ハ出デタリトイフ。然ルトキハ、自ラ使役、受身ノ緣ナキニアラズ。

○又、生得ノ敬語アリ、「聞ス（キカ）、聞ベ（キコ）、立ス（タタ）、通ス（カヨハ）、知ス（シラ）、知ス（シロ）、思ス（オボ）」ナド、何多シ、是等ハ、規則動詞ノ第一類（す、す、せ、さ、し、せ）三變化スル語ニテ、辭書ニハ、既ニ、各自、一語トシテ擧ゲタレバ、爰ニ論ゼズ。

○能力ノ助動詞　尋常ニハ、「押ス、」「讀ム」「受ク、」「堪（コラ）フ」ナドイフ動作ヲ、更ニ、「已ガ力、能ク爲シ得ル」意ニイフトキハ、「る、らる、」トイフ助動詞ヲ加ヘテ、「押サる、」「讀マる、」「受ケらる、」「堪（コラ）へらる、」ナドイフ、其意ハ、「押スヿヲ得、」「受クルヿヲ得、」ト言ハムガ如シ、コレヲ能力（ノウリキ）（Potential）ノ助動詞トス。（前條、受身ノ助動詞ト、形、全ク相同ジケレドモ、相混ズルヿ勿レ。）

（6）る　上ノ二語、能力ノ意ヲイフヿ相同ジ、共ニ、動詞ノ第

（7）らる　四變化ニ連ル。但シ、るハ、規則動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第二類ト、第三類ト、第四類ト、ニ連リ、らるハ、其餘ノ各類ニ連ル。表ノ如シ。

	尋常	能力
第一變化	第四變化	
押ス	押サる	第一類
受ク	受ケらる	第二類
報ユ	報イらる	第三類
着ル	着らる	第四類
來ク	來らる	第一類
爲フ	爲らる	第二類
死ヌ	死ナる	第三類
有リ	有らる	第四類

○指定ノ助動詞　次ニ擧グルなり、たり、べし、等ハ、事物ヲ指シ定ムル意アレバ、コレヲ指定（シテイ）ノ助動詞トス。

(8) なり　指定解説スル語ニテ、「なて、あり」ノ意ナリ。(語原ハ、「な、あり」ノ約レルナルベシ、) 此語、動詞ニ連ルトキハ、必ズ「其第二變化ニ連ル。例ヘバ、「押スなり、受クルなる、報ユルなれ、爲ルなれど、」ナドノ如シ。

○此語ハ、詠歎ノ意ヲイフ助動詞ノ(22)なりト、混シ易シ。指定ノなりハ、口語ニ寫セバ、「押スぢや、行クぢや、」ナドノ意ヲナシ、詠歎ノなりハ、「押スわい、行クわい、」ナドノ意ヲナス、因リテ、「ぢヤなり、」「ワイなり、」トモイヒテ、コレヲ分ツ。且、他ノ動詞ト連ル規定モ、此條ノなりハ、其第二變化ニ連リ、詠歎ノなりハ、第一變化(不規則動詞ノ第四類ノミハ、其第二變化ニ連ル、尙、前ノ第四表ヲ見テ辨別スベク、後ノ(22)なりノ條ヲモ見ヨ。

此語、又、獨立動詞ノ如ク、直ニ、名詞、副詞、ニモ伴ヒテ、指定解説ノ意ヲイフ、「月なり、花なり、」「是レなり、」「夫レなり、」「宜(ウベ)なり、」「然(シカ)なり、」ノ如シ。

此語、又、形容詞ノ第二變化ニモ連ル、「善キなり、」「惡シキなり、」ノ如シ。(是ハ、其第二變化ナル形容法ヲ、名詞トシテ連ヌルモノノ如シ、)

○又、「靜なり、」「明なり、」「詳なり、」ナドイフなりハ、此條ノなりト、似テ異ナルモノニテ、「靜ニ、」「明ニ、」「詳ニ、」ナドイフ副詞ノ末ノに、ニ、動詞ノあり、ノ約マリテ、なりトナレルナリ。(此事、尙、副詞ノ條ニ言フベシ) サレバソノなりハ、尋常動詞ノあり、ト、勢力(ハタラキ)同ジクテ、「靜ならシム、」ナド、使役ノ助動詞ニモ連ヌベク、又、「いつよりも、今宵の月ハ、さやかなれ、秋のゆふべも、たどるべかりき、」(仲文)ナド命令法ニモ用ヰルベシ。サルニ、此條ノなりハ、然ルコト能ハズ、尙、第三表、第五表ヲ見テ知ルベシ。因ニ云、助動詞ノ、ざとし、ニモ、「ざとく、なり、」ト、連ネテ用ヰルコトアリ、是モ、「ざとく、な、あり、」ノ約マレルナルベシ。

(9) たり　此語ノ意義モ、「なて、あり、」ト指定スルモノナリ。(語原ハ、「と、あり」ノ約マレルナルベシ、) 此語ハ、名詞ニノミ連リテ、動詞ニハ屬(ツ)カズ。例ヘバ、「あくれば、五日のあかつきは、せうさたる人、外よりきて、」(かげろふ日記) 其他、「父たり、」「子たる、」「君たり、」「人たる、」ナド、常ニ用ヰル。又、漢籍讀ニ、「峨峨たり、」「寂莫たり、」ナド用ヰルモ、「と、あり」ノ約マレルニテ、亦、此語ナリ。

(24)べし　心ニ推シ量リテ定ムル意ノ語ナリ、「斯クアルべし」「我レ行クべし」ノ如シ。又、強ク指定シテ、命令スル意ヲモナス、「疾ク行クべし」「速ニ來べし」ノ如シ。此語ハ、衆動詞ノ第一變化ニ連ルヲ規定トスレド、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ連ル。

○又、此ノべし及ビ(20)らむ(30)らし、等ハ、規則動詞ノ第四類ニ連ルトキ、尋常、其第一變化ニ、「見ルべし」「居ルらむ」「煮ルらし」ナド連ルニ、又、或ハ、「見べし」「居らむ」「煮らし」ナドトモ連ルコトアリテ、甚ダ異ナリ、尙、其委シキハ、文典ニ譲レリ。

○又、此語ハ、尋常ノ形容詞ト同ジク、「べ、けむ、べ、かり」ナドトモ用ヰル、其用法ハ、形容詞ノ條ニ說ケルニ準ヘテ知ルベシ。

○打消ノ助動詞　「押ス、」「受ク、」ナドハ、正面ニ說ク動作ナルヲ、其動作ヲ、反面ヨリ說キテ打消ス時ハ、「押サず、」「押サざる、」「受クまど、」「受ケど、」ナドイフ。其正面ニ說クヲ、正說トシ、(Positive.)反面ヨリ說キテ打消スヲ、反說、又ハ、打消トス。(Negative.)

(10)ず　動作ヲ、ソノママニ打消ス語ナリ、「押サず、」「受ケず、」ノ如シ　此語ハ、アヲユル動詞ノ第四變化ニ屬ク。此語ハ、又、動詞、名詞、ヲ履ミテ熟語法ヲナス、「絶エず行ク、」「飽カず思フ、」「降リ試、降ラず試、」「問ハず語、」「知ラず顔、」ノ如シ。又、地名ニ、「親知ラず」ナドアルハ、名詞法ナリ。

○此語ノ變化ノぬ、ぬヲ、過去ノ助動詞ノ(13)ぬ、ぬ、ト別チテ、打消ノぬ、ぬトイフ。又、古クハ、「飽カぬ、」「得ぬ、」ナドヲ「飽カに、」「言ヘバ「得に、」ナド用ヰ、又、「行カぬニ、」「言ハぬニ、」ナドヲ「行カぬ〳〵ニ、」「言ハぬ〳〵ニ、」ナド延ベテ用ヰタルアリ。(委シクハ、文典ニイハム。)

(11)ざり　前條ノずト、動詞ノありト、約マレルモノニテ、他ノ動詞ニ連ル規定モ、ずニ同ジ、「押サざり」「受ケざる」ハ、即チ、「押サず、あり、」「受ケず、ある、」ノ約ナリ。直說法ニ用ヰタルハ、「朱雀院ヒ、御子たち、おはしまさざり、ただ、王女御ヒ聞えたる御腹ヨ、云云、」(榮花、月宴)ノ如シ。(此ノ語ハ、一ノ助動詞トシテ擧グルマデモ無キ

ヤウナレド、今、姑ク存ス）

(26)まド　推シ量リテ打消ス語ニテ、ずノ豫定ナリ、「押スまド」「受クまド」ノ如シ。此語、衆動詞ノ第一變化ニ屬キ、唯、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ屬ク。

(27)ド　前條ノ語ニ同ジクテ、其意、稍、強キガ如シ、諸動詞ノ第四變化ニ連ル、「押サド」「受ケド」ノ如シ。此語、希ニ「熟語法ナモナス、「今夜(コヒ)のみ、相見て後ハ、逢はどものかも」(万葉)「みだりな人を、寄せどものかや」(後撰)其他、「負ケド魂」ナドハ、常ニモイヘリ。此語ハ、本體アルノミ、變化ナシ。（サレド「そ、や、か、」又ハ、「ぞ、ノ結法(ムスビ)トハナルガ如クモ思ハル、其事ハ、文典ニ讓ル）

○過去、未來、ノ助動詞　「押ス、「受ク、」トイフハ、其動作ノ最中(モナカ)ナルニイフ。扨、其動作ヲ、既往ニ就キテイフキハ、「押シき、」「受ケたり、」ナドイヒ、又、其動作ヲ、未然ニ就キテイフキハ、「押サむ、」「受ケむ、」ナドイフ。此ノ如キ動作ノ差違ヲ、動詞ノ時(トキ)トイヒ、其差違、現在(ゲンザイ)、過去(クワコ)、未來(ミライ)、ノ三樣ニ分ル。

現在　現在トハ、現ニ、今、動作スルヲイフ、「押ス、「受ク、「生ク、「着ル、」ノ如シ。

過去　過去ノ意義、三種ニ分ル。

第一過去ハ、動作ノ方ニ終ハリタルヲイフモノニテ、つ、ぬ、たり、ノ三助動詞ヲ用ヰル。卽チ、「押シつ、」「押シぬ、」「押シたり、」「受ケつ、」「受ケぬ、」「受ケたり、」「生キつ、」「生キぬ、」「生キたり、」「着つ、」「着ぬ、」「着たり、」ノ如シ。此三語ノ意、相同ジ。又、コレト同意ナルニ、「押セり、」「罪せり、」ナドイフリ、ぜり、アリ、末ニ說クベシ。

第二過去ハ、動作ノ過ギテ程歷シヲイフモノニテ、助動詞ノけり、き、ヲ用ヰル。例ヘバ、「押シけり、」「押シき、」「受ケけり、」「受ケき、」ノ如シ。此二語ノ意モ、相同ジ。

第三過去ハ「第二ヨリハ、一層程歴タリシナイフモノニテ、第一過去、第二過去、ノ助動詞ヲ重用ス。即チ、第一ノつ、ぬ、たり、ノ第五變化ナルて、に、たり、ト、第二ノけり、き、トヲ、重ネテ、「押シて、けり、」「押シに、けり、」「押シたり、き、」ノ如シ、而シテ其意モ、皆、相同ジ。

未來　未來ハ、未ダ起ラザル動作ナイフモノニテ、助動詞ノむ、ヲ用ヰル、「押サむ、」「受ケむ、」「生キむ、」ノ如シ。

又、第一、第二、第三過去、共ニ、其動作ハ、過去ナルベキヲ、推測シテ未來ニイフコトアリ。即チ、

第一過去ニテハ、つ、ぬ、たり、ノ第四變化ナルて、な、たら、ニ、未來ノむヲ重ネテ、「押シて、む、」「押シな、む、」「押シたら、む、」「受ケて、む、」「受ケふ、む、」「受ケたら、む、」ナドイフ。

第二過去ノけり、き、ニハ、別ニ、助動詞ノけむヲ用ヰテ、「押シけむ、」「受ケけむ、」「生キけむ、」ナドイフ。

第三過去ニテハ、第一過去ノつ、ぬ、たり、ノ第五變化ナルて、に、たり、ニ、前ノけむヲ重ネテ、「押シて、けむ、」「押シに、けむ、」「押シたり、けむ、」「受ケて、けむ、」「受ケに、けむ、」「受ケたり、けむ、」ナドイフ。

以上、數樣ノ時ヲ、表ニ示スヿ、下ノ如シ。

○表ニ掲ゲタル動詞ノ「押ス」ハ、規則動詞ノ第一類ナリ、「受ク」ハ、其第二類ナリ、「生ク」ハ其第三類ナリ、「着ル」ハ其第四類ナリ。而シテ、現在ハ、皆、其動詞ノ第一變化ナリ、

第三過去 (Third past.)	第二過去 (Second past.)	第一過去 (First past.)	現在 (Present.)	未來 (Future)
押シて、に、たり、けり、き、受ケて、に、たり、けり、き、生キて、に、たり、けり、き、着ル	押シけり、き、受ケけり、き、生キけり、き、	押シつ、て、ぬ、た、に、たり、たら、受ケて、ふ、たら、生キて、ふ、たら、着ル	押ス受ケク生キク着ル	押サむ受ケむ生キむ着ル
押シて、に、たり、けむ、受ケて、に、たり、けむ、生キて、に、たり、けむ、着ル	押シけむ、受ケけむ、生キけむ、着ル	押シて、ふ、たら、む、受ケて、ふ、たら、む、生キて、ふ、たら、む、着ル		

未來ニ接スルハ、皆、其第四變化ナリ、其餘ニ接スルハ、皆、其第五變化ナリ。表ニ就キテ、其各變化ト助動詞トノ連續ノ則ヲ覺ルベシ、尙、前ノ第四表ニ照シテ見ヨ。扨、又、不規則動詞ニテハ、ぬ、き、(し、しか)ノ連續ニ就キテ、異則アレバ、表ノ混雜セムヲ恐レテ、爰ニハ揭ゲズ、其異則ノ事ハ、次ニモイヘク、前ノ第四表ヲモ參考シテ覺ルベシ。

○又、此外ニ、古文ニテハ、「成リに、たり、」變ハリに、たり、」或ハ、「宮より、あを俄ゴ御迎へまと、宣をせたりつれど、心あわたたしくて、」(若紫)「打忘れたりつる古への御事をさへ、」(椎がもと)「年月歷たりぬれど、あかざりし夕顏を、つゆ忘れ給をぞ、」(玉鬘)ナド、第一過去ナルヲ、互ニ重用セルモアリ、或ハ、「けり、つる」ナド、第二過去ニ、第一過去ヲ連ネタルモアリ、或ハ、「けり、き」ナド、第二過去ヲ、互ニ重用セルモアリ、(此事、次ニイフベシ、)サレド、斯ル用法ハ、今ノ普通文ニハ、奇僻ナルベク、

(12)つ　動作ノ果テ止マル意ナイフ語ナリ。(語原ハ、止ト、意、通フナルベシ、)此語、アラユル動詞ノ第五變化ニ屬ク。但シ、此語ハ、多ク他動詞ニ屬キ、次條ノぬハ、多ク自動詞ニ屬ク、「暮ラシつ、」「暮レぬ、」「明カシつ、」「明ケぬ、」ノ如シ。(つノ音ハ、鋭ニシテ、ぬノ音ハ、軟ナルガ故カ、)サレド、一定ニハ言ヒ難シ、先ヅハ概則ナリト知ルベシ。

○自動ニ、「鳴キつる」有リつる」來つる」ト連ネタルモアリ、或ハ、他動ニ、「浮寐爲つラム」トモ連ネ、「旅寐爲ぬベシ」トモ連ネタルナドモアレバ、一樣ニハ定メカヌレド、先ヅハ本文ノ如シ。次次條ノたりハ、(此つノ變化ノテト、ありト、約マルナレド)自、他、共ニ連ル。

○「押シて、む」見て、む」ナドノ「て、む」ヲ、往往、一語トシテ說キタルモアレド、表ニモ揭ゲタルガ如ク、其テハ、つノ變化ニテ、コレニ、未來ノむヲ添ヘテ用ヰルモノナレバ、此篇ニハ、別ニ、一箇ノ助動詞トハセズ。

(13)ぬ　不規則動詞ノ「往ヌ」ヨリ變ジタル語ナルベク、(變化ノ不規則ナル狀モ全ク同ジ)動作ノ往キ畢レルヲイフ語ニテ、其意、つニ同ジ。此語モ、衆動詞ノ第五變化ニ連ナレド、(多クハ、自動詞ニ連ル、尙、前條ヲ見ヨ)不規則動詞ノ第三類ナル「往ヌ」「死ヌ」ノミニハ、全ク連ナラズ、尙、前ノ第四表ヲ見ヨ。此語

ノ第六變化ナル命令法ハ、「押シね」受ケね」生キね」ナド用ヰルモノナリ。

○此條ノぬ」「往ヌ」トハ、同根ヨリ生ジタル語ナレバ、連續セモ理ナリ。又、「死ニぬる」ナドハ、連續スベキカ如クナレド、古書ニ用例アルヲ見ズ、希ニ、「死ぬる」ナドトナルハ、「死ぬる」ナルベキヲ、僻讀シタルナルベシト云。

○此語ノ命令法ニ、過去ノ意ナシ、トイフ説モアレド、尚、微ニ、其意ヲ含メルガ如シ、「往キね」取りね」ノ如キ、口語ニ寫サバ、「行ッテまへ」取ッテまへ」ナルベシ。

○此語ノ變化ノぬ、ぬヲ、打消ノぬ、ねト別ニテ、「過去ノぬ、ね」或ハ、「畢ノぬ、ね」トイフ。

○又、「押シあむ」受ケあむ」ナドノ「なむ」ヲ、一語ト見ルモノモアレド、然ラズ、此ぬノ變化ノなニ、未來ノむヲ連用シタルナリ、表ヲ見テ知ルベシ。又、其「なむ」ハ、希望ノ(23)なむトニ混ジ易シ、過去ノ「なむ」トイフベシ。(天爾遠波ニモ、なむトイフ語アリ、混ジ思フコト勿レ、)

(14) たり　「て、あり」ノ約マレルニテ、「押シたり」受ケたり」ナドハ、「押シて、あり」受ケて、あり」ナリ、而シテ、其「て」ハ、前前條ノつノ變化ナレバ、スベテ、つト同意ナリト知ルベシ。熟語法ニ、「爲たり顔」(俗ニ、似たり貝)ナドモ用ヰル。此語モ、衆動詞ノ第五變化ニ連ル。

○此たりヲ、前ノ(9)たりニ別チテ、彼レヲ「指定ノたり」トシ、コレヲ「過去ノたり」トス。

(15) せり　「爲て、あり」トイフ程ノ意ニテ、亦第一過去ノ意ヲナス語ナリ。(語原ハ、「爲、あり」ノ約マレルナルベシ)此語ハ、固ヨリ、爲トイフ動詞ノ意ヲ含メルモノナレバ、獨立動詞ノ如キ力ヲナシテ、他ノ動詞ニハ屬カズ、甚ダ餘ノ助動詞ト異ナリ。例ヘバ、「蓋爾爲有」殿造せり」團居せる夜ハ」家居シせれバ」其他、「罪せり」導せり」歎息せり」工夫せり」烈シクせり」詳ニせり」ノ如シ。サレド、尚、全ク獨立シテ文ノ冒頭ナドニ、用ヰルル「無ク、必ズ、他語ノ下ニ屬キテ文中ニ出ヅルモノナレバ、尚、助動詞タリ。

○此語、古クハ、「庵せり、けむ」何せり、き」何せり、つる」ナド、第一、第二過去ト重用セルモ見ユ。

(16) り＝　此語ハ、規則動詞ノ第一類ニ限リテ屬ク助動詞ニテ、且、其第三變化ニ屬ク、卽チ、「行ケり」押セり」「別テり」ノ如シ。是等ノ意義ハ、「行キ、て、あり」押シ、て、あり」ナド解スベクシテ、亦、「行ク」押ス」等ヲ、第一過去ニイフナリ。規則動詞第一類ノ六種ノ語ニ連續セシメテ、左ノ表ヲ示ス。(尙、前ノ第二表、第四表ニ照シテ見ヨ)

直說法　分詞法　接續法（已然・將然）　折說法

第一變化	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化
行ケり	行ケる	行ケれ	行ケら	行ケり
亙セり	亙セる	亙セれ	亙セら	亙セり
別テり	別テる	別テれ	別テら	別テり
飛べり	飛べる	飛べれ	飛べら	飛べり
澄メり	澄メる	澄メれ	澄メら	澄メり
去レり	去レる	去レれ	去レら	去レり
		む	む	

○「行ケ」亙セ」別テ」飛べ」澄メ」去レ」ハ、スベテ、規則動詞第一類ノ第三變化ナリ。

屬ケテ、「受ケり」堪へり」終へり」ナド混用スルコト往往アリ、注意スベシ。又、「立ツ」添フ」染ム」(自動)ナドハ、規則動詞ノ第一類ナレバ、「立テる家」松ニ添へる石」赤ニ染メる衣」ナド屬クルコト、論無ケレド、規則動詞ノ第二類ナル「立ツル」添フル」染ムル」(他動)ヲ、「家ヲ立テる」石ヲ松ニ添へる」衣ヲ赤ニ染メる」ナドイフコトアルハ、口語調ニテ、文章調ニアラズ、混ジ思フコト勿レ。

○接續法ノ已然ニテハ、「難波邊ニ、人のゆけれど、おくれゐて、」將然ニテハ、「天の川、橋、亙せらむ」滄浪ノ水、清メら、以テ纓ヲ濯スベシ」ナド如シ。(忘貝、よせ來て置けれ」ナド、命令法ナラムカ)是等ノ用法、皆、古シ。

○此語、古クハ、「咲ケり、つる」咲ケり、き」給へり、き」讀メり、ける」ナド、第一、第二ノ過去ヲ重用シタルモ見ユ。

○此助動詞ハ、規則動詞ノ第一類ニ限リテ屬クモノナリ。サルヲ、誤リテ其第二類ナル「受ク」堪フ」終フ」ナドノ變化ニモ

(17) けり＝　つ、ぬ、たり＝ヨリ、一層、程、歷シ時ヲ示ス語ニシテ、(語原ハ、「來、あり」ノ約マレルナルベシ、)コレヲ

第二過去トス。此語、諸ノ動詞ノ第五變化ニ連ル。

此語、時トシテハ、「過去ノ意ハ薄クシテ、唯、語氣ニ念ヲ入レテ言フ意ヲナス、「秋も來にけり」天つ星そあやまたれける」ナドヲ、口語ニ寫セバ、「秋が來たわい」まちがへられるわい」トイフマデノ意ナリ。殊ニ、「心なりけり」我身なりける」ナド、「なり、けり」ト用ヰタルハ、唯、推シテ説明スル意ヲナス、古ク、「何何なりけりき」ナド用ヰタルアルモ、「けりハ、説明ノけりニテ、きニ、過去ノ意アルナルベシ。

(28) き　前條ノけりト、語意同ジクシテ、第二過去ヲイフ語ナリ。此語、ノ變化ハ、き、し、しかニテ、衆動詞ノ第五變化ニ連ルヲ通則トスルニ、唯、不規則動詞ノ第一類、第二類ニ於テハ、き、し、しかニ、相分レテ、其第四變化ニモ連ルヲ、殊ニ異則ナリトス。左ニ、表ニ掲ゲテ示ス、尚、前ノ第四表ニ參照スベシ。

不規則動詞

第四變化	第一類	第二類
第五變化	來（こ）し しか	爲（と）し しか
	來（き）し しか	爲（し）き

表ニ掲ゲタルガ如ク、「來し」來しか」又ハ、「來し」來しか」ト、何レニモ連ル、而シテ、「來し」來しか」ト用ヰタル方、例、多シ。扨、「來き」來き」ト用ヰタル例、サラニ見當ラズ。

又、「爲き」ト「爲し」爲しか」ト、相分レテ連リ、而シテ、「爲し」爲しか」又ハ、「爲き」ナド用ヰタル例、更ニ無シ。

○此ノき、し、しかハ、餘ノ動詞ニテハ、其第五變化ニ連ルヲ通則トス、サレバ、規則動詞第一類ノ「押ス」申ス」ナドノ第五變化ハ、「押シ」申シ」ナレバ、スベテ、「押シ、き」押シ、し」押シ、しかど」申シ、き」申シ、し」申シ、しかど」ナド、「押セ、き」申セ、き」ト、ハイスベカラザルニテ覺レ、且、「痩セ、き」痩セ、し」失セ、き」失セ、し」ナド、第二類ナルハ、其ニ相連ルニ照シテモ見ヨ、）

ビナド、連スベキ規定ナリト知ルベシ。（尙、前ノ第四表ヲ見ヨ）サルヲ、「押ス」申ス」ノ第二變化ナル「押セ」申セ」ニ連ネテ、「押セ、し」押セ、しかど」申セ、し」申セ、しかど」ナド、ト誤用スルコト多シ、心ヲ付クベシ。（押セ、き」申セ、き」ト、ハイスベカラザルニテ覺レ、且、「痩セ、き」痩セ、し」失セ、き」失セ、し」ナド、第二類ナルハ、其ニ相連ルニ照シテモ見ヨ、）

○且又、尋常直說法ニテ文ヲ結ブトキハ、「押シき」申シき」見き」ナドナルベキヲ、「押シし」申シし」見し」ナド結フコトアルモ、誤ナリト知レ。

○又、此語ノ變化ノし二、第二類天爾遠波ノか(歟)ノ添ヒタルト、又ハ、其第三類ノがノ添ヒタルトアルヲ、此きノ變化ノしかト混ジテ誤解スルコトアリ、注意スベシ。

接續法

已然

櫻の無かりしかど
夢と知りしかど
我が行けりしかど
衣ありしかど

將然

櫻の無かりせば
夢と知りせば
我が行けりせば
衣ありせば

即チ、「我コヲ行キしか」ナドハ、此變化ノしかナリ。「何時ノ程ニ行キし、か、」(歟)或ハ、「行キし、が、逢ハザリキ」ナドノかがハ、天爾遠波ノかがナリ、思ヒ分クベシ。

○「世の中ゆ絶えて櫻の無かりせば」(古今)「夢と知りせば覺めざらましを」筑波根ゆ我が行けりせば、霍公鳥」(万葉)「吾妹が衣ありせば、下ゆ着ましを」(万葉)ナドイフセアリ。コレハ、此ノき、し、しかノ變化中ノモノニテ、即チ、「しかば」ト「せば」ト相對シテ、接續法ノ已然、將然ナラムト思ハル。サラバ、此語ハ、き、し、しかせ、ト變化スト、スベケム。此事、先輩ノ論及アリヤ、ナシヤ、姑ク、私案トシテイフ。

(18) む　未來ヲイフ語ニテ、アラユル動詞ノ第四變化ニ屬ク。

○「行カまほ欲シ」聞カまほ欲シ」見まほ憂キ」ナド、未來ノ意ヲイフまアリ、此語ノ第五變化トシテ、熟語法ト見ルベキカ。(但シ、折說法、名詞法、トハナラズ) 又、万葉集ニ、「戀ひまく思ふ」見まくちかけむ」吹かまくさらを」古今集ニ、「見まくほしさを」見まくのほしき」唐錦たたまく惜しき」伏見の里のあれまくも惜し」ナドアルまくモ、同意ニテ、此まヲ延ベタルマデノ語ナルベキカ。(義門師ハ、此ノま、まくヲ、推量ノ(26)ましノ轉ノ如ク說カレタレド、イカガ、尙ましノ條ヲ見ヨ)

(19) けむ　第二過去ノけり、きヲ、未來ニ推測シテイフ語ナリ。(語原ハ、けりノ變化ノけらト、未來ノむトノ約マレルモノナラムカ) 此語、各動詞ノ第五變化ニ屬ク。

○推量ノ助動詞

(20) らむ　未然ヲ推量スル語ナリ、「押スらむ」受クらむ」ノ如シ。此語ハ、各動詞ノ第一變化ニ屬キ、唯、不規則動詞ノ第四類ニノミ、其第二變化ニ屬ク。

らむ、めり、まし、らし等ハ、事物ヲ推量スル意アリ、コレヲ推量(スイリヤウ)ノ助動詞トス。

○此語、規則動詞ノ第四類ニ連ルニ、異則アリ、前ノ(24)べしノ條ヲ見ヨ。

(21)めり　語原ハ、「見え、あり」ノ約マレルナルベク、事物ノ狀態、然見エ、ト推量シテイフ語ナリ。(口語ニ、「あるとみえる、」ふいとみえる」ナドノ意)　此語、動詞ノ第一變化ニ連ル、「我おとらじとやうの事、爲出づ、めり」(宿木)紅葉亂れて流る、めり」(古今)濡る、める人に着せてもへさむ」(艶語)秋も往ぬ、めり」ノ如シ。　但シ、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ屬ク。

(26)まし　未來ヲ推シ定メ、又ハ、然セムトスル意ヲイフ語ニテ、まハ、未來ヲイフむノ轉ナルベシ、サレバ、むト同ジク、各動詞ノ第四變化ニ連ル。　此語ノ接續法ナル「ましかバ」ノ出ヅルトキハ、其末ヲ、又、ましト結ブヲ、概則トス、「まして、龍を捕へたらましかむ、又、おとともなく、我ハ害せられなまし」(竹取)「人知れず、絶えなましかむ、わびつつも、無き名ぞとだに、言てましものを」(古今)ノ如シ。

接續法	已然	塞かましかむ 有らましかむ 知らましかむ
	將然	塞かませむ 有らませむ 知らませむ

○「飛鳥川、さがらみ渡し、塞かませむ、流るる水も、のどかあらまし」(万葉)「大舟は、妹のるものを、有らませむ、はくくみもちて、行かましものを、」(同)「斯くばかり、戀ひむとかねて、知らませむ、妹をぞ見むぞ、あるべかりける、」(同)ナドノませハ、此ましノ變化中ノモノナルベク、ませノせハ、ましノしト、同趣ノ音ニモアリ、卽チ、「ましかバ」ト「ませバ」ト相對シテ、接續法ノ已然、將然ヲナスモノナラムカ。(義門師ハ、「行カま欲シ」ナドイフまニ、爲ノ添ハレルナラム、ト言ハレタレド、此ノせニ、「爲ル」トイフ力アリトモ思ハレズ、又、「知ラま爲ル」有ラま爲レバ」ナド用ヰタル例モナシ、)

(30)らし　輕ク推量スル語ナリ、「押スらし」受クらし」ノ如シ。　此語ハ、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ連ルト、其他ノ動詞ニハ、スベテ、其第一變化ニ連ル。　此語ニ、變化ナシ。

○但シ、此らしハ、一體ニテぞ、や、か、又ハ、おそノ結法ヲナス、委シキコトハ、文典ニ說カム。　又、規則動詞ノ第四類ニ連ルニ、異則アリ、前ノ(24)べしノ條ヲ見ヨ。

○詠歎ノ助動詞

(22) ふり　ふトイフ感動詞(後ニイフベシ)ニ、語尾變化アルモノニテ、動作ヲ言ヒ終ヘタル餘意ニ添ヘテ發スル語ナリ。此ノふりハ、動詞、助動詞ノ第一變化ニ屬クト、「秋の野ゑ、人まつむしの、聲爲、ふり」小夜深き、雲居の雁も、音爲、なり」やがて鹿の音、聞や、なり」今こてハ見えず、なるを」花の衣ゑなりぬ、なり」ノ如クニテ、前ノ「指定ノなり」(其條ヲ見ヨ)ノ、第二變化ニ屬クト、異ナリ、一文中ニ用ヰ分ケタルハ、「男も爲、なる日記と いふものを、女も爲て試みむとて爲る、なり」(土佐)ノ如シ、詠歎ナルハ、「爲」(第一變化)ニ連リ、指定ナルハ、「爲ル」(第二變化)ニ連ル。但シ、不規則動詞ノ第四類ニテハ、此ノなりモ、其第二變化ニ連ル。

○サレバ、不規則動詞ノ第四類ニテハ、詠歎ナルモ、「有ルあり」(有ルわい)ト連リ、指定ナルモ、「有ルあり」(有ルちや)ト連リ、又、規則動詞ノ第一類、第四類ニテモ、其第一變化、第二變化、形、相同ジケレバ、詠歎ノ「行クあり」着ルあり、」(行クわい、着ルわい)指定ノ「行クあり」着ルあり、」(行クちや、着ルちや)共ニ同ジ姿ナレバ、善ク其意義ヲ考ヘテ相別ツベシ。

○希望ノ助動詞

(23) なむ　願ヒ、又ハ、吩咐フル意ヲイフ語ニテ、「押サなむ」受ケなむ」生キなむ」有ラなむ」ナド用ヰル、是レナリ。此語ハ、語尾變化ナキノミナラズ、古クハ、「行カな」言ハな」トノミモイヒタレバ、願フ意アル感動詞ナルベクモ思ハルレド、尙、文ノ末ヲ結ベバ、助動詞タルベシ。此語、動詞ノ第四變化ニ連リ、而シテ、「希望ノなむ」或ハ、「願ノなむ」又ハ、「あつらへノなむ」ナドイヒテ、過去ノぬノ變化ニ起ルなむ」動詞ノ第五變化ニ連ルモノ)ト別ツ。

○サレド、規則動詞ノ第二類、第三類、第四類ハ、其第四變化、第五變化ノ形、共ニ相同ジケレバ、「受ケなむ」生キなむ」着なむ」何レモ、「願ノなむ」トモ解セ

ラレ、「過去ノなむ」トモ解セラルルコトアリ、能ク、其意義ヲ分チテ、解スベシ。

○比況ノ助動詞

(25) ごとし　　比ブル意ヲイフ語ニテ、多クハ、天爾遠波ノの、がノ下ニ連ルヿ、他ノ助動詞ト異ナリ、「山の、ごとし」海の、ごとき」此カの、ごとき」聞クが、ごとく」善キが、ごとし」ノ如シ。又、古クハ、「見ルが、ごと思フ」秋の、ごと涼シ」ナドト「副詞法ニ用ヰタルアルモ、異ナリ。

○此語ノ變化ハ、形容詞ノ變化ノ如クナレド、其第三變化ニ「ごとけむ」ト用ヰタルヲ見ズ。又、「ごとく、ゴ」ごとく、あり」ナド用ヰルコトアルモ、他ノ形容詞ニ無キ「ナリ。(疾く、ゴ」ナドモ、希ニハアルカ)

○

○凡ソ、此篇ニ助動詞トシタルモノ、從來ノ語學書中ニハ、ベテ天爾遠波ノ中ニ混ジテ說ケリ。然レドモ、是等ノ語、皆、變化ヲ具シ、法ヲ具シ、或ハ、希ニ變化ナキモノモアレド、其語、皆、能ク文章ノ末ヲ結ブ。既ニ變化アリ、法アリ、又、能ク文章ヲ結ブモノ、コレヲ天爾遠波ノ中ニ混ベキニアラズ。サレド、是等ノ語、變化アリ、法アリ、又、能ク文ヲ結ベドモ、獨立ニハ用ヰラレズ、必ズ他語ノ下ニ就キテ、其意ヲ補助スル用ノモノナレバ、固ヨリ、動詞ニハアラズ、因テ今ハ、助動詞トシテ、一門ニ立テタリ。而シテ、かの、に、を、もぞ、おそ等ノ、變化モナク、言語ノ問ニアリテ、上下ヲ承接スルモノミヲ存シテ、天爾遠波ノ一門トセリ。又云、助動詞ハ、洋文典ニテハ、動詞ノ條中ニ附說スルモノ多シ、然レドモ、邦語ノ助動詞ハ、變化ト法トヲ具シテ、其數モ多ク、其規定モ繁ナルモノナレバ、一門ニ立ツベキ價直アリ、且、別門ニ立テテ說ク方、學ブ者ニモ便ナラムト思ハル、因テ今ハ此ノ如シ。

○

○前ノ動詞ノ條末ニ於テモ、國語ト洋語トノ間ニ、動詞ニ天性ノ異同アルコトヲ論ジタリ。サルニ、世ノ洋文法ニ據リテ國文法ヲ作ルモノ、動モスレバ、速了ノ見ヲ以テ、此ニ助動詞トシテ說ケル「打タる」遂ゲらる」打チつ」教へさ」打タむ」遂ゲむ」等ノる、らる、つ、さ、むナドヲ、動詞ノ語尾變化ト斷定シ、動詞ノ Voice, Mood, Tense, 等トシテ說キテ、確ク執リテ動カザルガ多ケレバ、今、反覆シテ其說ノ理ナキヲ辨ゼム。

右ノ助動詞ドモヲ、動詞ノ語尾變化ト見ルトキハ、第一ニ、其變化ノ稱呼ニ就キテ、甚ダ辨別ニ苦ムコトアリ。ソハ、先ヅ、「打つ」トイフ動詞ノ變化ハ、つ、て、た、ちナリ、ナドトシテ、更ニ、又、其ノ Passive voice ノ「打たる」ニモ、る、るる、るれ、れノ變化ヲ起シ、又、其ノ Potential mood ノ「打たる」ニモ、る、るる、るれ、れノ變化ヲ起シ、又、其ノ Past tense ノ「打ちつ」ニモ、つ、つる、つれ、てノ變化ヲ起シ、又、其ノ Future tense ノ「打たむ」ニモ、む、めノ變化ヲ起スナド、其他、尙、幾多ナルコト、舉

グルニ堪ヘズ、是等ヲ、スベテ、一動詞ノ語尾ノ變化ナリトスルトキハ、一動詞ニ、數十百樣ノ變化ヲ起スニ至ル。而シテ、右ノ諸變化ハ、皆、各自ニ、直說法、接續法、命令法等ノ諸法ヲ成スガ故ニ、(前ノ第三表ヲ見ヨ)「打たれよ」トイヘバ、Passive voiceニ、Imperative moodヲ起ス等、其餘、皆、然リ。然ノミナラズ、往助動詞ハ、又、各moodニ、Subjunctive moodヲ起シ、「打ちてよ」トイヘバ、Past tenseニ、Imperative moodヲ起シ、「打たれよ」トイヘバ、Passive voiceニ、Imperative moodヲ起ス等、其餘、皆、然リ。然ノミナラズ、往助動詞ハ、又、各自ノ變化ヲ以テ、他ノ助動詞ニモ、互ニ連續スルガ故ニ、(前ノ第四表ヲ見ヨ)其連續スルモノヲモ連ネテ、一動詞ノ變化ト見ザルヲ得ズ、(一連續ハ語尾ナリ、二連續以上ハ語尾ナラズト區別スルハ、難カラム)サレバ、「打たれまめよ」「打たれまめられたりしかは」「打たれまめざるべからず」ナド、屢屢重用スルモノニ至リテハ、如何ニカコヒニ命名スベキ。

右ノ如クナレバ、Moodニ、Voiceヲ生ジ、Voiceニ、Moodヲ起シ、Tenseニ、Moodアリ、Moodニ、Moodヲ重ヌルニ至ル、豈ニ亦解スベカラザル極ナラズヤ。既ニ動詞ノ條末ニモ論ジタルガ如ク、英文法ノ如キハ、羅甸文法ノ如キハ、一動詞ノ變化ニ、法モ、口氣モ、時モ、具備スルモノナレバ、然ル紊亂ノ不條理無ク、又、初ヨリ、其國語ノ天性ニ隨ヒテ立テタル文法ナルベケレバ、然ル不條理ノ起ルベキ謂ハレモ無カルベキナリ。畢竟スルニ、國語ノ特性ヲ善クモ推究セズシテ、唯徒ニ此ヲ彼ニ合ハセムトスレバコソ、サル牽强說モ起ルナレ、況ヤ、其說ノ如クストモ、Mood, Voice, Tense. トイフ語原ノ意義ニ於テ、既ニ其大本ヲ失ヘバ、强ヒテコレヲ立ツトモ、洋文法ノ忠臣トモ爲リ難カラムヲヤ。

此ノ故ニ、國語ニハ、國語特性ノ制ヲ立テテ、動詞ト助動詞トヲ甄別シ、扨、國語ノ助動詞ハ、變化ト法トヲ具シ、且、助動詞ト助動詞ト相疊用スル定則モアリ、而シテ、受身トイヒ、打消トイヒ、過去トイヒ、未來トイフガ如キ意義ハ、助動詞ノ其語體ニ生得スト說キ去ラバ、何ソ然ル紛絲ノ紊レヲ起サム、各國天然ノ言語ニ、各、差違アルベキハ、理ノ應ニ然ルベキ所ニシテ、其間ニ惑ヒヲ入ルニ足ラズ、唯、其國語天然ノ性ニ隨ヒテ語法ヲ制定スベキナリ、彼ニアレバトテ、我ニ摸擬揑造シ、彼ニ無ケレバトテ、我ニ甄表セザルハ、其見、亦陋ナラズヤ。

○和蘭人、初メ、佛語、獨逸語ヲ混用シテ、基本ノ國語無カリキ、百十數年前、其國ノ學者相集リ、既ニ獨立國タル上ハ、一定ノ國語無カルベカラズト議シテ、乃チ、羅甸文法ニ據リテ、新ニ文法ヲ定メ、名詞ノ格ヲ、六格ト建テテ、施行セリ、サルニ、コレヲ實際ニ使用スルニ至リテ、不都合ナルコトドモ多カリシカバ、更ニ審議セシニ、全ク、蘭語ニハ、六格ヲ具ヘズトト再議シテ、因テ、減シテ、四格トシタリトナリ、此事、和蘭ノ某ノ辭書ノ序ニ見エタリト、往年、某學士ニ聞ケルコトアリキ、洋文法ヲ以テ國文法ヲ論ズル者、留意スベキコトナリ。

副詞

副詞ハ、常ニ動詞ニ副ヒ、又、形容詞ニ副ヒ、又、或ハ、他ノ副詞ニモ副ヒテ、其意味ヲ種種ニ言ヒ添フル語ナリ。例ヘバ、「只管(ヒタスラ)、思フ」「暫し、留ル」「甚だ、高シ」最も、遙ニ、見ユ」ナドノ、「只管」ハ、思フ狀態ヲ示シ、「暫し」ハ、

留ル程ヲ言ヒ、「甚だ」ハ、高キ度ヲ指シ、「最も」ハ、「遙ニ」ノ距離ヲ定ムルガ如シ。

○副詞ノ種類　本體ノモノハ、上ニ擧ゲタル外ニ、「必ず、有リ」「既ま、成レリ」「嘗て、聞ケリ」「許多、見ユ」「恰も、好シ」「最、麗ハシ」「頗る」詳ニ、「知ル」ナド、擧ゲ盡シ難シ。

副詞ニハ、疊ミタルガ如キ語多シ、「ちはちは(屢)つらつら(熟)ほとほと(殆)なかなか(却)やうやう(漸)」ノ如シ。殊ニ、形狀聲音ヲイフモノニ多シ、「戸ヲほとほと叩ク」「涙ヲはらはらと落ス」「からからと笑フ」「さめさめと泣ク」ノ如シ。又、同語ヲ重用スルヿアリ、「かくかく(斯斯)ちかちか(然然)いこいこ(最最)いよいよ(彌彌)げにげに(實實)」ノ如シ。

副詞ニハ、「ま、らま、かま、らかま、やかま」ナドイフ接尾語ヲ用ヰルモノ多シ、「既ま」「終ま」「夙ま」「豈ま」「更ま」「殊ま」、或ハ、「つばらま(詳)つぶらま(圓)のどかま(長閑)ちづかま(靜)たひらかま(平)あきらかま(明)すみやかま(速)すこやかま(健)」ノ如シ。

又、ま ニ終ハルモノノ中ニ、不規則動詞ノ「有リ」ニ連レルトキ、まトありト約マリテ、なりトナルモノアリ、「新な り」「明なり」「靜なり」「詳なり」ノ如シ、是等ノ語尾ノ變化ハ、卽チ「有リ」ニ同ジ。

○名詞ヲ副詞ニ用ヰルモノハ、「今、來ム」「今日、行ク」「明日、來ラム」「平、成レリ」「二日、待チテ」ノ如シ。其下ニまヲ添ヘテ用ヰルハ、「常ま」「時ま」「故ま」「誠ま」「日ま」「月ま」ノ如シ。又重用スルハ、「時時」「夜夜」「數數」又ハ、「年年ま」「日日ま」ノ如シ。

漢語ヨリ入レルハ、「大抵、成レリ」「一切、知ラズ」「終日、勤ム」「再三、問フ」ノ如シ。其下ニまヲ添フルハ、「切ま」「別ま」「丁寧ま」「專一ま」ノ如ク、又、重用スルハ、「年年」「日日」「度度」「次第次第ま」ノ如シ。

○形容詞ノ副詞法ハ、皆、副詞ニ用ヰラル。「高く、昇ル」「疾く、走ル」「惡しく、ナル」「樂しく、思フ」ノ如シ。此類ニテ、「能く」「輙く」「夙く」「甚く」「宜しく」ノ如キハ、全ク副詞ノ如クナレリ。又、重用スルハ、「善く善く」「疾く疾く」ノ

如ク、或ハ、「語原ヲ重用スルハ、「細細(コマゴマ)」「久久」「深深」ノ如シ。

○動詞ヲ副詞ニ用ヰルハ、「曰ヒそ」「宣(ノタマ)ヒそ」「願ヒそ」「恐らそ」「疑ふらそ」「思ふよ」(顧)「打付けよ」「亂りよ」(妄)「頻りよ」(詮)「ずるよ」「案ずるよ」「絶えて」「敢へて」「總べて」「返りて」(却)「譬へば」(例)「言はば」「言もむや」(況)ノ如シ。又、重用スルハ、「行と行と」「泣と泣と」「益す益す」「代る代る」「返へす返へす」「取り取り」「次ぎ次ぎ」「取り取りよ」「次ぎ次ぎよ」ノ如シ。

○熟語ヲ副詞ニ用ヰルハ、「元より」(固)「何れか」(孰)「如何でか」(爭)「何處(イツク)よそ」(焉)「一重よ」(偏)「殊更よ」(故)「身づから」(躬)「己づから」(自)「餘りさへ」(剩)「請ひ願ひそと」(冀)「欲しいままよ」(恣)「無いが代よ」(蔑)「稍もすれば」(動)ナドナリ。

○副詞ノ用法　同語ヲ重用シテ、「最最(イトイト)好シ」「疾と疾と」「行ケ」ナドイフハ、其意ヲ強クスルナリ。又、「尙し、暫し、待ッ」「唯、只管よ、賴ム」「夙よ、早と、起と、嘗て、屢、見タリ」「雪ノ間(マ)無ク、時無ク、降ル」「月よ、日よ、關守無クバ」ナド重用スルハ、其意、二ツナガラ、下ノ動詞、形容詞ニ係ル。

又、間ニ他ノ語句ヲ隔テテ係ルハ、「熟(ツラツラ)、事ノ由ヲ考フルニ」「暫し、時ノ移ルヲ待チテ」ノ如シ。又、動詞ノ下ニ用ヰルモノハ、「待ッ「暫しナリ」「行クベキカ(問)否(イナ)」「我ヲ恨ム勿(ナク)」「色ニ出ヅ勿(ナカ)努力(ナコメ)」ノ如シ。此ノ勿(ナ)ハ、必ズ、動詞ノ第一變化ニ屬ク、「我ヲ恨ムふ」「人ヲ忘ルふ」「色ニ出ヅふ」「來ふ」「爲ふ」ノ如シ。但シ、不規則動詞ノ第四類ノミハ、其第二變化ニ屬ク、「有ルふ」「居ルふ」ノ如シ。

○此ノなハ、感動詞ノなト迷ヒ易シ、心スベシ。又、「恨ムル勿レ」「忘ルル勿レ」「出ヅル勿レ」「來ル勿レ」「爲ル勿レ」ナド用ヰル勿レハ、「無クアレ」ノ約マレルモノナリ、混ズルコト勿レ。

又、「ふ、そ、」トイフ二語ニテ動詞ヲ挾ミテ、禁止スル意ヲイフ副詞アリ、「ふ行キそ」「ふ受ケそ」「ふ落チそ」ノ如シ。

或ハ、「努力(ユメ)ふ語りそ」「現(アラハ)ふ言ヒそ」「甚(イタ)く佞ビそ」ナド、他ノ副詞ト共ニ用ヰ、或ハ、「人ふ甚(イタ)く佞ビサセ奉ラセ給ヒそ」(竹取)ナドトモ用ヰ、或ハ、熟語ヲ中斷シテ、「吹キふ散ラシそ」ナドトモ用ヰル。此ノ副詞ハ、スベテ、

動詞ノ第五變化ヲ挾ムヲ通則トスルヿ、上ノ諸例ノ如シ。然ルニ、不規則動詞ノ第一類、第二類ニテハ、其第四變化ヲ挾ミテ、「ふ來そ」「ふ爲そ」ト用ヰルヲ異則ナリトス。（第五變化ニテ、「ふ來そ」「ふ爲そ」ナドトハ用ヰズ、）

○古クハ、「雲る棚引キ」「人モ忘レ」「吾無シト」「侘ビナド」、モ無クモ用ヰタルヤウナリ。

又、上ノ意ヲ承ケテ下ニ移スモノアリ、「齢ハ老イヌ、然ハアレド」ナドナリ。其他、「斯く」「抑も」「さて」ナド、皆、然リ。又、元來ハ、上ノ意ヲ承クベキモノヲ、意、輕ク、文首ニ用ヰルモノアリ、「夫れ」「抑も」「凡そ」ノ如シ

又、副詞ニハ、其生得ノ意味ヲ、其下ノ語ニ移シテ、反應セシムルモノアリテ、反語、打消ノ語、推量ノ語、疑問ノ語等、各、一定ノ用法ヲ起サシム。是等、慣用ノ法ニ據リテ用ヰルベキナリ。例ヘバ、「え行カジ」「いさ知ラズ」「なさけなさ見エズ」「よも思ハジ」「さらさら無シ」「豈知らむや」「縱ひ行クトモ」「よし見ルトモ」「蓋し是ナラム」「若し行カバ」「寧コレヲ取ラム」「如何ハセム」「爭で知ラム」「幾何アラム」「疑ふらくは是レナラム」「焉ぞ取ラム」ノ如キ、枚擧スベカラズ。

○以上、副詞ノ解、稍、繁ニ渉リテ、他ニ比スレバ、不倫ナルガ如シ、然レドモ、副詞ニハ、迷ヒ易キモノモ多ケレバ、今ハ此ノ如シ。

○此ノ副詞トイフモノ、從來、國學諸哲ノ論及セルモノ、ヲサヲサ見エズ、サレバ、此一類ノ語ニハ、某ノ言ト、名稱ヲモ付セズシテアリ、唯、富士谷成章氏ガ「かざし抄」ニ、かざしト名ヅケタル一類ノ語中ニ、往往、此副詞ヲ混ジテ論ジタルアレド、尙、甚ダ詳悉ナラズ、サレバ、此條ハ、先哲ノ說ノ據ルベキナクシテ、創定ニ係レルコト多シ。

接續詞

接續詞ハ、語、句、又ハ、文、ノ間ニ入リテ、ソレヲ續ギ合ハスル語ナリ。例ヘバ、「月、又、花」「春、過ギタリ、さて、

夏、來ル」ノ如シ。

漢籍讀ニ用ヰルハ、「コレヲ求ムルカ、抑、コレヲ與フルカ」秦カ、漢カ、將、近代カ」多クシテ、且、旨シ」ナドアリ、書狀ノ文ニ、尤、旁、將又ナド用ヰルモノモ、是レナリ。

動詞ヨリ來レルニハ、及び、並ま、尋でナドアリ、亦、漢籍讀ノ用法ナリ、書狀文ニ、就て、隨て、依てナドモアリ。

熟語ヲ用ヰルハ、「或た」(有ル謂ハ)「斯くて」「然れど」「然して」(而)「若しくは」さりながら」然のみならず」(加之)「かるがゆゑに」(故)「何となれど」是ま於て」ノ如シ。 是等モ、漢籍讀ノ用法ナルガ多シ。

○「月と日と」山も川も」蝶や花やナドノと、も、やナドモ、其用法ニ因テハ、接續詞ノ意ヲナスコトモアリ、然レドモ、今ハ、類ヲ以テ天爾遠波ノ部ニ收メタリ。

○此接續詞トイフモノ、舊說ニテハ、スベテ天爾遠波ノ中ニ雜ヘタリ。 然レドモ、別ニ一種ノ意義アルモノニテ、混シ難キ事アリ、因テ、今ハ、別門ニ立テタリ。

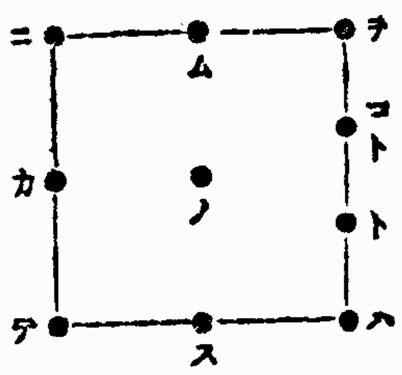
天爾遠波

天爾遠波(ヲニハ)(畧シテ、天爾波)ハ、言語ノ中間ニ居テ、上下ノ語ヲ承接シテ、種種ノ意義ヲ達セシムル語ナリ。

例ヘバ、「宇治山の僧喜撰は、詞、幽まして、初め、終り、確ならず、言はゞ、秋の月を見るま、曉の雲ま逢へるが如し」ノ「は、て、む、を、ま、が、」ノ如シ。

○古ヘハ、漢文ヲ譯讀スルニ、後世ノ如ク、送リ假名ナド付クルコトハ無クシテ、文字ノ四方、四隅、中央等ニ、點ヲ付シテ、其點ニ、一定ノ則ヲ立テテ、譯讀セシナリ。 下ノ圖ハ、其一則ニテ、例ヘバ、人ノ字ノ左肩ニ點アレバ、「人ニ」ト讀ミ、右肩ニアレバ、「人ヲ」ト讀ミシナリ。 其右肩ノ二點ノ訓語ヲ採リテ、コレヲ「ヲ、コト、點」ト概稱セリ。(今モ、「返リ點」ナド、點トイフコトアルハ、其遺ナリ。)

又或ハ、其四隅ノ訓語ヲ、左脚ヨリ左肩ヘ、右肩ヨリ右脚ヘ循リテ讀メバ、「テ、ニ、ヲ、ハ」トナルヲ採リテ其概稱トモリ、是レ、天爾遠波トイフ語ノ起因ナリ。



天爾波ハ、其形、多クハ短小ニシテ、且、獨立シテハ用ヲ成サズ。然レモ、常ニ、文中所在ニ居テ、上下ノ語ヲ連絡セシメ、互ニ呼應シテ其意義ヲ通ジ、他語ノ方向ヲ示シ、意旨ヲ導キ、自他ヲ區別シ、彼此ヲ分合シ、言語ノ位置、顚倒ストモ、其所在ニ就キテ指示ノ任ヲ盡スナド、關節ノ筋ノ如ク、門戸ノ樞ノ如シ。

アラユル天爾波ヲ、其用法ニ因テ、三類ニ大別シ、而シテ、逐次ニ其意義ヲ說クベシ。

第一類　名詞ニ屬クモノ。

(A)が　(B)のが　(C)る　(D)を　(E)と　(F)へ　(G)より　(H)まで

第二類　種種ノ語ニ屬クモノ。

(I)は　(J)も　(K)ぞし　(L)なむ　(M)なる　(N)だに　(O)すら　(P)さへ　(Q)のみ　(R)むかり　(S)や　(T)か

第三類　動詞ニ屬クモノ。

(U)こそ　(V)ごごも　(W)がるを　(X)て　(Y)で　(Z)つつ

〇第一類　此類ノ天爾波トイフベシ。

(A)が　の　上ニ名詞ヲ承ケテ、下ハ動詞ニ係リ、其動作ヲ起ス所ノ名詞ヲ、特ニ擧ゲ示ス意ノモノナリ。例ヘバ、「斯くこ誰が言ふ我をぞ君が思ひ隔つる」白雪のかかれる枝に鶯の鳴く」行交ふ人の花をたむくる」ノ「が」「の」ノ如ク、「言ふ」「思ふ」「鳴く」「手向く」ノ動作ヲ起スハ、「誰」「君」「鶯」「人」ナルヿヲ、特ニ指示ス、又、下、形容詞ニ係リテ、「待つ人の無き」「空のごけき」「聞くが樂しき」「無きが多し」ナドイフモ、用法同ジ。

○コレヲ、羅何ニ謂ハユル名詞ノ Nominative case.（主格）ナリトスルハ、恰當ナラズ。 國語ニテ、彼ノ主格ニ相當スベキ純粹ナルモノハ、「鳥、啼キ」花、落ツ」ナド、天爾波無クシテ用ヰル「鳥」花」等ノ位置、是レナリ。 コレニ「が」ノヲ加ヘテ、「鳥が啼ク」花の落ツル」トイヘバ、「が」ノヲ加ヘタル程ノ意味ハ、隨テ起ルナリ、卽チ本條ニ說ケル所ノ如シ。 尙、委シクハ、文典ノ文章論ニ讓ル。

（B）の　が　共ニ、名詞ト名詞トノ關係ヲ示スモノナリ。 而シテ、其意義モ、種種ナリ。

（一）所有ノ意ヲ示スモノハ、「人の物」君が世」ノ如シ。 或ハ、下ノ名詞ヲ畧シテ、「萬葉集ゑ入らぬ古き歌、みづからのかも、奉ら志め給ひ」此歌は、柿本の人麿がなり」ナドモ用ヰル。

（二）由ル所、係ル所、ヲ示スモノハ、「櫻の花」梅が香」世の中」天が下」ノ如シ。 是モ、下ノ名詞ヲ省キテ用ヰル、「世の常のことや思ふらむ」今の主人も、前のも、手取交はして」ノ如シ。

○以上ノ二ツハ、英、又ハ、羅何ノ Possesive, 又ハ、Genitive case.（持格）ニ當ルガ如クナレド、次下ナルハ、又、種種異樣ノ意義ヲナス。

（三）「ゑて、ある」ノ意ヲ示スモノハ、「おれの歌卷」それが人人」ノ如シ。

（四）「ゑ、ある」ノ意ヲ示スモノハ、「越の白山」蝦夷が千島」ノ如シ。

（五）「と、いふ」ノ意ヲ示スモノハ、「富士の山」佐渡が島」ノ如シ。

（六）「の如き」ノ意ヲ示スモノハ、「花の顏」露の命」父が俤あり」ノ如シ。

又、「結ぶの神」行かむの心」思ふが中ゑ」重きが上の」ナド用ヰルハ、上ノ語ノ分詞法、形容法ヲ、名詞トシテ用ヰルナリ。 又、「都よりの音信」明日までの命」君への諫」行きての後」おれのみの事」多くの人」面白の夜」口惜しの事」忘れゞの行末」或ハ、「君や來む我や行かむの猶豫ゑ」待つ人の來むや來ずやの定めなければ」是ハ謀反ノ輩ヲ落サシモ爲ノ謀ナリ」ナド、種種ノ語句ヲ名詞トシテ、接尾語ノ如ク屬クモアリ。 而シテ、是等ハ、皆、其

上下ノ係屬ヲ示ス意ヲナス。

○前條ノガ、ノハ名詞ト動詞トノ間ニ立ツモノナリ、此條ノガハ名詞ト名詞トノ間ニ立ツモノナリ、語形同ジケレド、思ヒ紛フルコト勿レ。又、第三類天爾波モ、ガ、ノアリ、感動詞ニモ、ガアリ、混ズベカラズ。

○つ　のニ似テ、上下ノ語ノ係屬ヲ示スモノナリ。然レドモ、用法古ク、且慣用ニ局レル所アリテ、一般ニ用ヰ難シ。其例、左ノ如シ。

「天つ風」「國つ神」「上つ毛野」「下つ總」「遠つ祖」「近つ淡海」「内つ國」「中つ國」「外つ國」「沖つ風」「種つ物」「澪つ串」

(C) る　動詞ノ動作ノ、移リ亙ル所ヲ示スモノナリ。而シテ、其意義、數種ニ分ル。

(一) 相對スルモノヲ指スハ、「人る與フ」「師る問フ」ノ如シ。

○コレハ、羅甸ノ格ノ Dative.(與格)ニ當ルガ如シ。然レドモ、次ナルハ、又、種種ナリ。

(二) 地位ヲ示スモノハ、「机る載ス」「都る住ム」「山る近シ」「水る遠シ」ノ如シ。

(三) 比ブル意ナルハ、「人る劣ル」「我る優ル」「昨日る增シテ」ノ如シ。

(四) 差抑ヘテイフトノ如キモノハ、「木、石る成ル」「水ヲ湯るナス」「花ヲ雪る見テ」ノ如シ。

(五) 接續詞ノ意ヲナストノ如キモノハ、「日る月る」「尾花ガ風る庭の月影」ノ如シ。

又、重用スル動詞ノ間ニ入リテ、まゝノ意ヲナスモノアリ、「降リる降ル」「聞キる聞キ、語リる語ル」ノ如シ。

(六) 添フル意ナルハ、「月る村雲花る嵐」ノ如シ。

(七) 「るて」「る於て」ナドノ意ナルハ、「道る聽キテ途る說ク」「朝る道ヲ聞キテ夕る死ス」モノノ如シ。

(八)「の爲に」に因て」ナドノ意ナルハ、「花見に行く」多キに驚く」人手に死ぬ」人に撃タル」ノ如シ。

(九)「に就きて」ナドノ意ナルハ、「行フに好シ」悟ルに易シ」ノ如シ。

○此外ニ、「明に」詳に」時に」遠くに」案ずるに」ナドノにハ、副詞ノ接尾語ト見タリ。又、第三類ノ天爾波ニモ、にアリ。

(D)を　事物ヲ處分スル意ヲ示スモノニテ、必ズ、他動詞ニ係ル、「書を讀ム」字を記ス」飯を食フ」水を飲ム」ノ如シ。

○コレハ、羅甸ノ Accusative, 或ハ、英ノ Objective case. (賓格)ニ當ツベキガ如シ。

又、自動詞ニ係ルモノハ、其意義異ナリ、「國を去ル」人を別ル」ノ如キハ、より」ノ意ヲナシ、「路を行ク」門を過グ」ノ如キハ、其動作ノ行ハルル地位ヲ示スマデナリ。(第三類天爾波ニモ、感動詞ニモ、をアリ)

(E)と　指ス所アル天爾波ニテ、其意義、數種アリ。

(一)　指定スル意ヲ示スモノハ、「コレと定ム」ソレと思フ」ノ如シ。

又、一文、一句ヲ、名詞ト見テ承クルハ、「雪降ルと見ル人ハ無シ、といフ」我ハ行カジ、と思フ」アリヤ、と問フ」無キカ、と疑フ」ノ如シ。

又、「此ニ、と」是レヲ、と」我ハ、と」彼ヲ、と」斯く、と」誰がいふ」忘草、何をか種、と思ひしる」ナド用ヰルハ、畧文、畧句ヲ承ケタルナリ。

(二)「の如く」ノ意ナルハ、「雪と散ル」霜と消ユ」此川は、紅葉と浮きて、さしかへる」月日のみ、流るる水と、早けれむ」ノ如シ。

(三)「として」ノ意ナルハ、「花と見ル」霜と置ク」ノ如シ。

(四) 又、重用スル動詞ノ間ニ入リテ、またノ意ヲナスコトアリ。アルこアル「秋風の、吹きこ吹きぬる」山の端は、入りこ入りぬる、月かれむ」ノ如シ。

此語、動詞、形容詞、助動詞ヲ承クルキハ、其直説法、又ハ、命令法等ノ、意ノ切ルル所ヲ承クルヲ則トス、サレバ、「落つ、こそ見れこ、音の聞えぬ「黒鳥の下は、白波を寄す、こそいふ」海賊、追ひ來、こいふ」濡る、こそ無しは」心憂し、こ宣ふ」日も暮れぬ、こ思ふも云云」ナド、尋常直説法ヲ承クルヲ通則トシテ、扨、又、「花ゾ落ツル、こ」花コソ落ツレ、こ」花落ナヨ、こ」ナド、そやかノ直説法、おそノ直説法、命令法等、皆、其意ノ切ルル所ヲモ承ク。(但シ、「恨みて歴る、こ、人や見るらむ」出づる、こも、入る、こも見やる」一聲は、明くる、こ聞けこ、時鳥」ナド用ヰルハ、間ニアルベキ名詞ヲ畧ケル筆法ナリ、混ズルコト勿レ)

此語、又、上畧ノ筆法ニテ、語句ノ首ニ用ヰル「アリ、「こ見、斯ウ見」こモスレバ「こ」ニ斯クニ「こバカリ思フ」ノ如シ、是等、皆、上ニアルベキ語句ヲ畧ケルナリ。

○副詞ノ接尾語ニ用ヰル「ほとほとと叩ク」からからと笑フ」ナドくこモ、指定スル意アリ、此條くヨリ出デタルモノナリ。

○こ　是ハ、指定スル意ハ、前項ノこニ同ジクレモ、用法ハ甚ダ異ニシテ、語句ヲ並ブルヿ、接續詞ノ如シ。(漢字ノ與ノ字ニ當レリ。)而シテ、全ク上ノ語ニ附着シテ、下ニ、再ビ、第一類ノ天爾波ヲ履ム。例へバ、「鄒こ魯こ戰フ」月こ花こノ眺メ」内こ外こニアリ」彼こ此こヲ比ベテ」京こ難波こへ趣カムト」ナドノ如シ。又、「書ヲ讀ムこ字ヲ書クこ」嬉シキこ悲シキこ」疾く明けぬるこ遲く暮るるこ」ナド用ヰルハ、例ノ名詞ヲ畧ケルナリ。又、數語ヲ連ヲテモ用ヰル、「流れ木こ立つ白波こ燒く鹽こ」ノ如シ。

○此くこハ、幾語重ナリテモ、必ズ加フルヲ則トス、然ルニ、二語以上アルヲハ、常ニ畧スルコトアルハ、非ナリ。例ヘバ、「鹽酸こ硫酸ノ鹽類ヲ注ぐ」ナド記ストキハ、「鹽

酸と硫酸ノ鹽類とヲ注ケ」ノ意トモアリ、「鹽酸ノ鹽類と硫酸ノ鹽類とヲ注ケ」ノ意トモアリテ、大ナル誤ヲ生ズベシ。

(F)へ　方向ヲ示ス天爾波ナリ。例ヘバ、「前へ進ム」左へ向フ」奥へ深シ」西へ長シ」ノ如シ。此ハ、方向ヲ示スモノニテ、前ノニノ地位ヲ示スモノト別ツ。一文中ニテ用ヰ分ケタルハ、「僧正遍昭ガ許ヨ、奈良へまかりける時」但馬の國へまかりける時ヨ、一見の浦といふ所ヨとまりて」ノ如シ。

○此ノヘトニトヲ混用スルコトアリ、心ベシ。サレバ、前ヨ進ム」左ヘ向フ」ナルベシ。(方向)又、「山へ登ル舟へ乘ル」ハ非ナリ、「山ヨ登ル舟ヨ乘ル」ナルベシ。(地位)然レドモ、コノ方ハ、方向ニ用ヰタルコト無キニシモアラズ、「東の方ヨ行きて住む所求むとて」陸奥の國ヨまでろヨ行き至りヨけり」下野ヨまかりける女ヨ」竹生島ヨまうで侍りける時ヨ」ナドアリ。サレバ、方向ニ限リ、コヨハ、地位ニモ、方向ニモ、通ハシ用ヰルトスベキカ。

(G)より　から　共ニ、二ツノ間ニ移リ行ク意ヲ示スモノニテ、地位ニモ時ニモイフ。(漢字ノ自從等ノ字ニ當ル)

「人より受ク」敵より奪フ」彼方より來ル」後より襲フ」天より地ニ落ツ」夫レより程歷テ」去年より今年マデ打續キテ」ノ如シ。又、下、名詞ニ接スルモアリ、「此處より東ノ方ハ」咲き初めし時より後ヨ」ノ如シ。

「明日からヨ若菜摘まむと」明けぬから船を引きつつ上れども」時鳥、まだ鳴かぬから待たるべらふる」ノ如シ。(ゆゑヨノ意ナルからハ、コレト異ナリ、ソハ、接尾語ノ中ニ收メタタリ。)

○コレハ、羅甸ノ Ablative case. (奪格)ニ當ルベキカ。次ナルハ、英ノ前置詞ノ Than ノ意ナリ。

○より　是ハ、比ベテ科ヲ定ムル意ヲ示シテ、前ノヨリト異ナリ、「山より高シ」コレより善シ」命より惜シ」彼より後ル」ノ如シ。又、「かねてより」今までより」獨見むより人と見む」憂きものかと戀しきより」ナドハ、間ニ語句ヲ省ケルナリ。又、下、名詞ニ接スルアリ、「花より先ヨ鳴き始めつる」ノ

如シ。又、意義一轉シテ、其物事ニ限ル意ヲナス、「我より外ニ人あらじ」「風より外ニ訪ふ人も無し」ノ如シ。

更ニ、畧シテハ、「枕より、(外ニ)また、知る人も無き戀を」ノ如シ。

(II)まで　至リ及ブ意ヲ示スモノナリ。例ヘバ、「筑紫までまかる」「都まで送りまうして」行先の事まで思し知らして」ノ如シ。又、意、稍轉シテ、さへノ意ヲナス「アリ、「天の川冬も空までおほるらし」跡まで見ゆる雪のむらぎえ」ノ如シ。又、「至る程ニ」ノ意ヲナス「斯くまで精しき」さまで思もを」花と見るまで雪ぞ降りける」月と見るまで降れる白雪」物や思ふと人の問ふまで」ノ如シ。(是ハ、間ニ、程トイフ語ヲ畧シタルニテ、卽チ程ノ意ヲナスモノナルベシ)

○第二類　此類ノ天爾波ハ、上ニ、各種ノ語ヲ承ケテ、其意ヲ、下ナル動詞、形容詞等ニ通ズ。其承クル所ノ語、一定セザレドモ、亦、慣用ノ用法アリテ、妄リニ承クベカラズ。左ニ、逐條ニ、其意義ヲ釋キ、且、其用例ヲモ、若干、掲グベケレバ、其承クル所ノ種種ナルヲ見ルベシ。

(I)は　事物ヲ、各自ニ差別スル意ノモノナリ。

「人も去り、我も留ル」柳も緑ニ、花も紅ナリ」見ルも善シ」行キもセズ」善キも取ラム」樂シクも思フ」學バムも好シ」行カズもアルベカラズ」取リテも見ム」斯クマデも無シ」然もアレド」如何もセム」是ヨリも高シ」我コソも見メ」京へも行カム」我ノミもアリ」花トも見ム」(感動詞ニモはアリ、混ズベカラズ)

○ば　音便ニテ、前項ノはヲ濁ルモノナリ。

「コレヲぞ取ラム、カレヲむ捨テム」行カズンむアラズ」爲ズンむアルベカラズ」ノ如シ。

（J）も　事物ノ同シ狀ナルヲ並列スル意ノモノニテ、接續詞ノ如シ。（漢字、亦ノ字ニ當ル）

「をととしも、おそもおとしも、をととひも、きのふもけふも、吾が戀ふる君」行くもアリ、歸るもアリ」行きもセズ、歸りもスマジ」長キもアリ、短キも見ユ」善クもアラズ、惡シクもナシ」父トも思ヒ、師トも仰グ」嫁テも思フ」我ニも許セ」家へも歸ラズ」東ヨリも來ル」（感動詞ニモもアリ）

（K）ぞ　多クノ中ニテ一ツヲ指ス意ノモノナリ。（「夫」ト指シテイフ語ノ濁レルナラム、「誰ぞ、な行きそ」ナド清ミテイフ語モ、卽チ是レナラム）　此語ノ文中ニ入ルトキハ、其文末ノ動詞、形容詞、助動詞等ノ結法（Conjugation）ニハ、必ズ其第二變化ヲ用ヰルヿ、左ノ用例ニ就キテ知ルベシ。（前ノ動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲ參見セヨ）

「花ぞ落ツル」月ぞ澄メル」行クぞ善キ」行キぞワヅラフ」長キぞ勝ラム」早クぞ過グル」然ぞ覺ユル」コレヲぞ取ルベキ」我ガ世トぞ思フ」見テぞ知ル」見テモぞ思フ」我ハぞ戀フル」西へぞ行カム」袖サへぞ照ル」去年ヨリぞ見シ」

又、指シ示ス意ニテ、言語ノ末ニ居ルヿアリ。

「思ふがごとも、思ふらむや、ぞ」斯くあるも、世のつねぞ」物思ふらむぞ」思ふべかりぞ」妹待つらむぞ」鳴きわたらむぞ」

又、同シ用法ナレド、上ニ疑フ語アルトキハ、詰問スル意トナルアリ。

「誰れ聞けと、鳴くかりがねぞ」言フハ如何ニぞ」何トスルモノぞ」誰ガ子ぞ」（誰ぞ、ト清ムモ、コレナリ）

○し　ぞニ似テ、指ス意アリ　用法、古シ。

「神し知らふむ」道し無けれど」歎きしまさる」獨し寐れど」猶し慕ひ」今し散るらむ」身こし」しあれど」散らでし止ま

るものならぞ」國もしも、さはなれど」無きましもあらず」待ちまし待たむ」舟をしぞ思ふ」音のみし泣かゆ」かかれとてしも」我とし言へば」過去助動詞ノきノ變化ノくしト紛ヒ易シ、心スベシ）

但シ、其下ヲ結ブ動詞、形容詞、助動詞ハ、常ノ如ク、第一變化ヲ用ヰルヿ、ぞニ異ナリ。（前ノ用例ヲ見ヨ）

又「時しもあれ」今日しもあれ」ナド用ヰタルガアルハ、あれノ上ニさぞヲ省ケルナルベシ。　又、「今しもし」

斯くのみし戀ひしわたらぞ」ナド、重用セルモアリ。

○此ノしヲ、從來、「休メ詞」ナド稱シテ、意無キ天爾波トセルハ、誤ナラム、指ス意アリテぞニ似タルコト、前ノ用例ヲ味ヒテ知ルベシ。　歌ノ五文字ノ句ニ「身にしむ」れむ」ナド加フルコト常ナルガ、コレ、不用ノ語ナラバ、「字餘リ」ニ加フルニ及ブマジ、必ズ、其意義ヲ添ヘズシテハ、カナハヌ場合ナレバ、加フルナルベシ

（L）なむ　ぞニ似テ、緩ク指ス意ノモノナリ。（此語、散文ニ多ク、歌ニハ少シ）　此語モ、文中ニ入ルトキハ、其末ヲ結ブ動詞、形容詞、助動詞、スベテ、其第二變化ヲ用ヰルヿ、ぞニ同シ。

「我なむ行くべき」されなむそれなる」無きなむまされる」善くなむ見やる」またなむ來べき」斯くなむある」風まなむ散る」それとなむ定むる」人をなむ恨むる」遇はでなむ往ぬる」

○ふも　ふむニ同シ、「神まふもありける」ナド用ヰル、是レナリ。

（M）さぞ　多クヲ捨テテ一ツヲ取ル意ノモノナリ。（語原ハ、「是ハ其ナリ」トイフ程ノ意ナリト云ヘリ）　此ノ天爾波ノ、文中ニ見ハルルトキハ、其末ヲ結ブ所ノ動詞、形容詞、助動詞ノ直說法ハ、スベテ、其第三變化ヲ用ヰル。左ノ用例ヲ見ルベシ。（尙、前ノ動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲ參見セヨ）

「人さぞ見えね」路さぞ無けれ」行くさぞ好けれ」行きさぞすれ」樂しくさぞ覺やれ」貧しきさぞ憂けれ」斯くさぞ思へ」まさぞ遇はめ」えさぞ行かざれ」行きてさぞ見め」花をさぞ見れ」舟まさぞ乘れ」ありとさぞ見やれ」然もさぞ見め」行

かでかそあれ」されむかそ禁めつれ」相見むかとなのみかそ思へ」人知れずかそ思ひそめしか」わか君をだにかそハ形見と
も見たてまつれ」

(N) だに　輕キヲ擧ゲテ、餘ノ重キヲ言外ニ引證スル意ナリ。(語原ハ「唯ニ」ノ約ニモアラムカ)
「憂き身なれ、我だにいとふ、ひとへただそだに同じ、心と思はむ」(新古)「夢のさと、ふりにし君を、夢だに、今ハ見る
だに、難くもある哉」(六帖)「母御息所を、かげだにおぼえ給へぬを」松の雪だに消えぬるこそ、さらに、入れだに入れず」
見だにおくり給へかし」今暫しだにおはせぶむ」女御とだに言はせずふりぬる」鳥ニだに如カザルベケムヤ」

(O) すら　やはりふほナドイフ意ナリ。(語原ハ「夫」ノ轉ニテ、指ス意アルベシ)サレド、中古ヨリハ、だにト
同意ニモイヘリ。
「おとにきぬ、木すらいもとせ、有とふを、ただひとり子に、あるが苦しさ」(万葉)「草木すら、春にふべて、逢坂の春日すら、
長居しつると」我ガ身すら容レラレズ」

(P) さへ　重キガ上ニ、又、添ヒ加ハル意ニテ、(語原ハ、「添」ノ轉カ、或ハ、「其上」ノ約ナラムトモイフ)だに
トハ、引證ニ、交互輕重ノ差アリ、混ズベカラズ。
「現(ウツツ)にも、さもかそあらめ、夢にさへ、人目をもると、見るがわびしさ」(古今)「梓弓、おして春雨、けふ降りぬ、あすさへ降ら
む、若菜摘みてむ」(古今)「まけてをやまどの御心さへそひて」行交ふ人の、袖さへぞ照る」召(メシ)にさへおはたりつるを」涙を
さへぼして臥したり」

(Q) のみ　一アリテ二無キ意ナイフ。

「我のみ知ル」歎キのみシテ「思フのみナリ」好キのみ取ル「悲シクのみ思フ」サテのみアラムヤ「斯クのみアラム」

バ「言ハデのみアルベキカ」家ニのみアリ「人ヲのみ頼ム」我トのみ知ル「前へのみ進ム」

漢籍讀ノ上ニ「而已」耳」ナド訓シテ言切ルハ、下畧ノ法ナリ。

(R) ばかり　意、粗のみニ同ジ。(語原ハ「量」ニテ、量ノ限レル意ナラム)

「今日ぞかりとぞ、田鶴も鳴くふる」我むかりアリ」歎クむかりナリ」憂クむかり思フ」天トむかり知ル」斯クむかり

アラム」(ほど)ノ意ヲナスむかりハ、接尾語ニ入ル)

(S) や　上ノ二語、共ニ指シテ疑フ意ノモノナリ。此二語、文中ニ入ルトキハ、其下ヲ結ブ所ノ動詞、形

(T) か　容詞、助動詞ハ、共ニ、其第二變化ヲ用ヰルヲ定則トス。左ノ用例ニ就キテ知ルベシ。(尚、前ノ

動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲモ見ヨ)

「春や來ル」花や咲ク」月やも物を思ふする」戀ひやわたらむ」行キやスル」惜しくやもあらぬ」白キや花ナル」知ラ

ズやアル」斯クや思フ」花ヲや見ム」人ニや遇ハム」生キもやスル」散ラデやアルベキ」

「誰か見ルベキ」天かアル」孰レか勝レル」何處ニかアル」何處へか行カム」何ヲか取ル」何トかスベキ」四年

バカリか歴ニケム」何時マデか待タム」如何デか知ラム」

又、二語、共ニ、語ノ末ニ居テ言切ルヿアリ、多クハ、問掛クル意ヲナス。

「有りや」無シや」聲ハ聞ユや」思ヒ出ヅや」天ト言ハムや」來ムや」來ジや」

「我か」人か」有ルか」無キか」聞ユルか」出ヅルか」

やかノ、動詞、形容詞、助動詞ノ下ニ連ルトキハ、やハ、必ズ、其第一變化ニ連リ、かハ、必ズ、其第二變化ニ連ル

ヲ定則トス。前ノ用例、並ニ、下ノ表ニ因テ知ルベシ。

助動詞ハ、前ノ助動詞表(第二表)ニ就キテ、其第一變化ト、第二變化ト、ニ連子テ解スベシ。

○一言ノ動詞、助動詞ニハ、其別ヲ誤リ易シ。「得や」「得ルか」「歴や」「歴ルか」「來や」「來ルか」「爲や」「爲ルか」「行カゞや」「行カゞか」「行きや」「行きしか」ナド、必ズ、其第一變化ト、第二變化ト、ヲ用ヰ分クベシ、「得ルや」「歴ルや」「來ルや」「爲ルや」等皆非ナリ。但シ、「やか」「か」共ニ、感動詞ニ、同形ノモノアリ、注意スベシ。

○やか、共ニ、感動詞ニ同形ノモノアリ、注意スベシ。

又、やか、か、共ニ疑フ意ノ語ナレド、上ニ、他ノ疑辭アルトキハ、例ヘバ、「幾何かアル」「如何ニか思フ」「何ヲか取ル」「誰ナルか」「何トスベキか」「何處ニアルか」ナド、下ニ、更ニ、かヲ加フルハ常ナレド、斯ル場合ニ、やヲ加ヘタル用例、サラニ無シ、コレヲ異ナリトス。

○「幾何やアル」如何ニや思フ」「何ヲや取ル」「誰ナルや」「何トスベキや」「何處ニアルや」ナドハ、テ非ナリ。但シ、「幾何ゾや」「何カアラムや」ナドハ、感動詞ナリ、混ズベカラズ。

○第三類　此類ノ天爾波ハ、上、下、共ニ、動詞、或ハ、形容詞、助動詞ニ接ス、コレヲ動詞ノ天爾波ト泛稱スベシ。

		第一變化	第二變化
規則動詞	第一類	押スや	押スか
	第二類	受クや	受クルか
	第三類	報ユや	報ユルか
	第四類	着ルや	着ルか
不規則動詞	第一類	來や	來ルか
	第二類	爲ルや	爲ルか
	第三類	死ヌや	死ヌルか
	第四類	有りや	有るか
形容詞	第一類	善シや	善キか
		無シや	無キか
	第二類	惡シや	惡シキか
		樂シや	樂シキか

(U)と ども　此四語、共ニ、上ノ語ノ意ヲ翻スル天爾波ナリ、と、ナルハ、「穂ゑ出でたりと、いひや無らむあ

(V)ど どち　また寐ずと、ただ一夜のみ」ノ如ク、どナルハ、「問へど答へず」「逐へど去らず」ノ如シ。皆、漢字雖ノ字

ノ意ナリ）　此ノと、又ハ、どニ、もヲ合シテ、「穂ゑ出でたりとも」あまさへ寐ずとも」「問へども」「逐へども」ナド用ヰルヿ、

常ナリ。　此ノもハ、感動詞ノ如キモノナリ。　而シテ、とハ、

今世、普通用ナラズ、一般ニハ、ども、どもヲ用ヰル

扱、此ノ天爾波共ハ、何レモ同意義ナレド、動詞ノ第一變

化ニ連ルトキハ、清音ニテ、未定ノ意ヲ成シ、其第三變化ニ

連ルトキハ、濁音トナリテ、既定ノ意ヲ成ス、是レ、其別ナリ。

例ヘバ、「受クとも」爲とも」有りとも」ナドハ、未定ナルニイヒ、

「受クレど」爲レど」有レども」ナドハ、既定ナルニイフガ如シ。

又、形容詞ニモ、其第四變化ト、第三變化トニ連リテ、未定

ト既定トヲ別ツ、而シテ、其意、全ク同シ。　下ノ表ノ如シ。

又、助動詞モ、前ノ助動詞ノ條ノ第三表ニ於テ、其變化ノ

動詞ニ似タルモノハ、（1ヨリ23マデ）其第一變化ニテども ニ連リ、又、形容詞ニ似タルモ

ニ連リ、第二變化ニテども ニ連リ、第三變化ニテ

ノハ、（24以下）其第四變化ニテども ニ連リ、第三變化ニテ

ども ニ連リテ、各、未定、既定、ノ別ヲ成スヿ、正ニ、動詞、形

	未定	既定
規則動詞 第一類 第一變化	押ス とも	押セ ども
規則動詞 第二類 第二變化	受ク とも	受クレ ども
規則動詞 第三類 第三變化	報ユ とも	報ユレ ども
規則動詞 第四類 第四變化	着ル とも	着レ ども
不規則動詞 第一類 第三變化	來 とも	來レ ども
不規則動詞 第二類 第三變化	爲ス とも	爲レ ども
不規則動詞 第三類 第三變化	死ヌ とも	死ヌレ ども
不規則動詞 第四類 第三變化	有リ とも	有レ ども
形容詞 第一類 第四變化	善ク とも	善ケレ ども
形容詞 第二類 第四變化	惡シク とも	惡シケレ ども

容詞ニ同ジ。第三表ニテ、連續セシメテ、解スベシ。

○「受クとも」爲とも」有りとも」ナドナルベキヲ、動モスレバ、「受クルとも」爲ルとも」有ルとも」ナド用ヰルハ、非ナリ、或ハ、とヲ畧シテ、「受クルも」爲ルも」有ルも」ナド用ヰ、又、或ハ、「善クとも」惡シクとも」ナルベキヲ、「善クも」惡シクも」ナド用ヰルハ、愈、非ナリ、注意スベシ、もノミニテハ、雖ノ字ノ意ヲ成サズ。

(W)がに　を　三語、共ニ、思フニ違ヒテ意ノ反ル意ヲイヒ、皆、動詞、形容詞、助動詞ノ第二變化ニ連ル。

「四尺の屏風云云立てたるも、上より見ゆる穴ふれば、のぞくべくもあらず」(宿木)「春こそはふりつるが、空はまだ寒きを」「庭の面も、まだかわかぬを、夕立の、空さりげなくすめる月哉」(新古今)「ただ後れじと思ひつるを、人目も知らずはしられつるを」(枕草子)　「つひに行く、道とはかねて、聞きしかど、きのふけふとは、思はざりしを」(古今)「行かじと思ふを、いかでさもいふぞ」かくまであるを、むげに失せむは本意からず」

(X)て　事、終ハリテ、後ニ移ル意ヲイフ。例ヘバ、「春過ぎて、夏來たるらし」「雨降りて、地固まる」「日暮レて、路遠シ」ノ如シ。(漢字ノ而ノ字ニ當ル)　此語ハ、過去ノ助動詞ノつノ第五變化ナルてナレド、稍、趣ヲ變ズル所アリテ、接續詞ノ如クニモ用ヰラルレバ、別ニ掲ゲテ、天爾波ニ列ヲタリ。　又、形容詞ノ第五變化ニ連ヲテ、「水、近クて、風涼シ」心、嬉シクて、獨リ笑ム」ナドイヒ、「君來ずて、年ぞ暮れぬ」き」ナドイフハ、皆、其間ニありヲ畧セルナルベシ。

○左ノ數語ハ、此條ノてヲ、他語ト重用スルモノナルガ、「慣用、久シクシテ、一ノ天爾波(或ハ、接續詞)ノ如クナレリ。　類ヲ以テ、此ニ列ヌ。

て　第一類天爾波ノよト、助動詞ノつノ變化ノてトニテ、其間ニ畧語アルナリ。「よ於て」ナドノ意ナルハ、「京よて遇フ田舍よて見ル」「よ因て」ナドノ意ナルハ、「筆よて書ク」水よて洗フ」「よアリて」ナドノ

如キハ、「頭ハ人ニシテ身ハ魚ナリ」家ハ昔ニシテ人ハアラズ」「ニ爲シテ」ナドノ意ナルハ、「月影ヲ、色ニシテ咲ケル、卯ノ花ハ」ノ如シ。

「ありて」ノ意ナルハ、「長クシテ細シ」斯クシテ別ル」巧ニシテ速ナリ」答ヘズシテ去ル」「もて」「ニて」ノ意ナルハ、「米ヨリシテ返リ事ス」飯粒イヒボシテ鯛釣ル」人ヲシテ送ラシム」二人シテ、結ビシ帶ヲ、一人シテ」

「ニありて」「ニて」ノ意ナリ。「都ニシテ遇ヒケル人」人ニシテ鳥ニ如カザルベケムヤ」

「ニして」　第一類天爾波ノニト、助動詞ノ變化ノトノ間ニ、畧語アルナリ。「ニ言ヒテ」ナドノ意ナルハ、「サリニシテ」アレバニシテ」「ニ思ヒテ」ナドノ意ナルハ、「花見ニシテ出デ立ツ」書ヲ讀マムニシテ机ニ凭ル」

（Y）で　打消ノ助動詞ノずト、前條ノてト約マレルナリ。サレバ、動詞ノ第四變化ニ連ルてずニ同ジ。

「行カでアリ」歸ラでアラナム」ノ如シ。

（Z）つつ　過去ノ助動詞ノつヲ重用スルモノニテ、動詞ヲ「行ク行ク」泣ク泣ク」ナド重用シテ副詞トスルト、用法同ジ。例ヘバ、「行キつつ見ル」雪ハ降リつつアリ」ハ、「行キつ行キつ見ル」降リつ降リつアリ」トイハムガ如シ。

○

第一類ナル名詞ニ屬ク天爾波ハ、羅甸名詞ノ格トイフモノニ似タリ。羅甸名詞ノ格ハ、語尾ノ變化ニテ成レリ、我ガ第一類天爾波モ、名詞ノ語尾ノ變化ト見テ、之ヲ格ト立テムモ可ナルカ如シ。サレド、我ガ天爾波ニハ、意義ニ異樣ナルモノモアリテ、羅甸ノ格ト合ハヌモ多ク、縱ヒ合ハズトモ、我ハ我ニテ、名詞ノ格ヲ、特ニ數種ニ創制セムモ然ルベケレド、扨、其數多ナル意義ノアル限リ、悉クヒヲ格ト立テムモ、妥當ナラザルヲ覺ユ。且、羅甸ノ格ノ變化ハ、名詞ノ種類ニ因テ、其體ヲ異ニスルモノモアリテ、固ヨリ離ルベカラザルモノナレバ、（殊ニ、餘國ノ名詞ノ、格ヲ示スニ形ナク、無形ノ地位ニテ、則ヲ立ツルモノノ如キハ）名詞ニ就キテ、類ヲ以テ規定

ヲ立ツルモ、其理ナレドモ、我ガ天爾波ニハ、特ニ一定ノ成形アリテ、且、何レノ名詞ニモ一様ニ接スベク、コレヲ名詞ノ語尾變化ト見テモ、何レノ名詞モ、其變化ハ、が、の、に、を、と、へ、より、まで等ニテ、千篇一律、サラニ異様アルコトナシ。　サレバ、羅甸ノ格ハ、足ノ如ク、其名詞ニ生得シテ、離ルベカラズ、我ガ天爾波ハ、屐ノ如ク、脱シテ衆ニ通用スルコトヲ得ベシ。　且、コレヲ別語トスル方、其意義ヲ説クニ、錯雜ヲ避クルコトヲ得テ、敎フルニモ、學ブニモ、共ニ便捷ナルガ如ク思ハル、因テ、今ハ本文ノ如シ。

●第二類天爾波ハ、洋語ニテ言ヘバ、副詞ニ似タルモアリ、前置詞、接續詞ノ趣ナルモアリ、或ハ、名狀スベカラザルモアリ。　然レドモ、其文中ニ立チテ、上三種種ノ語ヲ承ケ、下ハ動詞、形容詞等ニ係リテ、其意義ヲ達スルコトハ、何レモ、畧、同趣ナルモノニテ、サラニ相別チ難シ。　此一類ノ語、實ニ、國語ノ言類中ニテ、一種殊様ノモノタリ。

第三類ノ天爾波ハ、上下、皆、動詞、形容詞、助動詞ニ係ルモノニテ、スベテ、其接續法ト立テムモ、可ナルモノ如シ。　然レドモ、尚、分離シテ、何レノ動詞、形容詞、助動詞ニモ、通用連續セシムベキコトハ、第一類ノ如シ。（篇中、此類ノばヲ、獨リ別ニ接續法ト立テタルハ、動詞、形容詞、助動詞ノ其變化ニ着キテ、離ルベカラザル語姿ナレバナリ。）

扨以上三類ノ語ハ、皆、固ヨリ、獨立ニハ用ヰラレズ、而シテ、其他語ニ係ル規定ニ差異コソハアレ、其語姿ノ成立ヲ概見スルニ、三類共ニ、究竟、同臭味ノモノタリ、因テ、今ハ、類ヲ以テ別チテ、天爾波ノ一部門ニ總ベタリ。

○本文、天爾波ノ外ニ、ながら、がてら、がては等、從來、天爾波中ニアリシモノ、尚アリ、是等、本篇ノ類別ニ從ヘバ（種種ノ語ニ屬クモノナレど）第二類中ニ入ルベキニ似タレド、今ハ、甄別シテ、接尾語中ニ收メタリ。　サルハ、第二類ノ天爾波ハ、其語、全ク上下ノ語ニ粘合セズシテ、試ミニコレヲ文中ヨリ加除セムニ、唯、其語ニ有テル意義ノ加除アルノミニテ、原文、サラニ移動スルコト無ク、上下、ソノマヽ連絡シ、依然トシテ文ヲ成スベシ、前ニ掲ゲタル例語例句中ニ洩キテ、加除シテ、試ミバ、必ズ其然ルヲ知ラム。　然ルニ、ながら、がてらノ類ハ、全ク其上ナル語ニ粘合シテ、語勢ヲ變セシメ、之ヲ加除セムトスレバ、原文ニ移動ヲ起サザルヲ得ズ、是レ其別ナリ、尚、後ノ接尾語ノ條ヲ見ルベシ。

感動詞（詠歎）

感動詞ハ、喜怒哀樂等、凡ソ、人情、感動スル所アリテ發スル聲ナリ。例ヘバ、「あら喜バシ」「最モ畏シ」「悲シキかな」ナドノあらもかなノ如ク、スベテ、其言ヲ述ブルノミニテハ、意ヲ盡サザルニ添ヘテ、發スルモノナリ。

感動詞ハ、汎ク種種ノ感情ニ通ジテイフアリ、專ラ一感情ニ局リテイフアリ。其用法モ、言語ノ上ニ立ツアリ、中間ニ入ルアリ、下ニ添フアリ、而シテ、他語ニ連續スルニ就キテ、亦、各、一定ノ慣用法アリ。左ニ感動詞ノ著キモノヲ擧ゲテ、其用例ノ若干ヲ示サム。

○言語ノ上ニ立ツモノハ、

あ　ああ　「ああかしかしや」

あら　「あら熱や」「あら無慚や」

あふ　「あふうらやまし」「あふ苦し」「あふかしこ」

あはれ　「あはれあふおもしろ」「あはれ、さも寒き年哉」

いで　思ヒ起ズキニ發ス。「いで我を、人ふとがめそ」「いで御消息聞えむ」「いで何ぞ、とて取りて見れむ」

いざ　誘ヒ立ツルキニ發ス。「鏡山、いざ立寄りて、見て行かむ」「いざ汲み見てむ、山の井の水」「いざ櫻、我も散りなむ」「いざさせたまへ」

やよ・呼ビカクル聲ノやトよトヲ重ネテイフナリ。「やよ如何ぞ、行方も知らぬ」「やよいづかたへ、行きぞけむ」「やよや待て、山時鳥、言傳てむ」

○言語ノ中間、或ハ下ニ入ルモノハ、

も　「いらくも我を、老いぬける哉」「玉ぼこもぬける、春の柳か」「世をはやも、春ぞしあれや」「ひとりかも寐む」「雪かも降れる」「移り

も行くか」知らずもあるかふ」いとも畏し」家やもいづく」花とやも見む」またも來む」時しもあれ」無きよしもあらず」草のはつかは、見えし君をも」いやとほざかる、我身かなしも」三笠の山よ、出でし月かも」人ハ來ぬかも」枕さびしも」忘れかねつも」行方知らずも」春立つらしも」

「花とかや見む」年をや歷なむ」否や思ひど」取りやかはさむ」戀ひやわたらむ」夢路よさへや、生ひ茂る」我をもぞ、やすみ得たり」

「ありがさの世や」あなあやにくの、春の日や」行きぬとかや」行きけるぞや」吾嬬をや」立つを、暫しや。と召しよせて」大原や。をしほの山」更科や。姨捨山」難波津よ開くや。おの花」時鳥、啼くや。五月の」いとやすらかなる御ふるまひなりや」耳馴れ侍りけりや。と聞え給ふ」いみじくぞあるや」にほひぞ人よ似ぬや。と打ちさめきて」あぢきなや」惜むともかたしや」恨みつべしや」思しやる方ぞ無きや」

○動詞、形容詞、助動詞ノ、第二類天爾波ノヤ變ヒノ下ノ結法トナルトキハ、必ズ、其第二變化ニ屬クトキハ、必ズ、其第一變化ニ屬クヲ規定トスルコト、前ニモ述ベタルガ如シ。　サルニ、此條ノヤハ、其場合ニ因リテ、種種ナリ、是レ、天爾波ノヤト感動詞ノヤトノ別ナリ。　尙、善ク用例ヲ見テ覺ルベシ。

言ヒカクル意ナルハ、（よノ如シ）「匂ふや馨るやと」みな人ハ、花や蝶や。といそぐ日も」海賊や。といひて、扇を投げて」行ケや」打テや」

接續詞ノ如ク用ヰルハ、「簫や琵琶や、笙の笛、篠篥など、吹きあそばせたるを」

反語ニ用ヰルハ、「思ひきや」ひとり行かむや」況ヤコレヲ（言ハムヤ）ヤ」人ニシテ、鳥ニダニ如カザルベケムヤ」

又、「行かむ、や」見む、や」ナドハ、間ニ「よからむ」ナドイフ語ヲ畧シタルニテ、願ヒ希フ意ヲナス

を　古キ感動詞ナリ。「年頃を、住みし所を、名ゐし負へむ」昔も今も、知らずとを言えむ」香をだにほへ」濡れてを行か
む」心ゐを思へ」宮をあらみ」瀬をはやみ」
「その八重垣を」妹待つ我を」月夜清きを」船わたせを。と呼ぶ聲の」
○言語ノ下ニ添フモノハ、
か　「玉よもぬける、春の柳か」空蟬の、よもも似たるか。櫻花」のどかよもあるか」
かな　前ノかニ、なヲ重用シタルモノ。「夜半の月かな」水の聲かな」年を歴るかな」見ゆるかな」樂しきかな」のどかな
るかな」思ふるかな」　以上、動詞、形容詞、助動詞ニ添フトキハ、必ズ、其第二變化ニ添フ。
かし　念ヲ推シテイフ意ノモノ。「さむかりそかし」見ゆるそかし」
見ゆかし」聞ゆかし」いとよう覺えさりかし」難かるべしかし」あたれなりかし」さそ思ひつかし」打ちひそみぬかし」行き給
ひけむかし」知らずかし」さるけはひもありきかし」思ふ心の、殘るらむかし」おほやけの世繼とぞ言ひ侍りしかしな」斯く
ぞ覺え侍るかし」絶えずなむおはしますめるかし」えさそさされかし」思ひ知れかし」疾く行けかし」いざたまへかし」　三
種ノ直說法、命令法等、スベテ、語句ノ切レタル後ニ添フ。
な　「彼ぞ聳の少將な」蟬の聲、聞けむかなしな」恨みつべしな」我ハ戀ひむな」忘れじな」知らずな」契りきな」移りよけりな」惡
しとかそ思ひたれな」心憂くてかそおはしたれな」いくそと問へな」老いよけるよな」去りたるよな」
は　「いかがせむそ」風、あらあらしう吹きたるそ」かくるるまでよ、かへり見しむや」
又、疑ヒノやかニ添ヘテ、反語ニ用ヰルハ、「我れ鶯よ、おとらましやそ」再びとだよ、來べき春かそ」思ひはつべき、涙か
む」

よ　呼ビカクル聲。「月よ」花よ」我さそ、人よ」さかろぼそさよ」行ケよ」鳴ケよ」物を思ふよ」忘れて待ち給へよ」高砂うたひしよ」人の知らぬよ」忘れずよ、まさかそらずよ」　又、「我をよ」妹をよ」夢かとよ」頃かとよ」ナドハ、間ニ語ヲ畧セルナリ。

が　專ラ希フ意ニイフ。「老いず死ぬずの、藥もが」あふ戀ひし、今も見てしが」伊勢の海、あそふ海士とも、ふりましが」

がな　前ノがニ、ふヲ重用シタルモノ。「妻呼ぶ聲を、聞きしがふ」得てしがふ」見る由もがふ」長くもがふ」無くもがふ」

がも　前ノがニ、もヲ重用シタルモノ。「常よもがもふ」人よもがもや」

ゐ　古キ感動詞ナリ。「我をさぶしゐ」我を待たむゐ」

感動詞ニハ、重用スルモノ多シ。「やよ」かふ」がふ」がも」等ハ、前ニ擧ゲタルガ如シ。其他「あふや」いざや」いでや」やよや」行けよや」いつそふも」見せそやふ」老いまけるよふ」常よもがもふ」人よもがもや」かくるるまでよかへりみしそや」今更ま尋常ノ語モ、感情ニ發シテ、感動詞トナルヿアリ。「かな」かそも」いかま」かそいかま」さても」ノ如シ

○「行かむや」見むや」ノ類ノ「むや」ヲ、從來、別ニ一類トセリ、サレド、「行かむ」見む」ハ、接續法ノ將然ニシテ、其間ニ、「よからむ」ナドイフ意ヲ略シテ、希望ノ意ハ、其略セル語ニアルナルベシ、因テ、本篇ニハ、やノ條ニ收メタリ。又、「おとらましやも」來ぐべき春かは」ナドノ「やも」かも」ヲモ、一語トセルガ多ケレド、是等ノやも、かハ、疑フ意ノ天爾波ノや、かニテ、其下ノハ、ものノ方ニ、反語ノ意アルモノナラム、又、「ひとりかも寢む」出でし月かも」ナドノかモ、疑フかニテ、もニ感情アルナリ、因テ、是等モ、皆、はもノ條ニ入レタリ。

○副詞ノな、天爾波ノが、ぞは、こそ、やか等ニ、感動詞ト同形ノモノアリテ、動モスレバ混淆ス、注意スベシ。

○

○此篇ニ感動詞トイフモノ、從來ノ語學書ニハ、「詠歎ノ詞」或ハ「ながめ」ナド稱シテ、スベテ、天爾波ノ中ニアリ、サレド、別ニ自ラ一類ノ語ナレバ、此ニ集メテ、一門ニ

立テタリ。

○洋文典ノ譯語ニ、歎息詞、(Exclamation.)或ハ、間投詞、(Interjection.)ナドイフモノ、卽チ感動詞ナリ、其間投トイフハ、言語ノ間、所在ニ投ゲ入ルベキモノナレバナリ、(投間詞ナルベシ)　サルニ、我カ感動詞ハ、言語ノ上ニ居リ、中ニ入リ、下ニ添フナド、其用法ニ、各、規定アリテ、而シテ、他語ニ移動ヲ及ボスコトモ少カラズ、宜シク慣用ノ法ニ從フベシ、妄リニスベキニアラズ

枕詞

枕詞ハ、言語ヲ一種異樣ニ用ヰルモノニシテ、其用法ハ、某ノ語ヲ言ヒ出デムトスルヤ、他ノ某ノ語ヲ冠セシムルモノナリ。例ヘバ、山引く、黑き、ナドイフ語ヲ言出ヅルヤ、其上ニ、「足引の山」梓弓引く」ぬばたまの黑き」ナド置クガ如シ、

枕詞ハ、古代ノ用語ニシテ、其用ハ、專ラ歌ノ口調ノ足ラザルヲトトノヘムトスルニ起リテ、且ハ、言辭ヲ飾ルモノナリト云フ。然レトモ、諸ノ言語、皆、枕詞ヲ冠セシムベキニアラズ、諸ノ言語、皆、枕詞トシテ用ヰルベキニアラズ、某ノ語ニハ、某ノ語ヲ冠スト、自ラ局レル所アリ、足引のトイフ枕詞ハ、山トイフ語ニ用ヰ、ぬばたまのトイフ枕詞ハ黑きトイフ語ニ用ヰルナドニテ、其所用モ、唯、其冠スベキ語ニ係ルノミ、他語ニハ關セズ、又、之ヲ用ヰルトキハ、其場合ニ因ルノミニシテ、一定ノ則アラズ。而シテ、古代ノ用語ナルガ故ニ、其意義詳ナラザルモノモ多シ、

枕詞ノ意義ハ、解スベキト、解スベカラザルトアリ、「高光る日」天飛ぶや雁」刈菰の亂る」梓弓引く」玉櫛笥開く」菅の根の長き」ナドハ、其意義知ラルベシトイヘドモ、「久方の天」玉鋒の道」足引の山」百敷の大宮」ナドハ、强ヒテ解キタルモアレド、諸說區區ニシテ、到底、定メ難ク辨ヘ難シ、サレバ、深ク意義ヲ求メズシテ唯、某ノ枕詞ハ、某ノ語ニ用ヰルモノトノミ知リテ、先ヅハ事足リヌベシ、

枕詞ハ、多クハ、上古ノ用非ニ出デテ、降リテモ、奈良ノ朝ノ頃ニ、言ヒ出デタリト見ユルモ少シ　今ニ傳ハレルモノ、其數、數百アリ、而シテ、今世ニ在リテモ、和歌ニハ、專ラ之ヲ用ヰレドモ、文章ニハ、其體ノ古キモノニノミ用ヰル。

○枕詞ヲ冠スルハ、名詞、動詞、形容詞、副詞ニ限ルガ如シ。　名詞ニ係ルモノハ、「久方の天」あらがねの土」たらちねの母」ちはやぶる神」百敷の大宮」玉鋒の道」あらたまの年」ノ如シ。　動詞ニ係ルモノハ、「天雲のたゆたふ刈菰の亂るる」篠の目の忍ぶ」梓弓引く」玉櫛笥開く」ノ如シ。　形容詞ニ係ルモノハ、「ぬばたまの黑き」眞木柱太き」菅の根の長き」ノ如シ。　副詞ニ係ルモノハ、「ぬのめのほがらほがらと」つがの木のいやつきづきに」ノ如シ。　又、數語ニ通用スルアリ、梓弓ハ、引く、張る、射る、本、末、等ニ用ヰ、十寸鏡ハ、照る、磨く、清き、等ニ用ヰ、玉櫛笥ハ、開く、蓋、奥、等ニ用ヰルガ如シ。　又地名ニ係ルモノハ、「空見つ大和」鶏が鳴く東」細波や滋賀」神風の伊勢」あをによし奈良」ノモノアリ。　三音ナルハ、「千葉の葛野」ナドナリ、四音ナルハ、「空見つ大和」押照る難波」不知火筑紫」新治筑波」春日のかすが」名細し吉野」ナド、尙、アリ。　六音ナルハ、「木の暮闇卯月」牡牛の三宅」櫂の音のつばらつばらに」ノ如シ。

かきくらし雨ふる川」、みをと入りの蘆分小舟さはり多み」、波間より見ゆる小島のはまひさ木久しくありぬ」、足引の山鳥の尾のしだり尾の長長し夜」ナド、十餘音ニモ餘レルヲモ、枕詞トスル說モアレド、是等ハ、詩ニ謂ハユル興比ノ體ニテ、枕詞ニハアラジ。　又、「吾妹子は、衣かすがのよしき川、よしもあらぬか、妹が目を見む」、是等モ、「吾妹子」ヲ枕詞ナリトイヒ、或ハ、「吾妹子ニ衣」マデヲ枕詞ナリトモイヘド、然ルトキハ、「よしき川」ヲモ、「よしもあらぬ」ノ枕詞トセズバアルベカラズ、是等

モ興、或ハ言掛ケナルベシ。

○枕詞ヲ畧シテ用ヰルヿアリ、「久方の(天ノ)星」ぬばたまの(黒キ)夜」足引の(山ノ)木ノ間」足引の(山ノ)嵐吹く夜」ノ如シ。又、「たらちねの母」百敷の大宮」ナルヲ、「たらちねも、かかれとてしも」百敷や古き軒端」ナド、其枕詞ヲ、直ニ母大宮トシテ用ヰタルモアリ、是等、枕詞ヲ久シク言ヒ馴レテ、終ニハ直ニ其下ノ語ニ代ヘ用ヰルニ至レルナリ、「春日のかすが」飛鳥の明日香」ナルヲ、枕詞ノ字ヲ取リテ、直ニ春日、飛鳥、ト讀ムニ至レルモ、是レナリ。

○又、語路ニ因リテ、他語ニ移スヿアリ、「天飛ぶや輕の路」ハ、雁ヲ輕ニ轉ジ、「梓弓入る」ハ、射るヲ入るニ轉ジ、「津の國の何を思ふ」ハ、難波ヲ何ヲニ轉ジ、「山城の常ふ相見む」ハ、鳥羽ヲ常ニ轉ジ、「陸奥の忍ぶ」ハ、信夫ヲ忍ぶニ轉ズルガ如シ。

○又、語、句、ヲ隔テテ用ヰタルアリ、「ぬばたまの」甲斐の黒駒」梓弓、おして春雨、今日降りぬ」朝開き、入江艪ぐふる櫂の音の」足引の山の傍山」ノ如シ。

○縣居ノ翁ノ冠辭考ニ云、まを、或人を、「まくら詞」といへるを、荷田大人を、「からむりまとは」といひつ、實ま、枕詞とてを、古きみやび言とも聞えず、(畧)物を上ゴ置くまとを、冠らすといふも、古へ今ゴ通れる語なれど、まれゴよれり、(畧)公望が日本紀私記ゴ、かの「いをぐはし」ちをやぶる」などやうのまとをも、發語を書て侍り、されど、枕詞てふ語を、延喜承平などの御時までもあくて、後ゴいひ出でしなりけり、源氏の物語ゴ、「云云の事を枕おとしして」と書けるを、古まとを藉もて、今の思ひをいふ故の語なり、此冠辭を、まを本として、下の意をいふゴあらず、たゞ、歌の調べのたらぬをとりいへるより起りて、かたへを、詞を飾るものゴて、いはれ異なり、かの「枕ざうし」歌枕」などいふを思へど、その頃ゴいへりしなり、(下畧)

○枕詞ノ用法ハ、實ニ國語ニ特別ナルモノニテ、名詞、動詞、形容詞、副詞、等、其冠スベキ語モ、種種ニシテ、其所用モ、唯、其冠スル語ニノミ係リテ、他語ニ係ラズ、故ニ、文章上、言類ノ分解(Parsing.)ニ當リテハ、二語ヲ一熟語ト見テ解クベキモノトスベシ。

接頭語　發語

接頭語(Prefix.)ハ、常ニ他語ノ頭ニ接キテ、熟語トナリテ、其意義ヲ添フル語ナリ、サレバ、固ヨリ獨立ニハ用ヰラレズ。　接頭語ノ數、甚ダ多カラズ、又、一定ノ慣用法アリテ、何レノ語、皆、冠ラスベキニアラズ。今、左ニ、其著キモノヲ擧ゲテ、其用例ノ一斑ヲ示サム。

「初春」「初花」「初音」「初穂」　「初事」「初冠」「初學」「初立つ」　「新參り」「新枕」「新墾」　「小車」「小舟」「小川」「小篠」「小止む」「小暗し」　「小家」「小松」「小路」「小暗し」「小高し」　「御代」「御位」「御心」「御燈」「大御」「御」　「眞心」「眞白」「眞直中」　「素腹」「素肌」「素顏」　「生絹」「生紙」「生藥」　「僻目」「僻事」「僻讀ミ」　「曲者」「曲舞」「曲事」　「えせ者」「えせ車」「えせ法師」　「幾年」「幾世」「幾久し」　「異國」「異人」　「諸手」「諸人」「諸聲」　「彌增す」「彌遠し」「彌高し」　「逸先」「逸早し」　「ほの見や」「ほの聞や」「ほの暗し」　「屢たび」「屢吹く」ナドナリ。

○漢語ノ「不義」「不本意」「無位」「無慈悲」「第一」「第二」「當年」「當代」「數人」「數年」「諸事」「諸書」「衆人」「衆僧」ナドモ、接頭語ナリ。

發語

某語ヲ言ハムトスルヰ、首ニ加ヘテ發スル聲ナリ。　其聲、皆、一音ニシテ、大抵ハ、意義無ク、或ハ、稍、其下ノ語意ヲ強クスルガ如キモノアリ。　而シテ、其用例、亦、局レル所アリ、左ニ、其著キモノヲ示ス。

「さ夜」「さ衣」「さ男鹿」「さ渡る」「さ迷ふ」　「み吉野」「み熊野」「み山」「み空」「み雪」「み坂」「み岬」　「を簾」「を田」「を野」

「け劣る」「け亮と」「け壓る」「け短し」「け長し」「け近し」「け恐し」「け疎し」
「い行く」「い向ふ」「い座す」「い渡る」「い通ふ」「い觸る」
「た忘る」「た比ぶ」「た謀る」「た走る」「た徘徊る」「た靡く」「た弱し」「た易し」「た遠し」
「か易し」「か弱し」「か黒し」「か細し」

接尾語

接尾語（SUFFIX）ハ、常ニ他語ノ尾ニ接キテ熟語トナルモノニテ、他語ヲ名詞トスルアリ、動詞トスルアリ、形容詞トスルアリ、副詞トスルアリ、而シテ、亦、漫用スベカラズ、スベテ、慣用ノ例ニ據ルベシ。

○他語ニ接キテ、名詞トスルモノハ、

「ども（共）」物事ノ數アルヲ總ベテイフ。次ノ二語モ同ジ。「物ども」「事ども」「調度ども」「馬ども」「舟ども」「男ども」

「たち（達）」專ラ人ニイフ。「皇子たち」「親たち」「大臣たち」「公だち」「友だち」

「ばら（儕）」亦、人ニイフ。「殿ばら」「法師ばら」「女ばら」「奴ばら」

「ごち」互ニ夥伴ナル意ヲイフ（俗ノごしハ、此轉ナリ）「友ごち」「女ごち」「我れごち」「思ひごち」「思ふごち」「思えむごち」「若きごち」「年歴ぬるごち」「さるべきごち」「さるまじきごち」（千代ノごち）

「ら（等）」「我ら」「汝ら」「是ら」「夫ら」「少女ら」「成信重家ら、出家し侍りける比」

「ふど」「月花ふどのながめよ」「貫き賤しきなど、さまざまなる」「院の御さとゝきより、千賀の鹽釜などやうの御消息、をかしき物など、持てまゐりかよひたるなども、めでたし」（枕草子）

○此語ハ、名詞ト合シテ、下ニのなど等ヲ履ムコト、他語ヲ副詞トスルなどヤ後ニ擧グノ、直ニ動詞ニ係ルト異ナリ。又、あと思ふらむナドノなどハ、眞ノ副詞ナリ。混ズベカラズ。

以上二語ハ、物事ノ數アルヲ示シ、而シテ、其數ノ限リヲ列ヲタンニモイヒ、（內等）其外ニモアルヲ畧スルニモイフ。（外等）

げ（氣）以下三語、皆、事物ノ形狀、情態ナイフ。「人げ（外げ）心ありげ（物思ひげ）思ふすげ（惡げ）重げ（惜しげ）」

さ（狀）「遠さ（深さ）善さ（惡しさ）悲しさ（嬉しさ）逢ふさ（離るさ）行くさ（來さ）歸るさ（入るさ）」

み「深み（高み）青み（赤み）重み（輕み）無み」

○此ノさトみトニ就キテハ、形容詞ノ語根ノ條ニモ說ケルコトアリ、尙、其條ヲ見ヨ。

か（日）日ヲ數フルニイフ。「二か（五か）二十か（三十か）五十か（百か）幾か」

へ（邊）邊ナイフ。「山へ（川へ）磯へ」

へ（部）群ナイフ。「忌へ（物のへ）下へ」

へ（方）方角ナイフ。「後へ（行へ）片へ」

へ（重）重ナイフ。「三へ（十へ）二十へ（十へ）幾へ」

わ（曲）隱リタル所ナイフ。「浦わ（川わ）外わ（內わ）郭わ」

り「たり（人）人ヲ數フルニイフ。「一り（二り）三たり（四たり）幾たり」

て（人）人ナイフ。「射て（讀みて）爲て」

○漢語ノ「何輩（何等）一箇（二號）三番（四荷）五匹（六枚）七帖（八束）九段（十通）」ナド用ヰルモノ、皆、是レナル

ベシ。

○他語ニ接キテ、動詞又ハ、形容詞トスルモノハ、

めく　自動詞トシテ、「その如くふる」ナドイフ意ナナス、變化ハ、規則第一類ナリ。「今めく」時めく、春めく、唐めく」

物化めく」山里めく」時雨めく」ほのめく」

めかす　めくノ他動ナリ、變化ハ、規則動詞ノ第一類ナリ。「今めかす」時めかす」色めかす」物めかす」ほのめかす」

ばむ　「狀態のそれとあらもるる」意ナイフ、自動ニテ、規則動詞ノ第一類變化トナル。「心むむ」けさうむむ」老いむむ」

けしきむむ」枯れむむ」由むむ」

がる　「と思ふ」ナドノ意ナナス、自動詞、規則第一類ノ變化ナリ。「嬉しがる」かしがる」悲しがる」賢がる」寒がる」

あはれがる」艶がる」情がる」懇がる」

ぶ　自動ニテ、「その如くなてあり」ナドノ意ナナス、變化ハ、規則動詞第三類ナリ。

「大人ぶ」古ぶ」田舍ぶ」鄙ぶ

る」都びて」翁びて」けさうびて」尋常びくり」いとさらびくる」

がまし　形容詞第二類ノ變化トナリテ、「の如し」ト似る嫌ひあり」ナドノ意ナイフ。

「隔てがまし」かたとがまし」

烏滸がまし」散樂がまし」

○其他、尙ア　ベシ、希フノ意ノ「行きたし」見たし」形容詞第一類變化」其狀ナル意ナイフ、「男らし」女らし」

（同第二類）其風スル意ノ「學者ぶる」利口ぶる」規則第一類）ノたしらしぶるナドモ、是レナリ。

○他語ニ接キテ、副詞トスルモノハ、

かてら　語原ハ「糅テ雜フル」ノ意、事ノ彼此ニ渉ル意ヲ示ス。「秋の野も見給ひかてら、雲林院ま詣で給へり」け

しきも見がてら、雪を打拂ひつつ」山川を、導しがてら、まづや渡らむ」脱きかへがてら、夜おそハ着め」かゝみがてらは、着ふむとぞ思ふ」我宿の、花見がてらは、來る人を」御子日がてら、まゐり給へかし」

ふがら　語原ハ「長ら」ニテ、延ブル意アルベシ。

○「そのまま」それおめは」ノ意ナルハ、「一年も、春ふがらはも、暮れふふむ」昔しふがらの、山櫻哉」さいふがら、かしづきすゑて」御簾の内ふがら、宣ふ」御子とも、六人ふがら、引連れて」枝ふがら、見よ」

○「ふれども」(乍)ノ意ナルハ、「我心ふがら、かかる筋はおほけふと」心ふがら、胸いたと」身ふがら、心はえまかすまゞとふむ」身の程はもあらずふがら」春ふがら、雪ぞ降りつつ」さりふがら」思ひふがら」志かしふがら」

○「つつ」又ハ、「且」ナドノ意ヲナスハ、「歩ミふがら見ル」讀ミふがら考フ」

がては　「難氣は」ノ約マレルニテ、事ノ成リ難クアル意ヲ示ス。「白露の、溜れむがては、秋風ぞ吹く」泡雪の、溜れむがては、砕けつつ」ふとか我身の、出でがてはする」時鳥、我宿をしも、過ぎがては啼く」行きがてはのみ、ふとかふるらむ」

歸りがてして、別れを惜む」

ばかり(許)「計」ノ義ニテ、程限ナイフ。(第一類天爾波ニ同語アレド、用法異ナリ)

○程ノ意ナルハ、「ひえの山をはたちむかり、重ねあげたらむ程して」我むかり、物思ふ人を、まるもあらド」我むかり、我を思ふむ、人もがふ」あかつきむかり、憂きものをふし」櫻むかりの、花無かりけり」三年むかり歴て」いかむかり」

「人は思ふれむむかり、めでたき事ハあらド」泣きぬむかり言へぞ」よるべとすむかりは」死ぬむかりふる」死ぬるむかりは」人目は見やるむかりは」

動詞、助動詞、ノ第一變化、第二變化、何レニモ連續ス。

○頃ノ意ナルハ、「宵打過ぎて、子の時むかりは」今宵むかりや、と待ちけるさまふり」その日むかりは、御迎へまゐり來

む」八月十五日でがりの月よ」入相でがり」何時でがり」

・がら「故ニ」ノ意ナリ、古言、故ノ轉ナラム。（よりノ意ノからト異ナリ）「いとふびんがる人から、仲忠の朝臣とひとしくふむ、形心身のさえ侍り」（うつぼ）「聞き馴れ侍りける耳からよや」をしむから、戀しきものを」吹くからよ、ふべて草木の忘るれど」相見むからよ」取りしからよ」さるからよ」

おとよ（毎）語原ハ「異よ」ノ意カ、物事ノ、各、然ル意ヲ示ス、「春おとよ咲く」咲くおとよ見る」人おとよ言ふ」年おとよ」日おとよ」

づつ（宛）一箇、二箇ノ箇ヲ重ヲタル語ナラム、各、宛ノ意ヲ示ス、「とりのおを、十づつ十ハ、重ねども」袈裟、衣、ふど、すべてひとくだりの程づつ、ある限りの大ごとだちよ賜ふ」下もみち、一葉づつ散る、木のもよ」かくそしづつ、見るよ」少しづつ語り聞えたまふよ」

まるまるよ　打任スル意ヲ示ス。「任ニ」ヲ重用シテ約ノタタル語ナレド、別ニ一種ノ用法ヲナス。「秋霧の、晴るるまるまる、見渡せど」聲のまるまる、尋ねるど」語るまるまる聞く」欲しきまるまる取る」山風の吹きのまるまる」

ふど（抔）「何ど」ノ中畧ナラム、一ニ定メズ、大畧ヲ指シ示ス意ノモノナリ。（他語ヲ名詞トスルふどハ、前ニ擧ゲタリ）「何事ぞふど問フ」行くべしふど言ふ」悲しふど言もむかさふし」馬にふど乘りて」

がり（許）「の許よ」ノ意ナリ。「文ハ、大輔がり遣れ」と宣ふ」紀の有恒がり行きたるよ」若草の、つまがりとへど」妹がり行けど」供の者具して、國司のがり向ひぬ」女のがり行きて」撫子を人のがりつかをしける」（伊豆の守の女よて居たりけるがりよ、文やる」故左衛門がりも、後よ物ふどつかをしたれど」）

すがら「盡ルルマデ」ノ意ナリ。「夜すがら、いをねず」春の日すがら、まだぞ忘れぬ」夜もすがら眠らず」（夜をすがらよ、起

き居つつ」秋の夜を、聲もすがらよ、あくる松蟲」

すがら　「ふがら」ノ意ナリ。（直從ノ約カ）「行くすがら、心もやすず」秋霧の、立ちぬるすがら心あてよ」「路すがら」身すがら」

佩せる太刀すがら

○以上、其著キモノナリ。又「夜ノ明クルかた、起キ出デテ」元祿十年おろ起りたる」老ユルほど壯ナリ」年ほど大ナル」足ルくらゐ取ル」馬ぐらゐ捷シ」出來タルだけ送ル」是レだけアル」ナド用ヰル頃、程、位、丈モ、是レナリ

○「明る」「靜る」「誠る」「常る」「丁寧る」「心切る」「頻りる」「盛りる」「案ぜる」、或ハ「はらはらと」「ほとほとと」ナド、副詞ノ語末ニ用ヰルる又ハとモ接尾語ナルベシ。

○右ニイヘル他語ヲ副詞トスル接尾語ノがてら、あがら、からはかり等ハ、天爾遠波ノからだに、さへ、のみ、ばかりナドト、同趣ノモノナルガ如ク見ユレド、用法異ナリ、委シクハ、前ノ天爾遠波ノ條末ニ辨ジオケリ

○

右、語法指南ハ、「日本文典中ノ、此辭書ヲ使用セムニ、「要アリト思ハルル所ノミヲ、「摘錄シタルモノナリ。サレバ、若シ、コレヲ一部ノ文典ト認ムルヿモアラバ、必ズ、事足ラズ思フ所モアラム、唯、善ク摘錄ナルヿヲ察スベシ。但シ、始衷終、條條ノ叙述ニ於テ、詳畧、釣合ハヌガ如ク見ユル所モアレド、助動詞、天爾遠波等ニ至リテハ、頗ル錯雜セルモノナレバ、叙述モ亦簡ナルヿ能ハズ、「言フベキホドノ事ハ、「言ハザルヲ得ザルニ因レリ、又此意ヲモ諒セヨ

（完）